

独立行政法人 農畜産業振興機構
養豚経営安定対策補完事業

養豚農業実態調査報告書

(全国集計結果)

令和2年度

令和3年3月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

はじめに

養豚農業実態調査は、養豚業におけるコスト削減や生産性向上の取組等の実態把握・分析をすることにより、養豚経営の体質強化に資することを目的に、農林水産省所管の独立行政法人農畜産業振興機構からの補助を受けて実施するもので、養豚生産者を対象に実施しました。

令和2年度の本調査では、「都道府県にある養豚生産者組織」及び「(一社)日本養豚協会」が把握している全養豚生産者に対し調査票(3,065件)を配布し、回答をいただきました。回答が得られたのは924件でした。このうち、経営中止、休業等の無効回答及び廃業を除いた860経営体(廃業予定を含む)について全国、地域別、子取り用雌豚頭数規模別等で集計・分析したものです。

基礎的な経営実態をみるため、経営形態、従業員数、後継者の有無、種豚頭数、飼養頭数、事故率、肉豚出荷状況、共済への加入の有無、人工授精の実施状況、経営の動向、など定型設問のほか、最近課題となっている給与飼料、衛生管理、環境対策、アニマルウェルフェア、豚肉輸出、農場HACCP・GAP、豚熱ワクチン等について調査を行いました。

この調査結果が、養豚生産者の方々の今後のコスト削減や生産性向上のための参考として活用いただければ幸いです。

この報告書を作成するに当たり、調査に回答いただきました養豚経営者の方々、また、調査の御指導、調査票の回収及び記入内容のチェック等に御尽力いただきました方々に深謝申し上げます。

令和3年3月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

■ 調査結果の概要

令和2年度の調査は、「都道府県にある養豚生産者組織（以下「都道府県養豚協会」という）」及び「（一社）日本養豚協会」が令和2年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象に調査を実施した。

本年度調査の令和2年度調査は、令和元年度と同様に原則経営体単位で集計した。

なお、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答経営体数を上回る場合がある。また、同じ項目でありながら回答数、回答経営体数に差異が生じているのは、クロス集計（経営タイプが一貫生産の子取り用雌豚頭数規模別の事故率等）の場合、対応する項目の回答数、回答経営体数が異なることによるものである。

□ 1. 調査回答状況

令和2年度の調査は、都道府県養豚協会及び当協会が令和2年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象(3,065件。前年度調査において調査票を配布し回答がなくても廃業報告がなされなかった者を含む)に調査を実施した。

回答が得られたのは924件（廃業等を含む）で、全国集計結果の集計に使用したのは回答の中から廃業報告や経営中止、休業等の無効回答を合わせた64経営体を除いた860経営体である。

（注）経営体数は、農場を複数有し複数の都道府県に所在する経営体については都道府県ごとにカウントした。ただし、当該経営体が複数県まとめて回答してきた場合は1経営体としてカウントした。

□ 2. 経営関係

（1）経営形態

| 経営形態A | 割合 |
|------------------------|------|
| 個人経営（家族労働主体） | 35.0 |
| 法人経営（農事組合法人・有限会社・株式会社） | 60.3 |
| 上記以外の法人経営 | 0.4 |
| 農業協同組合法人（農協等）の直営養豚場 | 1.3 |
| その他（都道府県、公益法人、学校法人等） | 3.1 |

(%)

| 経営形態B | 割合 |
|--------------------------|------|
| 会社、農協、民間養豚場等の契約・預託農場である | 9.3 |
| 会社、農協、民間養豚場等の契約・預託農場ではない | 90.7 |

(%)

（2）経営タイプ

| 経営タイプ | 割合 |
|-------|------|
| 一貫経営 | 84.5 |
| 肥育経営 | 10.0 |
| 繁殖経営 | 5.5 |

(%)

□3.従事者について

従事者数に回答があったのは770経営体で、従事者数合計は7,633人である。

従事者数の内訳は、家族1,390人、常勤雇員5,648人、非常勤雇員135人、その他（豚肉加工、販売等）460人である。1経営体当たりの合計平均従事者数は10.1人、家族2.7人、常勤雇用11.3人、非常勤雇用1.5人、その他12.1人である。

□4.後継者について

| 後継者の有無 | 割合 | 平均年齢 |
|----------------------|------|------|
| 決まっている | 27.7 | 36.7 |
| 対象者はいるが、現在は決まっていない | 16.7 | 25.4 |
| 自分の年齢が若いので考えていない | 15.6 | - |
| 後継者はいない・後継者は考えていない | 22.8 | - |
| 経営形態が後継者と関係ない（株式会社等） | 17.2 | - |

(%) (歳)

□5.飼養頭数について

子取り用雌豚の全頭数は285,092頭で、そのうち純粋種は52,237頭（18.3%）、交雑種は232,855頭（81.7%）である。交雑種の内訳は、LW:33.9%、WL:20.0%、LW・WLいずれか:23.7%、その他の組合せ:3.5%、海外ハイブリッド:18.7%である。

種雄豚の全頭数は8,331頭で、そのうち純粋種は6,888頭（82.7%）、交雑種は1,443頭（17.3%）である。

□6.肉豚の出荷状況（令和元年8月～令和2年7月）

| | |
|----------------|----------|
| 肉豚出荷日齢平均（生後日齢） | 182.4日齢 |
| 平均出荷時体重 | 113.6kg |
| 平均枝肉重量 | 75.6kg |
| 1日平均増体重 | 622.8g/日 |

□7.繁殖・肥育等の成績（令和元年8月～令和2年7月）

| | |
|----------|-------|
| 平均哺乳開始頭数 | 11.2頭 |
| 平均離乳頭数 | 10.2頭 |
| 平均育成率 | 90.6% |
| 平均分娩率 | 85.7% |
| 母豚回転数 | 2.2回 |

□8.家畜共済の加入状況について

家畜共済の加入率は全体の36.7%。共済に加入していない理由は「掛金に対して支払が見合わない」が43.0%で最も高い。

□9.交配について

自然交配のみが27.0%、人工授精のみが43.4%、自然交配と人工授精の併用が29.6%となっている。

自然交配での回数は「2回」が76.8%、「3回」が12.7%の順。人工授精では「2回」57.6%、「3回」41.3%の順。自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工授精2回」が46.6%と高くなっている。

自然交配のみが27.0%、人工授精のみが43.4%、自然交配と人工授精の併用が29.6%となっている。

人工授精における深部注入の実施については、「全て深部注入」30.5%、「深部注入と普通の人工授精を併用」26.3%、合わせて56.8%と半数の農場で実施している。

□10.飼料について

| 給与飼料 | 割合 |
|---------------|------|
| 市販配合飼料のみ | 82.8 |
| 市販配合飼料+自家配合飼料 | 12.7 |
| 自家配合飼料のみ | 4.5 |

(%)

| 給与飼料内容 | 割合 |
|--------------|------|
| 配合飼料 | 95.3 |
| エコフィード利用配合飼料 | 0.5 |
| 飼料用米利用配合飼料 | 0.7 |
| 飼料用米 | 0.0 |
| 子実用トウモロコシ | 0.1 |
| エコフィード | 0.3 |
| 食品残さ | 3.0 |
| その他の単味飼料 | 0.1 |

(%)

□11.経営の推移と今後の動向

飼育頭数の推移

繁殖豚では、「増やした」経営体が9.4%で、前年度の12.3%より2.9ポイント減少している。「減らした」は14.4%と、前年度の13.7%より0.7ポイント増加。「変更していない」は73.4%となっている。頭数では、「増やした」が8,703頭、「減らした」が6,363頭で全体で2,340頭増加している。

肥育豚では、「増やした」経営体が9.4%、「変わらない」が83.5%、「減らした」が6.3%である。頭数では、「増やした」が50,860頭、「減らした」が30,204頭で20,656頭増加している。

今後の養豚経営の意向

「経営を拡大する」が26.3%と前年度より6.2ポイント減少、「現状維持」が66.3%と前年度より8.6ポイント増加、「経営を縮小」が7.5%と前年度より2.3ポイント減少している。経営者の年代別では、「規模拡大予定」は「20・30才代」で53.6%、「40代」で32.1%と若年層が目立って高い。「規模縮小予定」では、「70代～」で14.4%が目立った。

□12.衛生管理について

飼養衛生管理基準の改正については「認知」が93.0%と9割以上。改正内容の理解についても「なんとなく分かる」が52.3%、「十分に理解している」が40.5%と、合わせて92.8%が理解を示している。

実施している衛生管理方法の上位は「豚舎出入口に踏み込み消毒槽を設置」が88.5%、次いで「入退場車両の消毒を行っている」が86.5%、「長靴の靴底の洗浄・消毒を行っている」が86.3%行われている。

オールイン・オールアウトの実施は、全部実施17.5%、一部実施35.5%と合計で53.0%が実施している。

□13.アニマルウェルフェアについて

アニマルウェルフェアの取り組みの状況については、アニマルウェルフェアを「認知している」が79.6%、「知らない」が20.4%。

認知者の内容は「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針を知っている」が53.3%、「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針を知らない」26.3%となっている。

□14.農場HACCP等について

農場HACCP等認証の導入有無では、「導入している」13.3%と、前年度の16.3%より3.0ポイント減少している。

導入・取得済みの認証では「農場HACCP」88.9%、「JGAP家畜・畜産物」26.7%、「SQF等、その他の認証」8.9%となっている。認証未導入・未取得の場合の今後の意向では、「導入・取得の予定はない」が61.6%。「現在申請中」は2.7%。




□15.豚熱ワクチンについて

豚熱ワクチンの接種率は、「接種している」49.9%、「接種していない」50.1%とほぼ半々。接種意向は、「全国」で「接種範囲に指定されればしたい」63.7%、「接種範囲に指定されなくてもしたい」8.9%、「接種したくない」27.4%。

地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響は、「種豚購入」36.8%、「肉豚出荷」22.8%、「精液購入」16.7%。豚熱ワクチンの接種に対する考え方は、「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」46.4%、「全国で接種すべきである」53.6%。

| | |
|---------------------|------|
| ■ 1.調査回答状況 | P.7 |
| ■ 2.経営関係 | P.8 |
| ■ 3.従事者について | P.10 |
| ■ 4.後継者について | P.12 |
| ■ 5.飼養頭数について | P.13 |
| ■ 6.肉豚の出荷状況 | P.18 |
| ■ 7.繁殖・肥育等の成績 | P.20 |
| ■ 8.家畜共済の加入状況について | P.24 |
| ■ 9.交配について | P.25 |
| ■ 10.飼料について | P.28 |
| ■ 11.経営の推移と今後の動向 | P.35 |
| ■ 12.衛生管理について | P.44 |
| ■ 13.アニマルウェルフェアについて | P.47 |
| ■ 14.農場HACCP等について | P.51 |
| ■ 15.豚熱ワクチンについて | P.54 |
| ■ 付帯資料:養豚農業実態調査票 | |

■ 数表上の表記について

| | |
|---|---------------------------|
|  | 全体より5%以上高いスコアにマーキング |
|  | 全体より5%以上低いスコアにマーキング |
|  | N数が10未満のため参考値 |

注:集計結果は小数点1位で四捨五入して算出しているため、
合計値が必ずしも100%にはならない

■ 1. 調査回答状況

□ 地域別・規模別回答状況

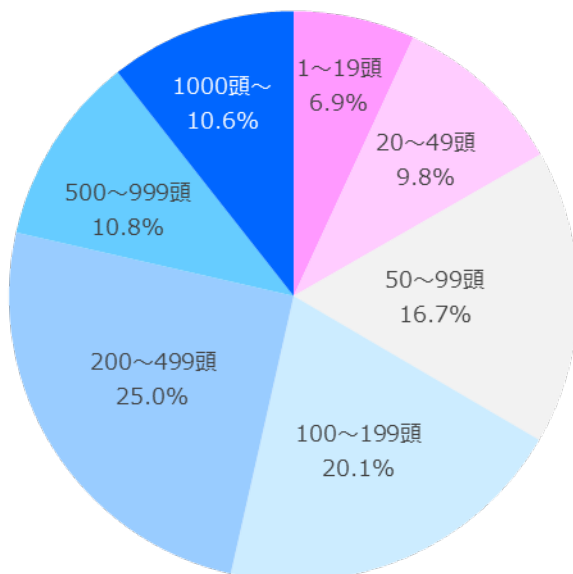
- ① 令和2年度の調査(令和2年8月1日現在)は、「令和元年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者または農場責任者」と「都道府県養豚協会等が確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象として3,065経営体に行い、回答が得られたのは924経営体である。
- ② 集計に使用したのは 廃業報告や経営中止、休業等の無効回答を合わせた64経営体を除く860 経営体である。
- ③ 経営者の平均年齢は59.6歳で、前年より0.7歳高くなった。地域別では、最も平均年齢が高いのは「中国・四国」の63.0歳、最も低いのは「北海道・東北」の58.3歳となっている。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「200～499頭」が25.0%、出荷頭数規模別では「4,000～9,999頭」が23.3%と最も多い。

[表1] 回答状況・経営者性別・年齢：地域別 (N=924)

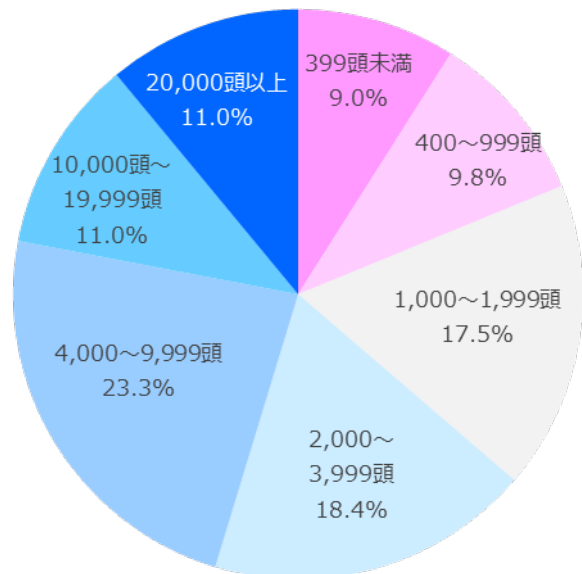
| | 回答数 | 廃業報告 | 無効回答数 | 有効回答数 | 回答者の性別 | | | 平均年齢 |
|--------|-----|------|-------|-------|--------|----|----|------|
| | | | | | 男性 | 女性 | 不明 | |
| 全国 | 924 | 63 | 1 | 860 | 847 | 24 | 53 | 59.6 |
| 北海道・東北 | 209 | 7 | 0 | 202 | 200 | 5 | 4 | 58.3 |
| 関東 | 257 | 12 | 0 | 245 | 240 | 8 | 9 | 59.8 |
| 北陸 | 37 | 0 | 0 | 37 | 33 | 0 | 4 | 59.2 |
| 東海 | 104 | 12 | 1 | 91 | 99 | 1 | 4 | 59.7 |
| 近畿 | 17 | 2 | 0 | 15 | 12 | 0 | 5 | 62.1 |
| 中国・四国 | 55 | 2 | 0 | 53 | 49 | 0 | 6 | 63.0 |
| 九州・沖縄 | 245 | 28 | 0 | 217 | 214 | 10 | 21 | 59.8 |

(経営体数) (人) (歳)

[図1] 回答割合：子取り用雌豚飼養規模別 (N=625)



[図2] 回答割合：出荷頭数規模別 (N=642)



■ 2.経営関係

□ 経営形態

- ① 「法人経営」の割合が60.3% (482経営体)と最も高く、次いで「個人経営」の35.0% (280経営体)となっている。
- ② 地域別にみると全地域で「法人経営」の割合が一番高いが、「個人経営」の割合が高いのは「近畿」42.9% (6経営体)、「関東」40.5% (92経営体)。また「法人経営」の割合が高いのは「中国・四国」68.6% (35経営体)、「北海道・東北」68.4% (128経営体)となっている。

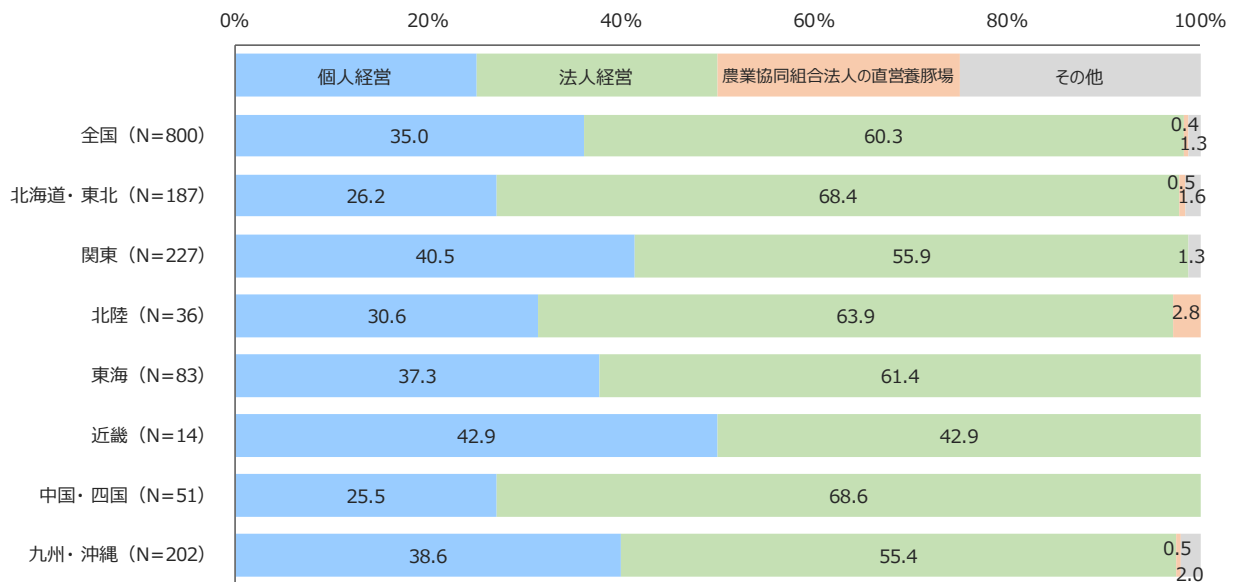
【表2】 経営形態：地域別 (N=800)

| | N= | 個人経営* | 法人経営** | それ以外の法人経営 | 農業協同組合法人 (農協等)の直営養豚場 | その他*** |
|---------|-----|-------|--------|-----------|-------------------------|--------|
| 全国 | 800 | 280 | 482 | 3 | 10 | 25 |
| うち契約・預託 | 71 | 35 | 32 | 0 | 3 | 1 |
| 北海道・東北 | 187 | 49 | 128 | 1 | 3 | 6 |
| 関東 | 227 | 92 | 127 | 0 | 3 | 5 |
| 北陸 | 36 | 11 | 23 | 1 | 0 | 1 |
| 東海 | 83 | 31 | 51 | 0 | 0 | 1 |
| 近畿 | 14 | 6 | 6 | 0 | 0 | 2 |
| 中国・四国 | 51 | 13 | 35 | 0 | 0 | 3 |
| 九州・沖縄 | 202 | 78 | 112 | 1 | 4 | 7 |

(経営体数) (経営体数)

*家族労働主体 **農事組合法人、有限会社、株式会社 ***都道府県、公益法人、学校法人等

【図3】 経営形態：地域別 (N=800)



□ 経営タイプ

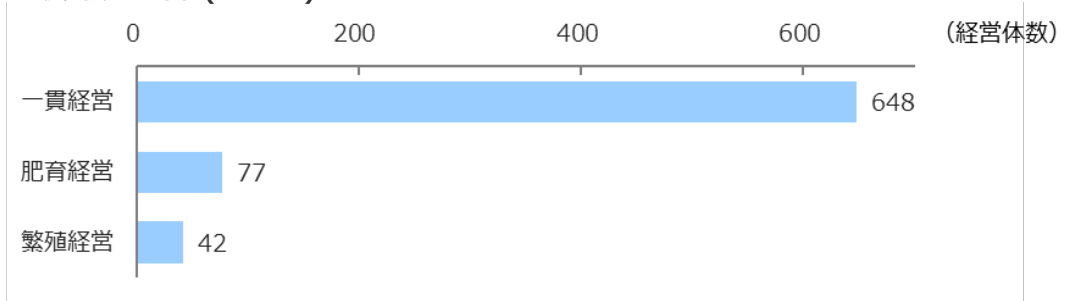
- ① 経営タイプでは、「一貫経営」が最も多く、次いで「肥育経営」、「繁殖経営」となっている。
マルチサイト経営に取り組んでいる農家は154経営体で、内訳は「【肥育】肥育豚」の農場が140と最も多く、繁殖経営の内訳では「子取り用雌豚(PS)」が77と最も多い。

[表3] 経営タイプ：地域別 (N=767)

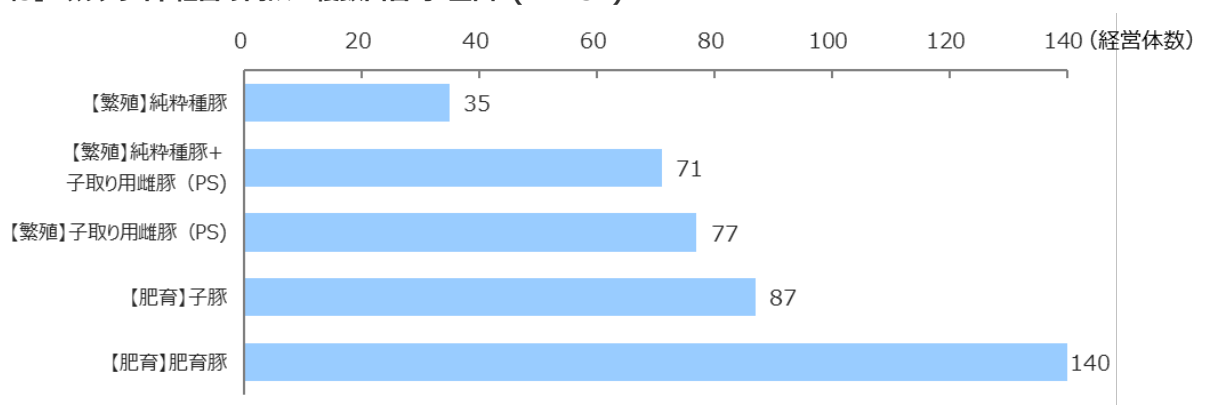
| | N= | 一貫経営 | 肥育経営 | 繁殖経営 |
|--------|-----|-------------|------------|-----------|
| 全国 | 767 | 84.5% (648) | 10.0% (77) | 5.5% (42) |
| 北海道・東北 | 179 | 84.9% (152) | 8.4% (15) | 6.7% (12) |
| 関東 | 220 | 90.5% (199) | 6.4% (14) | 3.2% (7) |
| 北陸 | 35 | 94.3% (33) | 2.9% (1) | 2.9% (1) |
| 東海 | 76 | 82.9% (63) | 11.8% (9) | 5.3% (4) |
| 近畿 | 14 | 57.1% (8) | 35.7% (5) | 7.1% (1) |
| 中国・四国 | 49 | 81.6% (40) | 14.3% (7) | 4.1% (2) |
| 九州・沖縄 | 194 | 78.9% (153) | 13.4% (26) | 7.7% (15) |

(経営体数) (% (経営体数))

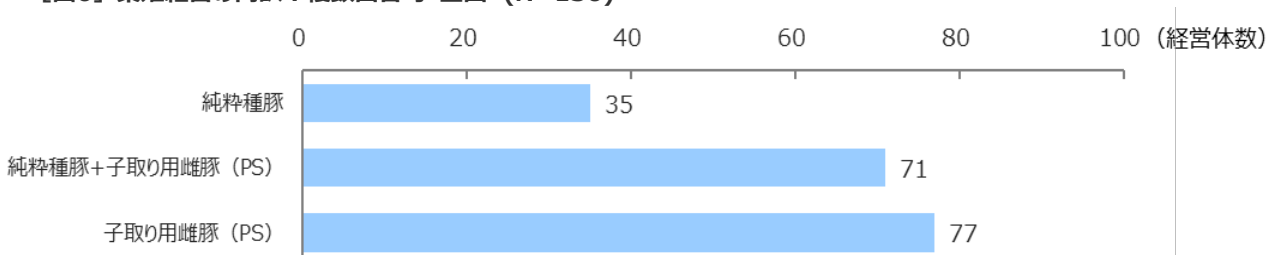
[図4] 肉豚生産農場数：全国 (N=767)



[図5] マルチサイト経営の内訳：複数回答可・全国 (N=154)



[図6] 繁殖経営の内訳：複数回答可・全国 (N=130)



■ 3. 従事者について

□ 従業員数

- ① 回答のあった経営体は770で、「常勤雇用」が最も多く5,648人、次いで「家族」1,390人だった。前年と比較すると「常勤雇用」627人増(前年比112.5%)、「家族」212人増(同117.9%)、「非常勤雇用」18人減(同88.2%)、「その他」66人減(同87.5%)、全体では755人増(同110.9%)となっている。
- ② 従事者の数については、「足りている」77.0%。前年の72.5%よりも4.5ポイント増。
- ③ 規模別の平均従事者数をみると、前年と比較して「20～49頭」は「その他」が増加、「50～99頭」は全ての従事者で増加、「500～999頭」と「1,000頭～」は家族労働以外ですべて減少している。

【表4】 雇用形態別養豚従事者人数：複数回答可・全国 (N=770)

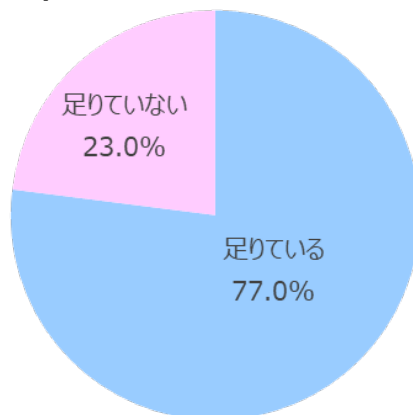
| | 合計 | 家族労働* | 常勤雇用** | 非常勤雇用*** | その他**** | |
|-------|--------|--------------|--------------|-----------|-----------|------------|
| 全体 | 770経営体 | 68.8 (530) | 66.0 (508) | 11.6 (89) | 4.8 (37) | (% (経営体数)) |
| 従事者合計 | 7,633人 | 18.2 (1,390) | 74.0 (5,648) | 1.8 (135) | 6.0 (460) | (% (人)) |
| 平均値 | | 2.7 | 11.3 | 1.5 | 12.1 | (人) |
| 最大値 | | 20 | 212 | 5 | 93 | (人) |
| 最小値 | | 1 | 1 | 1 | 1 | (人) |

*経営主本人、配偶者、子、孫、きょうだい、父母、祖父母等 **社員、契約社員、パート、アルバイト

必要な日、必要な時間で雇用 *豚肉加工・販売など担当

注：都道府県試験場、学校法人などは、飼養頭数と従事者の数値が一般的な養豚農場とは異なるため除外している

【図7】 従業員の充足度:全国 (N=751)



【表5】 雇用形態別養豚従事者平均人数：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=626)

| | N= | 家族労働 | 常勤雇用 | 非常勤雇用 | その他 |
|----------|-----|------|------|-------|------|
| 全体 | 626 | 2.7 | 11.3 | 1.5 | 12.1 |
| 1～19頭 | 28 | 1.8 | 2.0 | 2.0 | 3.0 |
| 20～49頭 | 59 | 2.3 | 3.5 | 0.7 | 26.0 |
| 50～99頭 | 108 | 2.6 | 2.2 | 1.8 | 2.3 |
| 100～199頭 | 131 | 2.9 | 3.1 | 1.1 | 6.0 |
| 200～499頭 | 162 | 3.2 | 6.3 | 1.7 | 8.3 |
| 500～999頭 | 70 | 2.9 | 13.0 | 1.6 | 1.3 |
| 1,000頭～ | 68 | 3.4 | 43.2 | 2.1 | 35.4 |

(経営体数)

(人)

【表6】雇用形態別養豚従事者：複数回答可・地域別 (N=770)

| | N= | 家族労働 | 常勤雇員 | 非常勤雇員 | その他 |
|--------|-----|------|------|-------|------|
| 全国 | 770 | 2.7 | 11.3 | 1.5 | 12.1 |
| 北海道・東北 | 179 | 2.6 | 12.1 | 1.3 | 9.6 |
| 関東 | 221 | 2.6 | 9.7 | 1.7 | 18.1 |
| 北陸 | 35 | 2.6 | 11.6 | 1.3 | 5.0 |
| 東海 | 82 | 3.0 | 7.3 | 1.5 | 6.0 |
| 近畿 | 12 | 2.3 | 4.7 | 2.0 | 3.0 |
| 中国・四国 | 45 | 2.7 | 11.6 | 1.0 | 10.5 |
| 九州・沖縄 | 196 | 2.6 | 14.7 | 1.4 | 15.3 |

(経営体数) (人)

【表7】雇用形態別養豚従事者平均人数：子取り用雌豚飼養規模別 (N=644)

| | N= | 家族労働のみ | 家族労働と常勤雇員 | 家族労働と非常勤雇員 | 家族労働と常勤雇員と非常勤雇員 | 常勤雇員のみ | 常勤雇員と非常勤雇員 | 非常勤雇員のみ |
|----------|-----|-----------|-----------|------------|-----------------|------------|------------|---------|
| 全体 | 644 | 2.5 (181) | 9.5 (197) | 3.8 (11) | 18.5 (50) | 16.6 (190) | 22.7 (14) | 1.0 (1) |
| 1～19頭 | 40 | 1.7 (24) | 4.7 (3) | 5.0 (1) | - | 3.0 (12) | - | - |
| 20～49頭 | 64 | 2.4 (42) | 5.4 (5) | 2.7 (3) | 32.5 (2) | 4.2 (8) | - | 1.0 (1) |
| 50～99頭 | 109 | 2.7 (66) | 4.0 (28) | 6.3 (3) | 4.0 (1) | 4.4 (10) | 5.0 (1) | - |
| 100～199頭 | 131 | 3.0 (41) | 5.7 (53) | 3.3 (4) | 7.4 (10) | 5.9 (20) | 4.0 (3) | - |
| 200～499頭 | 162 | 4.3 (7) | 8.3 (76) | - | 10.3 (20) | 9.2 (55) | 8.5 (4) | - |
| 500～999頭 | 70 | 3.0 (1) | 12.7 (15) | - | 15.1 (9) | 14.9 (44) | 11.0 (1) | - |
| 1,000頭～ | 68 | - | 35.6 (17) | - | 58.6 (8) | 48.5 (41) | 117.5 (2) | - |

(経営体数) (人 (回答者数))

【表8】雇用形態別養豚従事者平均人数：地域別 (N=790)

| | N= | 家族労働のみ | 家族労働と常勤雇員 | 家族労働と非常勤雇員 | 家族労働と常勤雇員と非常勤雇員 | 常勤雇員のみ | 常勤雇員と非常勤雇員 | 非常勤雇員のみ |
|--------|-----|-----------|-----------|------------|-----------------|------------|------------|---------|
| 全国 | 790 | 2.5 (243) | 9.5 (219) | 3.8 (16) | 18.5 (52) | 16.6 (236) | 22.7 (21) | 1.0 (3) |
| 北海道・東北 | 185 | 2.5 (42) | 10.5 (41) | 7.0 (2) | 15.9 (16) | 15.9 (78) | 13.0 (5) | 1.0 (1) |
| 関東 | 226 | 2.6 (70) | 10.2 (80) | 3.7 (3) | 29.2 (14) | 12.8 (54) | 7.0 (4) | 1.0 (1) |
| 北陸 | 36 | 2.3 (15) | 5.4 (9) | - | 9.0 (3) | 26.3 (6) | 23.0 (3) | - |
| 東海 | 83 | 2.6 (25) | 9.5 (32) | 4.5 (2) | 14.3 (7) | 11.5 (15) | 10.0 (2) | - |
| 近畿 | 13 | 2.5 (2) | 3.0 (2) | 3.0 (3) | 13.0 (1) | 7.0 (4) | 5.0 (1) | - |
| 中国・四国 | 47 | 2.9 (14) | 7.6 (10) | 4.0 (1) | - | 15.8 (22) | - | - |
| 九州・沖縄 | 200 | 2.4 (75) | 8.9 (45) | 2.8 (5) | 14.5 (11) | 22.4 (57) | 51.6 (6) | 1.0 (1) |

(経営体数) (人 (回答者数))

■ 4.後継者について

□後継者について

- ① 回答のあったのは784経営体で、うち「決まっている」が27.7% (217経営体) で候補者の平均年齢は36.7歳、「対象者はいるが、現在は決まっていない」が16.7% (122経営体) で対象者の平均年齢は25.4歳。「後継者はいない・考えていない」が22.8% (179経営体) となっている。前年比でそれぞれ、0.9ポイント減、0.1ポイント減、4.1ポイント減となっている。
- ② 「経営形態が後継者と関係がない」は17.2%で、前年度の16.4%から0.8%減となっている。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、最も「(後継者が)決まっている」との回答が多かったのが100～199頭規模で、同規模では36.6%の農場で後継者が決まっている。逆に最も「後継者がない・考えていない」と回答したのは20～49頭規模で50.8%であり、半数以上に後継者がないとの結果が出ている。

[表9] 後継者の有無・平均年齢：全国 (N= 784)

| | 決まっている | 対象者はいるが、現在は決まっていない | 自分の年齢が若いので考えていない | 後継者はいない・考えていない | 経営形態が後継者と関係がない (株式会社等) | |
|----------|--------|--------------------|------------------|----------------|------------------------|-----|
| 回答経営体数 | 217 | 131 | 122 | 179 | 135 | |
| 割合 (%) | 27.7 | 16.7 | 15.6 | 22.8 | 17.2 | (%) |
| 年齢回答経営体数 | 213 | 115 | - | - | - | |
| 平均年齢 | 36.7 | 25.4 | - | - | - | (歳) |

[表10] 後継者の有無・平均年齢：子取り用雌豚飼養規模別 (N=639)

| | N= | 決まっている | 対象者はいるが、現在は決まっていない | 自分の年齢が若いので考えていない | 後継者はいない・考えていない | 経営形態が後継者と関係がない (株式会社等) | |
|----------|-----|------------|--------------------|------------------|----------------|------------------------|--|
| 全体 | 639 | 28.2 (180) | 17.8 (114) | 16.0 (102) | 21.8 (139) | 16.3 (104) | |
| 1～19頭 | 45 | 8.9 (4) | 4.4 (2) | 8.9 (4) | 37.8 (17) | 40.0 (18) | |
| 20～49頭 | 61 | 16.4 (10) | 16.4 (10) | 4.9 (3) | 50.8 (31) | 11.5 (7) | |
| 50～99頭 | 107 | 29.0 (31) | 25.2 (27) | 13.1 (14) | 29.9 (32) | 2.8 (3) | |
| 100～199頭 | 131 | 36.6 (48) | 21.4 (28) | 19.1 (25) | 20.6 (27) | 2.3 (3) | |
| 200～499頭 | 159 | 35.2 (56) | 13.8 (22) | 22.0 (35) | 15.1 (24) | 13.8 (22) | |
| 500～999頭 | 69 | 21.7 (15) | 20.3 (14) | 14.5 (10) | 5.8 (4) | 37.7 (26) | |
| 1,000頭～ | 67 | 23.9 (16) | 16.4 (11) | 16.4 (11) | 6.0 (4) | 37.3 (25) | |

(経営体数) (% (経営体数))

■ 5. 飼養頭数について

□ 子取り用雌豚

- ① 子取り用雌豚の全飼養頭数は285,092頭で、前年の280,434頭から4,658頭増となっている。そのうち「純粋種」は52,237頭(18.3%)で、前年度の16.2%から飼養割合が2.1ポイント増加。
- ② 「純粋種」で最も頭数が多かったのは「多産系母豚(TOPIGS・ダンブレッド等)」の19,041頭で、「純粋種」中の36.5%、全子取り用雌豚中の6.7%となっている。

[表11] 子取り用雌豚飼養頭数：地域別 (N=651)

| | N = | 総頭数 | 地域割合 | 純粋種 | 交雑種 |
|--------|--------|---------|-------|---------------|----------------|
| 全国 | 651 | 285,092 | 100.0 | 18.3 (52,237) | 81.7 (232,855) |
| 北海道・東北 | 156 | 81,455 | 28.6 | 11.2 (9,084) | 88.8 (72,371) |
| 関東 | 193 | 79,646 | 27.9 | 21.4 (17,073) | 78.6 (62,573) |
| 北陸 | 32 | 10,408 | 3.7 | 12.5 (1,301) | 87.5 (9,107) |
| 東海 | 62 | 16,670 | 5.8 | 35.7 (5,952) | 64.3 (10,718) |
| 近畿 | 8 | 1,051 | 0.4 | 5.9 (62) | 94.1 (989) |
| 中国・四国 | 42 | 15,232 | 5.3 | 2.7 (411) | 97.3 (14,821) |
| 九州・沖縄 | 158 | 80,630 | 28.3 | 22.8 (18,354) | 77.2 (62,276) |
| | (経営体数) | (頭数) | (%) | | (% (頭数)) |

[表12] 子取り用雌豚飼養頭数・品種別：地域別 (N=651)

| | 総頭数 | 純粋種 | | | | | | | |
|--------|---------|--------|-----------|------------|------------|-----------|----------|--------|-----|
| | | 純粋種計 | ランドレース /L | 大ヨークシャー /W | 中ヨークシャー /Y | パークシャー /B | デュロック /D | 多産系母豚 | その他 |
| 全国 | 285,092 | 52,237 | 9,923 | 9,022 | 136 | 11,695 | 2,158 | 19,041 | 262 |
| 北海道・東北 | 81,455 | 9,084 | 3,388 | 2,928 | 87 | 482 | 612 | 1,386 | 201 |
| 関東 | 79,646 | 17,073 | 1,622 | 1,405 | 45 | 305 | 349 | 13,347 | 0 |
| 北陸 | 10,408 | 1,301 | 302 | 875 | 3 | 0 | 119 | 2 | 0 |
| 東海 | 16,670 | 5,952 | 544 | 872 | 1 | 287 | 321 | 3,922 | 5 |
| 近畿 | 1,051 | 62 | 7 | 40 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 |
| 中国・四国 | 15,232 | 411 | 139 | 25 | 0 | 228 | 19 | 0 | 0 |
| 九州・沖縄 | 80,630 | 18,354 | 3,921 | 2,877 | 0 | 10,378 | 738 | 384 | 56 |
| | (頭) | | | | | | | | (頭) |

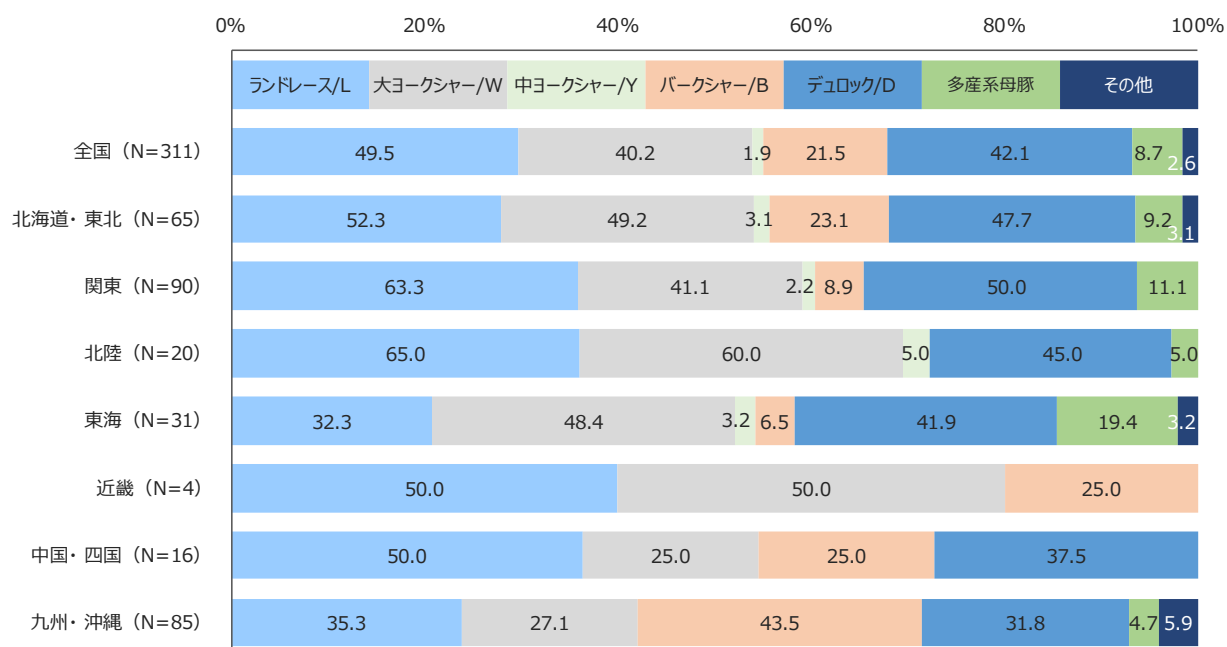
| | 交雑種計 | 交雑種 | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|---------------|----|-----|---------------|--------------|
| | | LW | WL | LW、WL いずれか | DB | BD | その他の 組み合わせ | 海外 ハイブリッド |
| 全国 | 232,855 | 78,939 | 46,652 | 55,240 | 2 | 197 | 8,234 | 43,591 |
| 北海道・東北 | 72,371 | 21,923 | 14,263 | 8,247 | 1 | 1 | 3,515 | 24,421 |
| 関東 | 62,573 | 23,975 | 11,991 | 23,140 | 0 | 5 | 928 | 2,534 |
| 北陸 | 9,107 | 1,771 | 5,092 | 687 | 0 | 0 | 1,557 | 0 |
| 東海 | 10,718 | 2,834 | 3,056 | 1,315 | 0 | 100 | 1,774 | 1,639 |
| 近畿 | 989 | 368 | 450 | 170 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 中国・四国 | 14,821 | 5,717 | 2,235 | 1,989 | 0 | 0 | 15 | 4,865 |
| 九州・沖縄 | 62,276 | 22,351 | 9,565 | 19,692 | 0 | 91 | 445 | 10,132 |
| | (頭) | | | | | | | (頭) |

【表13】 子取り用雌豚頭数：複数回答可・全国 (N=651)

| | | 合計 | 小計 | 純粋種 | | | | | | | |
|------------------|--------|---------|--------|----------|-----------|-----------|----------|---------|--------|------|-----|
| | | | | ランドレース/L | 大ヨークシャー/W | 中ヨークシャー/Y | パークシャー/B | デュロック/D | 多産系母豚 | その他 | |
| 全国回答数 (複数回答可) | 経営体数 | 1,154 | 518 | 154 | 125 | 6 | 67 | 131 | 27 | 8 | |
| | 回答割合 | | - | 23.7 | 19.2 | 0.9 | 10.3 | 20.1 | 4.1 | 1.2 | (%) |
| | 平均頭数 | | 155.5 | 64.4 | 72.2 | 22.7 | 174.6 | 16.5 | 705.2 | 32.8 | (頭) |
| 全国頭数 | 子取り用雌豚 | 285,092 | 52,237 | 9,923 | 9,022 | 136 | 11,695 | 2,158 | 19,041 | 262 | (頭) |
| | 頭数割合 | | 100.0 | 19.0 | 17.3 | 0.3 | 22.4 | 4.1 | 36.5 | 0.5 | (%) |
| | 全頭数割合 | 100.0 | 18.3 | 3.5 | 3.2 | 0.1 | 4.1 | 0.8 | 6.7 | 0.1 | (%) |

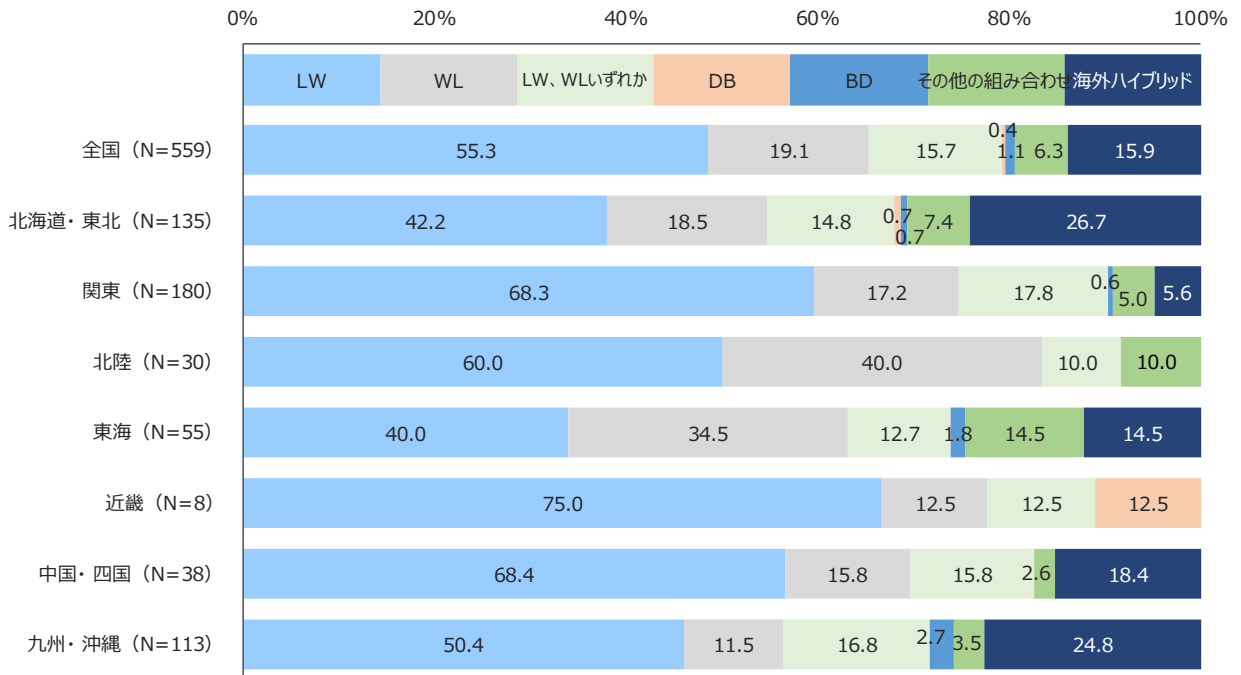
| | | 合計 | 小計 | 交雑種 | | | | | | | |
|------------------|--------|----|---------|--------|--------|---------------|-----|------|---------------|--------------|-----|
| | | | | LW | WL | LW、WL いずれか | DB | BD | その他の 組み合わせ | 海外 ハイブリッド | |
| 全国回答数 (複数回答可) | 経営体数 | | 636 | 309 | 107 | 88 | 2 | 6 | 35 | 89 | |
| | 回答割合 | | - | 47.5 | 16.4 | 13.5 | 0.3 | 0.9 | 5.4 | 13.7 | (%) |
| | 平均頭数 | | 296.9 | 255.5 | 436.0 | 627.7 | 1.0 | 32.8 | 235.3 | 489.8 | (頭) |
| 全国頭数 | 子取り用雌豚 | | 232,855 | 78,939 | 46,652 | 55,240 | 2 | 197 | 8,234 | 43,591 | (頭) |
| | 頭数割合 | | 100.0 | 33.9 | 20.0 | 23.7 | 0.0 | 0.1 | 3.5 | 18.7 | (%) |
| | 全頭数割合 | | 81.7 | 27.7 | 16.4 | 19.4 | 0.0 | 0.1 | 2.9 | 15.3 | (%) |

【図8】 子取り用雌豚【純粋種】の飼養頭数割合：複数回答可・地域別 (N=311)



- ③ 交雑種で最も飼養頭数が多いのは「LW」で78,939頭、次いで「LW・WLいずれか」で55,240頭である。
- ④ 海外ハイブリッドの品種で回答が多かったのはハイポー(32農場)、ケンボロー(27農場)、チョイス・ジェネティクス(7農場)、ピクア(3農場)、などである。
- ⑤ 「海外ハイブリッド」は、「北海道・東北」で多くみられ26.7%、「九州」も24.8%といった高い割合で海外ハイブリッドを利用した生産を行っている。

[図9] 子取り用雌豚【交雑種】の飼養頭数割合：地域別 (N=559)



[表14] 子取り用雌豚飼養規模割合：地域別 (N=651)

| | N= | 1~19頭 | 20~49頭 | 50~99頭 | 100~199頭 | 200~499頭 | 500~999頭 | 1,000頭~ |
|--------|-----|-------|--------|--------|----------|----------|----------|---------|
| 全国 | 651 | 6.9 | 9.8 | 16.7 | 20.1 | 25.0 | 10.8 | 10.6 |
| 北海道・東北 | 156 | 7.1 | 9.6 | 9.6 | 14.1 | 28.2 | 14.7 | 16.7 |
| 関東 | 193 | 4.7 | 8.8 | 17.1 | 30.1 | 23.3 | 7.3 | 8.8 |
| 北陸 | 32 | 6.3 | 12.5 | 28.1 | 15.6 | 31.3 | 0.0 | 6.3 |
| 東海 | 62 | 8.1 | 8.1 | 22.6 | 16.1 | 30.6 | 9.7 | 4.8 |
| 近畿 | 8 | 25.0 | 25.0 | 0.0 | 25.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 42 | 14.3 | 9.5 | 16.7 | 11.9 | 31.0 | 11.9 | 4.8 |
| 九州・沖縄 | 158 | 6.3 | 10.8 | 19.6 | 18.4 | 19.0 | 13.9 | 12.0 |

(経営体数) (%)

□種雄豚

- ① 種雄豚の全体頭数は8,331頭で、前年の8,046頭から約3.5ポイント増となっている。「純粋種」の総頭数は6,888頭、最も多く利用されているのは「デュロック」の4,824頭で純粋種の67.2%である。
- ② 地域別では、種雄豚が多いのは「北海道・東北」2,508頭、「九州・沖縄」2,217頭、「関東」2,056頭の順で、この地域で全体の70.0%を占めている。
- ③ 主な海外ハイブリッドの品種としては、ハイポー(25農場)、ケンポロー(20農場)、チョイス・ジェネティクス(3農場)、デカルブ(3農場)となっている。

【表15】種雄豚飼養頭数：地域別 (N=588)

| | N= | 総頭数 | 地域割合 | 純粋種 | 交雑種 |
|--------|--------|-------|-------|--------------|--------------|
| 全国 | 588 | 8,331 | 100.0 | 82.7 (6,888) | 17.3 (1,443) |
| 北海道・東北 | 134 | 2,049 | 22.8 | 75.8 (1,554) | 24.2 (495) |
| 関東 | 177 | 2,312 | 30.1 | 87.6 (2,025) | 12.4 (287) |
| 北陸 | 30 | 311 | 5.1 | 82.0 (255) | 18.0 (56) |
| 東海 | 54 | 693 | 9.2 | 92.1 (638) | 7.9 (55) |
| 近畿 | 5 | 40 | 0.9 | 100.0 (40) | 0.0 (0) |
| 中国・四国 | 39 | 478 | 6.6 | 64.6 (309) | 35.4 (169) |
| 九州・沖縄 | 149 | 2,448 | 25.3 | 84.4 (2,067) | 15.6 (381) |
| | (経営体数) | (頭) | (%) | | (% (頭数)) |

【表16】種雄豚飼養頭数・品種：地域別 (N=588)

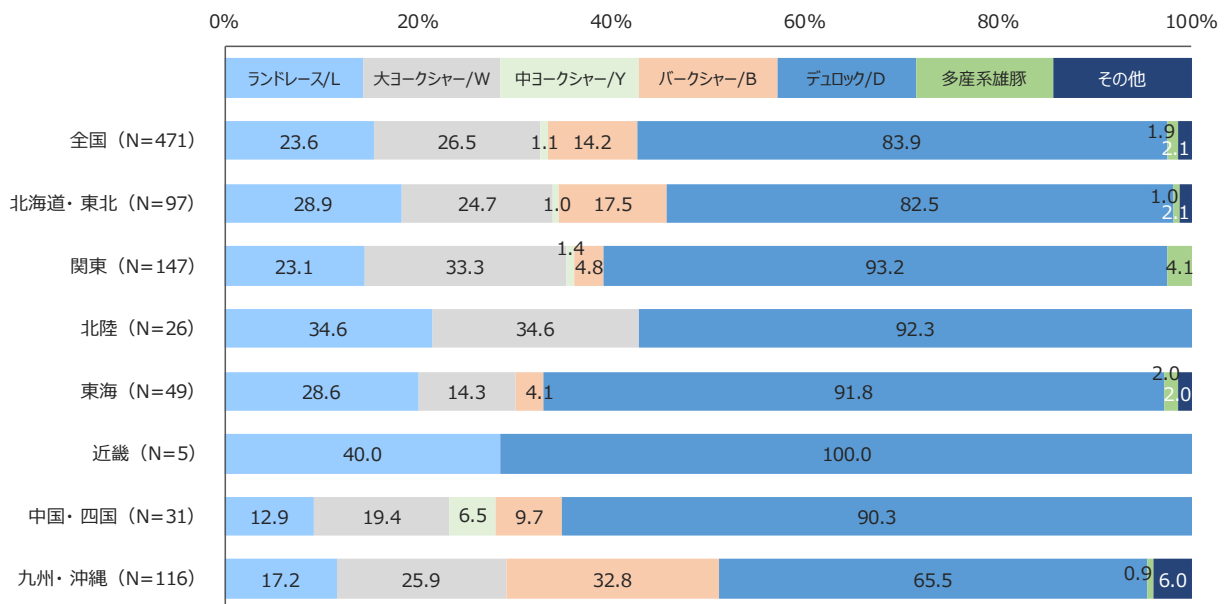
| | 総頭数 | 純粋種計 | 純粋種 | | | | | | |
|--------|-------|-------|-----------|------------|------------|-----------|----------|-------|-----|
| | | | ランドレース /L | 大ヨークシャー /W | 中ヨークシャー /Y | パークシャー /B | デュロック /D | 多産系雄豚 | その他 |
| 全国 | 8,331 | 6,888 | 495 | 525 | 13 | 644 | 4,824 | 205 | 182 |
| 北海道・東北 | 2,049 | 1,554 | 155 | 141 | 1 | 157 | 1,008 | 7 | 85 |
| 関東 | 2,312 | 2,025 | 80 | 109 | 5 | 35 | 1,600 | 196 | 0 |
| 北陸 | 311 | 255 | 35 | 43 | 0 | 0 | 177 | 0 | 0 |
| 東海 | 693 | 638 | 45 | 27 | 0 | 18 | 545 | 1 | 2 |
| 近畿 | 40 | 40 | 3 | 0 | 0 | 0 | 37 | 0 | 0 |
| 中国・四国 | 478 | 309 | 4 | 13 | 7 | 10 | 275 | 0 | 0 |
| 九州・沖縄 | 2,448 | 2,067 | 173 | 192 | 0 | 424 | 1,182 | 1 | 95 |

(頭)

| | 交雑種計 | 交雑種 | | | | | | |
|--------|-------|-----|----|---------------|----|-----|---------------|--------------|
| | | LW | WL | LW、WL いずれか | DB | BD | その他の 組み合わせ | 海外 ハイブリッド |
| 全国 | 1,443 | 173 | 54 | 116 | 49 | 266 | 71 | 714 |
| 北海道・東北 | 495 | 11 | 25 | 27 | 8 | 73 | 4 | 347 |
| 関東 | 287 | 71 | 5 | 57 | 11 | 91 | 7 | 45 |
| 北陸 | 56 | 3 | 19 | 17 | 0 | 1 | 11 | 5 |
| 東海 | 55 | 2 | 0 | 0 | 5 | 28 | 0 | 20 |
| 近畿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中国・四国 | 169 | 40 | 0 | 15 | 0 | 20 | 1 | 93 |
| 九州・沖縄 | 381 | 46 | 5 | 0 | 25 | 53 | 48 | 204 |

(頭)

【図10】種雄豚【純粋種】飼養頭数割合：地域（N=471）



□全体頭数

- ① 本調査における豚の飼養頭数は、「子取り用雌豚」が285,092頭、「種雄豚」8,331頭、「育成豚」(繁殖予定で未交配の雄または雌豚)51,590頭、「子豚」1,472,304頭、「肥育豚」1,859,703頭で、全飼養頭数で3,677,020頭となっている。
- ② 1経営体当たり平均飼養頭数は、「子取り用雌豚」で437.9頭、全体で4,896.2頭となっている。

【表17】飼養頭数：全国（N=751）

| 全国 | 飼養頭数合計 | 子取り用雌豚* | 種雄豚* | 育成豚** | 子豚*** | 肥育豚**** | |
|-------------|-----------|---------|-------|--------|-----------|-----------|--------|
| 回答経営体数 | 751 | 651 | 588 | 578 | 622 | 659 | (経営体数) |
| 頭数合計 | 3,677,020 | 285,092 | 8,331 | 51,590 | 1,472,304 | 1,859,703 | |
| 1経営体当たり平均頭数 | 4,896.2 | 437.9 | 14.2 | 89.3 | 2,367.0 | 2,822.0 | (頭数) |

*育成豚を除く **繁殖利用予定で未交配の雌または雄

子豚舎・子豚豚房で飼養しているもの+哺乳中のもん *肥育舎・肥育豚房で飼養しているもの

■ 6.肉豚の出荷状況（令和元年8月～令和2年7月）

□ 総出荷頭数

- ① 総出荷頭数は、肉豚出荷のほか、繁殖豚（子取り用雌豚・雄豚）の廃用、子豚出荷（販売などのほか、同一経営の農場間移動も含む）、種豚候補豚の出荷など、農場から外部に出荷したすべての豚の頭数を調べたものである。
- ② 肉豚を出荷している経営体は645で、年間（令和元年8月～令和2年7月）の肉豚出荷頭数は6,006,566頭、1経営体当たり平均9,312.5頭である。
- ③ 子豚を出荷している経営体は152経営体で、年間（令和元年8月～令和2年7月）の総出荷頭数は743,093頭で、1経営体当たり平均4,888.8頭である。

[表18] 導入頭数：全国（N=538）

| 全国 | 子取り用雌豚 | | 肥育 | |
|-------------|----------|--------------------|---------|--------|
| | 純粋種豚導入頭数 | 子取り用雌豚（PS） 導入頭数 | 肥育豚導入頭数 | |
| 回答経営体数 | 280 | 331 | 99 | (経営体数) |
| 頭数合計 | 10,356 | 49,988 | 864,297 | |
| 1経営体当たり平均頭数 | 37.0 | 150.6 | 8730.3 | (頭数) |

[表19] 総出荷頭数：全国（N=714）

| 全国 | 年間肉豚出荷頭数 | 種豚候補豚（純粋種・ F1等）の販売頭数 | 年間肉用子豚 出荷頭数（販売） | 繁殖豚（雄、雌） 年間廃用頭数 | |
|-------------|-----------|-------------------------|--------------------|--------------------|--------|
| 回答経営体数 | 645 | 66 | 152 | 515 | (経営体数) |
| 頭数合計 | 6,006,566 | 76,578 | 743,093 | 112,900 | |
| 1経営体当たり平均頭数 | 9,312.5 | 1,160.3 | 4,888.8 | 219.2 | (頭数) |

□ 肉豚出荷頭数

- ① 年間肉豚出荷頭数を出荷規模別で見ると、「4,000～9,999頭」の経営体数が23.3%と最も多く、次いで「2,000～3,999頭」が18.4%、「1,000～1,999頭」が17.5%となっている。
- ② 一方、頭数割合では、「20,000頭以上」が58.2%、「10,000～19,999頭」が16.8%、「4,000～9,999頭」が16.0%で、この3階層の経営体（45.3%）で出荷頭数の91.0%を占めている。

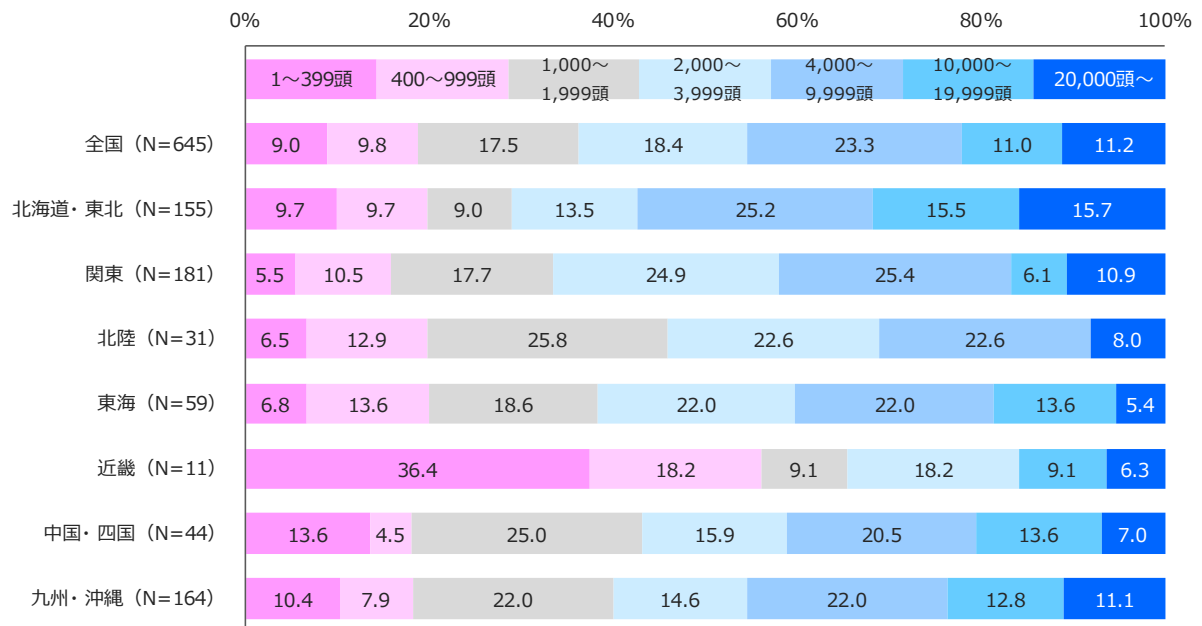
[表20] 年間肉豚出荷頭数：全国（N=645）

| | 合計 | 1～399頭 | 400～ 999頭 | 1,000～ 1,999頭 | 2,000～ 3,999頭 | 4,000～ 9,999頭 | 10,000～ 19,999頭 | 20,000頭～ |
|--------|-----------|----------------|-----------------|------------------|------------------|-------------------|---------------------|---------------------|
| 回答経営体数 | 645 | 9.0 (58) | 9.8 (63) | 17.5 (113) | 18.4 (119) | 23.3 (150) | 11.0 (71) | 11.0 (71) |
| 全頭数 | 6,006,566 | 0.1 (8,981) | 0.7 (43,130) | 2.6 (157,970) | 5.5 (332,876) | 16.0 (958,764) | 16.8 (1,008,408) | 58.2 (3,496,437) |

上段：（%（経営体数））

下段：（%（頭数））

〔図11〕肉豚出荷規模別経営体割合：地域別（N=645）



□肉豚出荷日齢

- ① 肉豚の平均出荷時日齢は182.4日で、前年の184.0日から約1.6日短くなっている。出荷時の生体重は113.6kgで前年の114.2kgから0.6kg減、平均枝肉重量は75.6kgで前年の75.0kgより0.6kg増となっている。1日平均増体量は、622.8gで前年の620.7gから2.1g増えており、発育は早くなっているが、歩留まりには大きな変化はないことがわかる。
- ② 地域別でみると、出荷日齢では「九州・沖縄」で194.5日、「近畿」で193.4日と長い。「九州・沖縄」では鹿児島県において飼養日数の長いパークシャーが多く飼養されていることが影響していると思われる。
- ③ 出荷日齢が最も短いのは「北海道・東北」の174.0日、1日平均増体量が最も大きいのは「北海道・東北」の655.7gである。出荷時の生体重が最も大きいのは「近畿」の116.3kgで、枝肉重量が最も大きいのも「近畿」の79.3kgである。

〔表21〕肉豚出荷日齢：地域別（N=672）

| | 肉豚出荷日齢平均* | 肉豚出荷生体重平均 | 肉豚1頭当たり枝肉重量平均 | 1日平均増体重** |
|--------|-----------|-----------|---------------|-----------|
| 全国 | 182.4 | 113.6 | 75.6 | 622.8 |
| 北海道・東北 | 174.0 | 114.1 | 75.6 | 655.7 |
| 関東 | 180.5 | 112.8 | 76.1 | 624.9 |
| 北陸 | 174.4 | 108.3 | 75.4 | 621.0 |
| 東海 | 181.1 | 115.0 | 76.3 | 635.0 |
| 近畿 | 193.4 | 116.3 | 79.3 | 601.3 |
| 中国・四国 | 182.0 | 115.7 | 75.5 | 635.7 |
| 九州・沖縄 | 194.5 | 113.3 | 74.7 | 582.5 |

*生後日数 **出荷生体重÷出荷日齢

■ 7.繁殖・肥育等の成績（令和元年8月～令和2年7月）

□ 繁殖成績

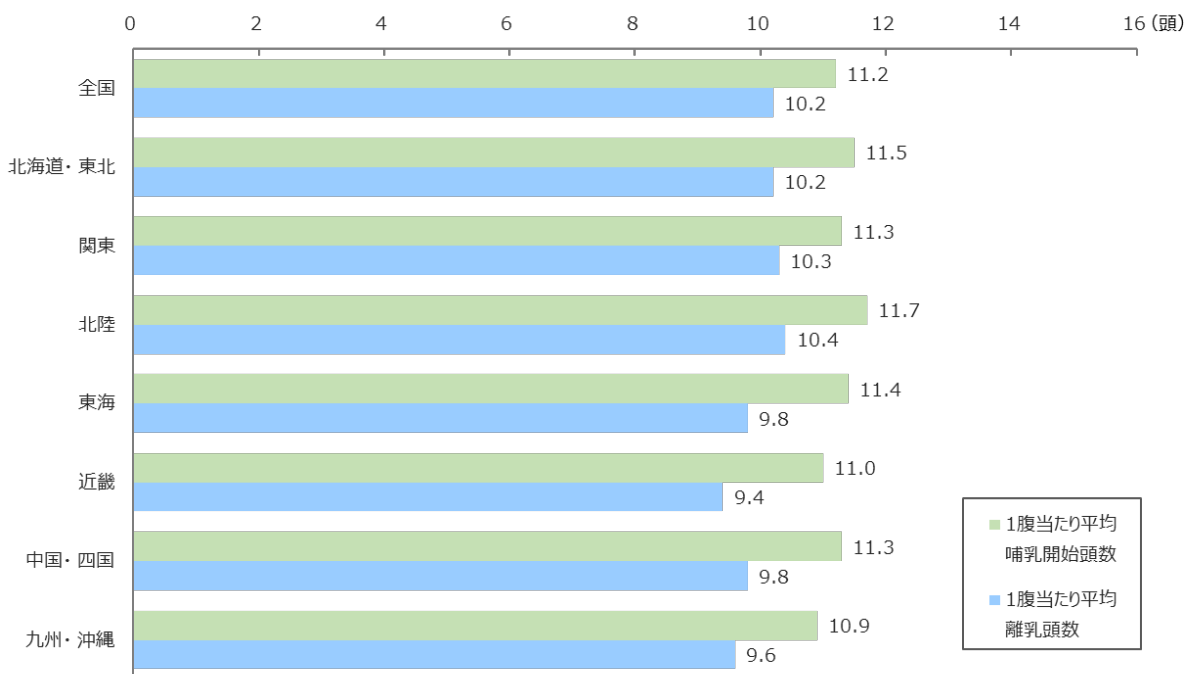
- ① 1腹当たりの「平均哺乳開始頭数」は11.2頭で前年度から0.1頭減、「平均離乳頭数」は10.2頭で前年度から0.1頭増、「平均育成率」は90.6%で前年度より1.3ポイント増と、繁殖成績はほぼ横ばいである。
- ② 「年間平均種付け頭数」は「九州・沖縄」の1507.1頭、「年間平均分娩頭数」も「九州・沖縄」の1270.7頭が最も多い。
- ③ 「平均分娩率」は北陸の90.9%が高く、「一腹当たり平均産子数」も「北陸」の13.1頭が最も多い。
- ④ 「母豚回転数」は地域による差はほとんどみられない。

【表22】 繁殖成績：地域別（N=638）

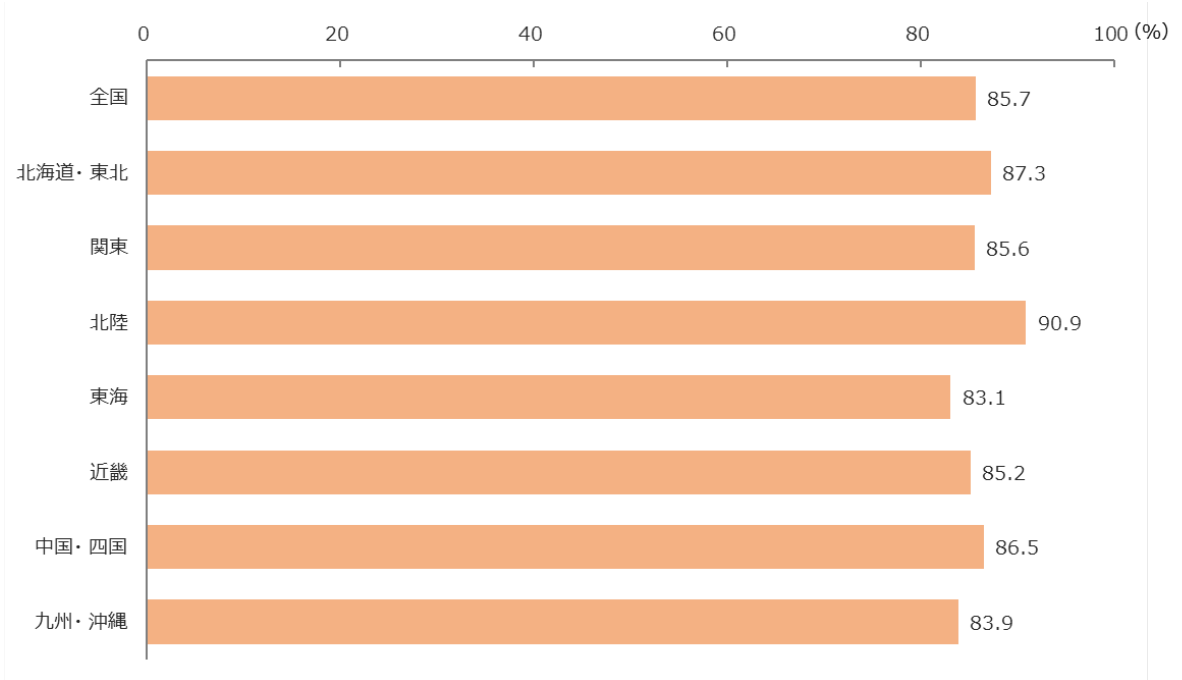
| | 1腹当たり平均 哺乳開始頭数 | 1腹当たり平均 離乳頭数 | 平均育成率 | 年間平均 種付け頭数 | 年間平均 分娩頭数 | 平均分娩率 | 1腹当たり平均 産子数 | 母豚回転数 |
|--------|-------------------|-----------------|-------|---------------|--------------|-------|----------------|-------|
| 全国 | 11.2 | 10.2 | 90.6 | 1228.8 | 1075.9 | 85.7 | 12.6 | 2.2 |
| 北海道・東北 | 11.5 | 10.5 | 91.5 | 1474.6 | 1336.4 | 87.3 | 12.6 | 2.3 |
| 関東 | 11.3 | 10.1 | 89.8 | 1055.7 | 926.8 | 85.6 | 12.4 | 2.2 |
| 北陸 | 11.7 | 10.4 | 89.2 | 936.8 | 848.1 | 90.9 | 13.1 | 2.3 |
| 東海 | 11.4 | 10.3 | 90.6 | 728.9 | 614.3 | 83.1 | 12.7 | 2.2 |
| 近畿 | 11.0 | 9.8 | 88.6 | 333.2 | 278.0 | 85.2 | 11.5 | 2.2 |
| 中国・四国 | 11.3 | 10.1 | 89.4 | 1048.5 | 918.8 | 86.5 | 12.6 | 2.2 |
| 九州・沖縄 | 10.9 | 9.9 | 91.1 | 1507.1 | 1270.7 | 83.9 | 12.8 | 2.2 |

(頭) (頭) (%) (頭) (頭) (%) (頭) (回)

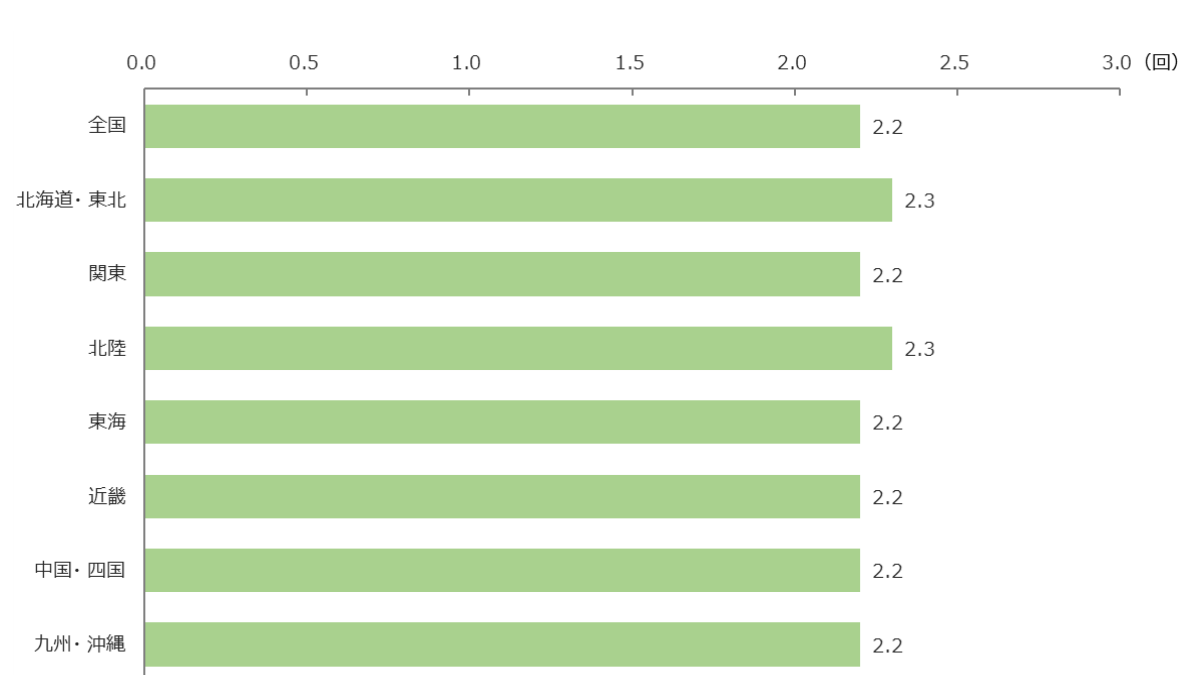
【図12】 1腹当たりの平均哺乳開始頭数（N=599）および平均離乳頭数（N=605）



[図13] 平均分娩率：地域別 (N=577)



[図14] 年間平均母豚回転数：地域別 (N=574)



□ 格付・上物率・相対取引について

- ① 「格付している」経営体は94.0%で、そのうち「日格協（日本食肉格付協会）の格付」は80.6%、「自主格付」は22.6%である。
- ② 上物率は「九州・沖縄」が最も高く65.0%である。
- ③ 相対取引を実施しているとの回答は42.6%である。
- ④ 契約枝重下限の平均は68.8kg、契約枝重上限では85.7kgである。

[表23] 格付実施率：複数回答可・地域別 (N=681)

| | N= | 日格協の格付け | 日格協の格付け以外 (バツカー・ブランド化・ 協議会などの自主的な格付) | 格付していない (生体販売など) | 格付方法を 把握していない |
|--------|-----|---------|--|---------------------|------------------|
| 全国 | 681 | 80.6 | 22.6 | 5.1 | 3.4 |
| 北海道・東北 | 162 | 91.4 | 12.3 | 2.5 | 1.9 |
| 関東 | 197 | 71.1 | 35.5 | 10.7 | 4.1 |
| 北陸 | 34 | 91.2 | 14.7 | 0.0 | 0.0 |
| 東海 | 64 | 73.4 | 26.6 | 4.7 | 7.8 |
| 近畿 | 12 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 45 | 86.7 | 8.9 | 4.4 | 4.4 |
| 九州・沖縄 | 167 | 79.0 | 22.8 | 3.0 | 3.0 |

(経営体数) (%)

[表24] 平均上物率：地域別 (N=578)

| | N= | 年間平均上物率 (格付している豚) |
|--------|-----|----------------------|
| 全国 | 578 | 55.7 |
| 北海道・東北 | 142 | 52.3 |
| 関東 | 157 | 55.7 |
| 北陸 | 32 | 46.2 |
| 東海 | 58 | 53.0 |
| 近畿 | 11 | 26.9 |
| 中国・四国 | 38 | 55.4 |
| 九州・沖縄 | 140 | 65.0 |

(経営体数) (%)

[表25] 平均枝肉歩留まり率：地域別 (N=452)

| | N= | 年間平均枝肉歩留まり率 |
|--------|-----|-------------|
| 全国 | 452 | 64.5 |
| 北海道・東北 | 105 | 64.3 |
| 関東 | 125 | 65.7 |
| 北陸 | 19 | 64.6 |
| 東海 | 38 | 63.2 |
| 近畿 | 9 | 68.7 |
| 中国・四国 | 37 | 65.4 |
| 九州・沖縄 | 119 | 63.1 |

(経営体数) (%)

[表26] 相対取引実施状況：全国 (N=592)

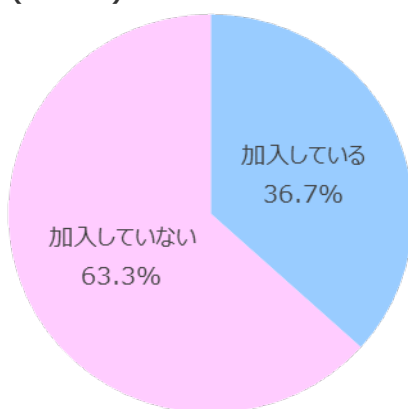
| N=592 | 実施している | | 実施していない | |
|--------|--------|--------|---------|--------|
| | 契約枝重下限 | 契約枝重上限 | | |
| 回答経営体数 | 252 | | 340 | (経営体数) |
| 割合 | 42.6 | | 57.4 | (%) |
| 平均枝重 | 68.8 | 85.7 | | (kg) |
| 最高重量 | 115.0 | 135.0 | | (kg) |
| 最低重量 | 35.0 | 71.0 | | (kg) |

■ 8. 家畜共済の加入状況について

□ 家畜共済の加入状況と希望する家畜共済について

- ① 家畜共済に加入していない理由としては「掛金に対して支払額が見合わない」が43.0%で最も高い。「その他」では「公的機関・学校法人」14件、「民間で加入」13件、「不要」12件、「委託農場」7件、「面倒、手続きが煩雑」7件といった声があった。
- ② 希望する家畜共済の内容のその他の意見として「事務処理の簡素化」「豚熱発生時の補償額の説明があれば考える」といった意見があった。

【図15】 家畜共済加入の有無：全国（N=728）



【表27】 家畜共済の加入割合：複数回答可・地域別（N=728）

| | N= | 家畜共済に加入している計 | 家畜共済に加入していない計 | N= | 加入していない理由 | | | |
|--------|-----|--------------|---------------|-----|-----------|-------------|-----------------|------|
| | | | | | 共済掛金が高い | 加入方法がわかりにくい | 掛金に対して支払額が見合わない | その他 |
| 全国 | 728 | 36.7 | 63.3 | 426 | 35.7 | 17.8 | 43.0 | 23.7 |
| 北海道・東北 | 168 | 32.1 | 67.9 | 109 | 37.6 | 17.4 | 41.3 | 24.8 |
| 関東 | 207 | 43.5 | 56.5 | 107 | 37.4 | 15.0 | 43.0 | 22.4 |
| 北陸 | 35 | 54.3 | 45.7 | 15 | 26.7 | 6.7 | 46.7 | 40.0 |
| 東海 | 72 | 34.7 | 65.3 | 44 | 22.7 | 18.2 | 45.5 | 34.1 |
| 近畿 | 13 | 0.0 | 100.0 | 13 | 0.0 | 30.8 | 53.8 | 15.4 |
| 中国・四国 | 46 | 37.0 | 63.0 | 25 | 32.0 | 20.0 | 40.0 | 28.0 |
| 九州・沖縄 | 187 | 33.2 | 66.8 | 113 | 43.4 | 20.4 | 42.5 | 17.7 |

(経営体数) (%) (経営体数) (%)

【表28】 希望する家畜共済の内容：複数回答可・地域別（N=419）

| | N= | 加入方法、支払額のわかりやすさ | 共済掛金を低くする | 哺乳子豚を共済対象に含める | 補償期間の延長 | その他 |
|--------|-----|-----------------|-----------|---------------|---------|------|
| 全国 | 419 | 49.9 | 71.4 | 17.2 | 7.2 | 8.1 |
| 北海道・東北 | 98 | 48.0 | 75.5 | 17.3 | 4.1 | 11.2 |
| 関東 | 133 | 50.4 | 69.9 | 17.3 | 6.0 | 6.8 |
| 北陸 | 20 | 50.0 | 60.0 | 15.0 | 10.0 | 15.0 |
| 東海 | 36 | 63.9 | 61.1 | 11.1 | 8.3 | 0.0 |
| 近畿 | 7 | 14.3 | 71.4 | 0.0 | 0.0 | 28.6 |
| 中国・四国 | 27 | 29.6 | 85.2 | 18.5 | 3.7 | 11.1 |
| 九州・沖縄 | 98 | 54.1 | 71.4 | 20.4 | 12.2 | 6.1 |

(経営体数) (%)

■ 9.交配について

□ 交配の回数

- ① 自然交配での回数は「2回」が76.8%、「3回」が12.7%の順。人工授精では「2回」57.6%、次いで「3回」41.3%。自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工授精2回」が46.6%と高くなっている。
- ② 地域別では人工授精「2回」が「北海道・東北」で高く、人工授精「3回」が「九州・沖縄」で高い。

□ 交配方法

- ① 自然交配のみが27.0%、人工授精のみが43.4%、自然交配と人工授精の併用が29.6%となっている。
- ② 地域別では人工授精のみ実施が「北海道・東北」で52.7%と目立って高い。
- ③ 人工授精における深部注入の実施は「全て深部注入」30.5%、「深部注入と普通の人工授精を併用」26.3%、と合わせて56.8%と半数の農場で実施している。
- ④ 地域別では、全て深部注入を行っているのは「近畿」(注:回答の農場数が少ない)が50.0%と高く、次いで「中国・四国」43.3%、「九州・沖縄」42.4%の順。逆に深部注入を行っていないのは「北陸」で17.9%と高い傾向がある。
- ⑤ 子取り用雌豚飼養規模別では、全て深部注入を行っているのは「500～999頭」が37.9%と高く、逆に深部注入を行っていないのは「20～49頭」50.0%、「1～19頭」45.0%が目立って高い。
- ⑥ その他「純粋種のみ人工授精」、「離乳後は2回、育成、再発、遅延豚は3回交配」、「自然交配2回、人工授精2回。肉豚用は自然交配、純粋種は人工授精」という意見もあった。

[表29] 交配実施回数と方法：地域別 (N=682)

| | N= | 自然交配 | | | N= | 人工授精 | | | N= | 自然交配1回 + 人工授精1回 | 自然交配1回 + 人工授精2回 | 自然交配2回 + 人工授精1回 |
|--------|-----|------|-------|------|-----|------|------|-------|-----|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 1回 | 2回 | 3回 | | 1回 | 2回 | 3回 | | | | |
| 全国 | 181 | 10.5 | 76.8 | 12.7 | 283 | 1.1 | 57.6 | 41.3 | 163 | 42.3 | 46.6 | 11.0 |
| 北海道・東北 | 34 | 11.8 | 79.4 | 8.8 | 82 | 0.0 | 65.9 | 34.1 | 30 | 30.0 | 56.7 | 13.3 |
| 関東 | 60 | 13.3 | 80.0 | 6.7 | 73 | 4.1 | 57.5 | 38.4 | 53 | 49.1 | 37.7 | 13.2 |
| 北陸 | 8 | 12.5 | 75.0 | 12.5 | 13 | 0.0 | 69.2 | 30.8 | 12 | 33.3 | 58.3 | 8.3 |
| 東海 | 21 | 4.8 | 71.4 | 23.8 | 24 | 0.0 | 50.0 | 50.0 | 19 | 63.2 | 31.6 | 5.3 |
| 近畿 | 2 | 50.0 | 0.0 | 50.0 | 2 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 4 | 25.0 | 50.0 | 25.0 |
| 中国・四国 | 10 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 15 | 0.0 | 66.7 | 33.3 | 11 | 54.5 | 36.4 | 9.1 |
| 九州・沖縄 | 46 | 8.7 | 71.7 | 19.6 | 74 | 0.0 | 48.6 | 51.4 | 34 | 32.4 | 58.8 | 8.8 |

(経営体数)

(%) (経営体数)

(%) (経営体数)

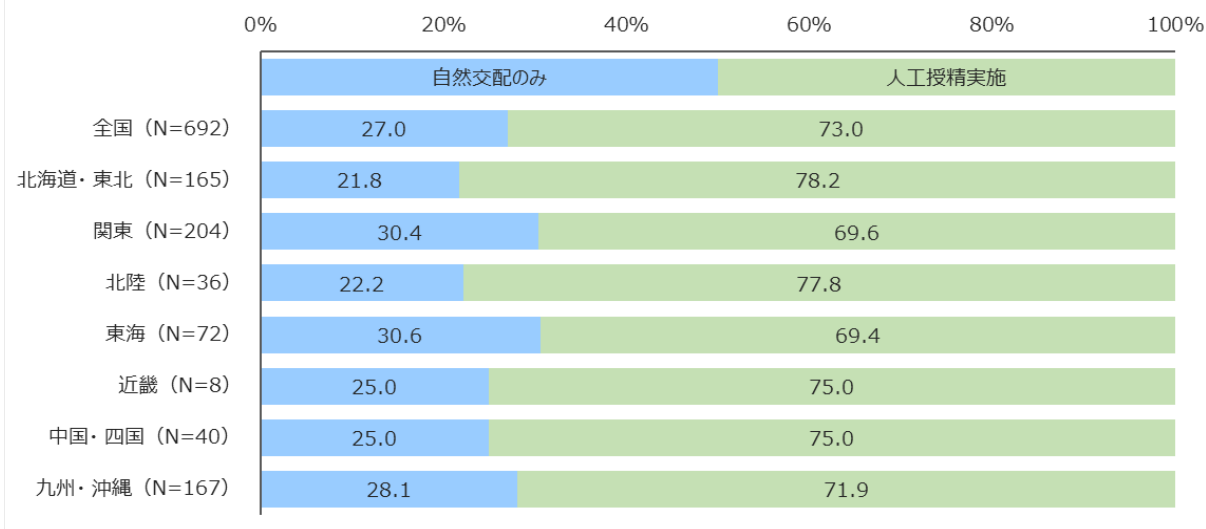
(%)

| | N= | 自然交配のみ | 人工授精のみ | 自然交配+人工授精の併用 |
|--------|-----|--------|--------|--------------|
| 全国 | 692 | 27.0 | 43.4 | 29.6 |
| 北海道・東北 | 165 | 21.8 | 52.7 | 25.5 |
| 関東 | 204 | 30.4 | 37.7 | 31.9 |
| 北陸 | 36 | 22.2 | 38.9 | 38.9 |
| 東海 | 72 | 30.6 | 37.5 | 31.9 |
| 近畿 | 8 | 25.0 | 25.0 | 50.0 |
| 中国・四国 | 40 | 25.0 | 37.5 | 37.5 |
| 九州・沖縄 | 167 | 28.1 | 46.7 | 25.1 |

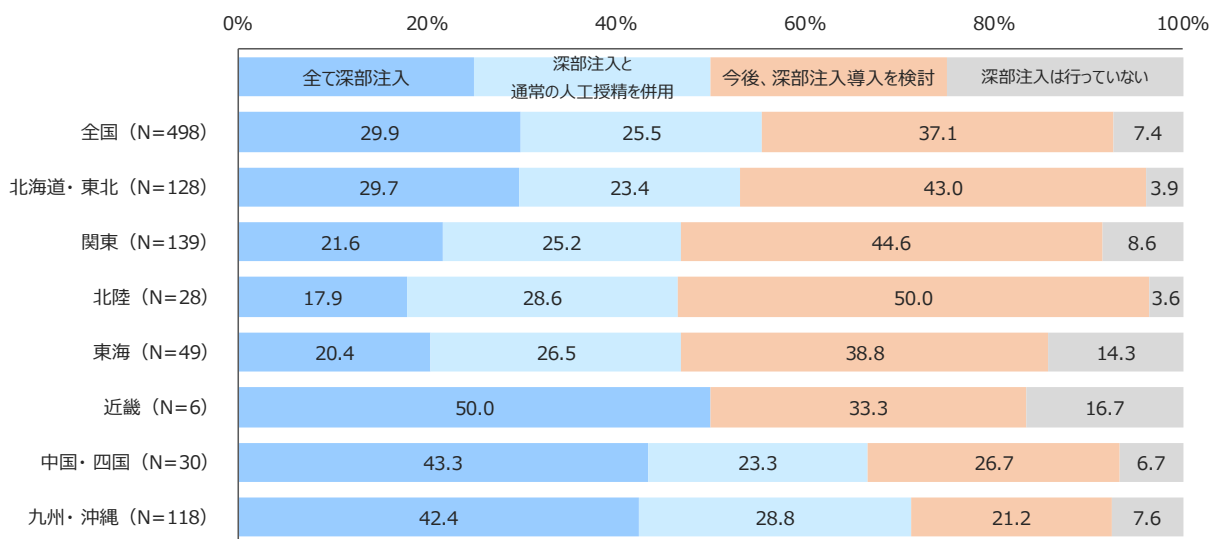
(経営体数)

(%)

[図16] 人工授精の実施状況：地域別 (N=692)



[図17] 深部注入の実施状況：地域別 (N=498)



[表30] 人工授精における深部注入の実施内容：子取り用雌豚飼養規模別(N=453)

| | N= | 全て深部注入で行っている (%) | 深部注入と普通の人工授精を併用している (%) | 深部注入は行っていない (%) | 深部注入は行っていないが、今後検討したい (%) |
|----------|-----|------------------|-------------------------|-----------------|--------------------------|
| 全体 | 453 | 30.5 | 26.3 | 36.4 | 6.8 |
| 1~19頭 | 20 | 30.0 | 10.0 | 45.0 | 15.0 |
| 20~49頭 | 24 | 20.8 | 25.0 | 50.0 | 4.2 |
| 50~99頭 | 54 | 25.9 | 22.2 | 40.7 | 11.1 |
| 100~199頭 | 80 | 36.3 | 18.8 | 42.5 | 2.5 |
| 200~499頭 | 141 | 29.1 | 29.8 | 32.6 | 8.5 |
| 500~999頭 | 66 | 37.9 | 25.8 | 33.3 | 3.0 |
| 1,000頭~ | 68 | 26.5 | 36.8 | 29.4 | 7.4 |

(経営体数)

(%)

□ 精液

- ① 精液の入手方法は、全体で、「全て外部導入」48.6%と高く、次いで「全て自家採精」が31.3%となっている。
- ② 子取り用雌豚飼養規模別で見ると「全て自家採精」が「1,000頭～」で51.5%と最も高く、「全て外部導入」は「1～19頭」で75.0%と最も高い。

【表31】 精液の導入方法：子取り用雌豚飼養規模別（N=457）

| | N= | すべて自家採精 | すべて外部導入 (公的試験場・AIセンター) | 自家採精と 外部導入を併用 |
|----------|-----|---------|---------------------------|------------------|
| 全体 | 457 | 31.3 | 48.6 | 20.1 |
| 1～19頭 | 20 | 5.0 | 75.0 | 20.0 |
| 20～49頭 | 25 | 20.0 | 52.0 | 28.0 |
| 50～99頭 | 53 | 18.9 | 67.9 | 13.2 |
| 100～199頭 | 82 | 26.8 | 59.8 | 13.4 |
| 200～499頭 | 143 | 29.4 | 49.0 | 21.7 |
| 500～999頭 | 66 | 42.4 | 36.4 | 21.2 |
| 1,000頭～ | 68 | 51.5 | 22.1 | 26.5 |

(経営体数)

(%)

■ 10.飼料について

□ 飼料内容

- ① 飼料給与体系をみると、「市販飼料のみ」が82.8%と最も多く、次いで「市販配合飼料+自家配合飼料」が12.7%、「自家配合飼料のみ」が4.5%となっている。
- ② 地域別の割合をみると、「近畿」を除く地域で「市販飼料のみ」の割合が70%以上と高い。「北海道・東北」は89.7%と目立って高い。

[表32] 飼料給与の状況：地域別 (N=740)

| | N= | 市販配合飼料のみ* | 市販配合飼料+ 自家配合飼料 | 自家配合飼料のみ** |
|--------|-----|-----------|-------------------|------------|
| 全国 | 740 | 82.8 | 12.7 | 4.5 |
| 北海道・東北 | 174 | 89.7 | 8.0 | 2.3 |
| 関東 | 210 | 83.3 | 14.3 | 2.4 |
| 北陸 | 32 | 75.0 | 21.9 | 3.1 |
| 東海 | 76 | 72.4 | 18.4 | 9.2 |
| 近畿 | 13 | 38.5 | 46.2 | 15.4 |
| 中国・四国 | 47 | 83.0 | 8.5 | 8.5 |
| 九州・沖縄 | 188 | 84.6 | 10.1 | 5.3 |

(経営体数)

(%)

*配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む

**丸粒トウモロコシ単味飼料やエコフィード等の飼料原料を調達して自ら配合・調整したもの

[表33] 飼料の給与内容：地域別 (N=736)

| | N= | A+B合計 | A：配合飼料 | | | | | |
|--------|-----|----------|----------|------|--------------|------|------------|------|
| | | | 配合飼料 | | エコフィード利用配合飼料 | | 飼料用米利用配合飼料 | |
| | | | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 |
| 全国 | 736 | 23182.8千 | 22086.2千 | 95.3 | 112.8千 | 0.5 | 158.5千 | 0.7 |
| 北海道・東北 | 175 | 3712.9千 | 3629.0千 | 97.7 | 6.9千 | 0.2 | 65.0千 | 1.8 |
| 関東 | 209 | 16700.8千 | 16600.1千 | 99.4 | 15.6千 | 0.1 | 38.2千 | 0.2 |
| 北陸 | 32 | 92.0千 | 83.4千 | 90.6 | 3.2千 | 3.5 | 0.2千 | 0.2 |
| 東海 | 72 | 178.2千 | 100.7千 | 56.5 | 45.9千 | 25.8 | 11.3千 | 6.4 |
| 近畿 | 14 | 17.1千 | 6.2千 | 36.5 | 1.4千 | 8.0 | 0.0千 | 0.0 |
| 中国・四国 | 49 | 1287.4千 | 947.8千 | 73.6 | 1.5千 | 0.1 | 3.6千 | 0.3 |
| 九州・沖縄 | 185 | 1194.4千 | 718.9千 | 60.2 | 38.2千 | 3.2 | 40.2千 | 3.4 |

(経営体数)

(t)

(t)

(%)

(t)

(%)

(t)

(%)

| | B：単味飼料 | | | | | | | | | |
|--------|--------|------|-----------|------|--------|------|--------|------|-------|------|
| | 飼料用米 | | 子実用トウモロコシ | | エコフィード | | 食品残さ | | その他 | |
| | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 | 合計数量 | 数量割合 |
| 全国 | 9.6千 | 0.0 | 11.7千 | 0.1 | 78.6千 | 0.3 | 691.5千 | 3.0 | 34.0千 | 0.1 |
| 北海道・東北 | 6.7千 | 0.2 | 0.1千 | 0.0 | 2.3千 | 0.1 | 0.3千 | 0.0 | 2.6千 | 0.1 |
| 関東 | 1.4千 | 0.0 | - | - | 42.5千 | 0.3 | 0.1千 | 0.0 | 2.9千 | 0.0 |
| 北陸 | 0.5千 | 0.6 | 1.6千 | 1.7 | 2.9千 | 3.1 | 0.2千 | 0.2 | 0.1千 | 0.1 |
| 東海 | 0.8千 | 0.4 | - | - | 16.5千 | 9.3 | 2.9千 | 1.6 | 0.0千 | 0.0 |
| 近畿 | 0.0千 | 0.2 | 2.5千 | 14.6 | 4.1千 | 24.0 | 1.2千 | 6.8 | 1.7千 | 10.0 |
| 中国・四国 | 0.0千 | 0.0 | 1.4千 | 0.1 | 1.3千 | 0.1 | 313.2千 | 24.3 | 18.5千 | 1.4 |
| 九州・沖縄 | 0.1千 | 0.0 | 6.1千 | 0.5 | 9.0千 | 0.8 | 373.7千 | 31.3 | 8.1千 | 0.7 |

(t)

(%)

(t)

(%)

(t)

(%)

(t)

(%)

(t)

(%)

[表34] 飼料の給与内容（平均数量）：地域別（N=736）

| | N= | 配合飼料（平均数量） | | | 単味飼料（平均数量） | | | | |
|--------|-----|------------|----------------------|--------------------|------------|---------------|---------|-----------|---------|
| | | 配合飼料 | エコフィード 利用配合 飼料 | 飼料用米 利用配合飼 料 | 飼料用米 | 子実用 トウモロコシ | エコフィード | 食品残さ | その他 |
| 全国 | 736 | 38,344.0 | 2,968.7 | 2,642.4 | 318.5 | 1,172.6 | 1,603.8 | 43,218.4 | 1,061.0 |
| 北海道・東北 | 175 | 24,686.9 | 980.7 | 3,423.3 | 609.0 | 39.0 | 381.8 | 103.7 | 440.2 |
| 関東 | 209 | 107,097.6 | 1,563.7 | 1,735.3 | 226.8 | - | 2,658.8 | 27.0 | 414.5 |
| 北陸 | 32 | 3,205.8 | 1,082.3 | 91.2 | 85.9 | 1,600.0 | 956.7 | 173.0 | 100.0 |
| 東海 | 72 | 1,975.0 | 7,657.5 | 1,616.6 | 198.5 | 8.0 | 2,357.6 | 718.0 | 10.5 |
| 近畿 | 14 | 624.3 | 1,375.0 | 1.5 | 30.0 | 2,500.0 | 585.7 | 578.0 | 568.3 |
| 中国・四国 | 49 | 24,302.9 | 510.0 | 3,600.0 | 34.5 | 1,400.0 | 660.0 | 156,600.0 | 6,160.1 |
| 九州・沖縄 | 185 | 4,857.6 | 4,776.5 | 5,028.3 | 122.0 | 2,046.7 | 1,120.2 | 186,864.0 | 899.2 |

(経営体数)

(t)

- ③ その他の単味飼料では、「大豆(粕)」12件、「大麦圧ペン」6件、「ふすま」6件、「小麦」5件、「パン、パン粉」5件、「トウモロコシ」5件などが挙げられた。

□飼料用米

- ① 飼料用米の今後の利用意向についてみると、「利用を拡大・継続」が84.8%、「削減・または中止」が15.2%となっている。
- ② 地域別では「中国・四国」の利用者(注:回答の農場数が少ない)が100.0%と最も高く、一番低いのは「近畿」(注:回答の農場数が少ない)で50.0%となっている。
- ③ 飼料用米の平均希望数量は690.8t。
- ④ 飼料用米を玄米で使用しているのは80.0%。玄米以外の給与形態としては「白米」が50.0%。「その他」では「もみまたは玄米破碎処理」「配合飼料加工」などの意見があった。

[表35] 飼料用米利用の意向：地域別 (N=79)

| | N= | 利用継続・拡大 | | 削減または中止 |
|--------|----|---------------|--------|---------|
| | | 飼料用米の利用を継続・拡大 | 平均希望数量 | |
| 全国 | 79 | 67 (84.8) | 690.8 | 15.2 |
| 北海道・東北 | 25 | 22 (88.0) | 745.8 | 12.0 |
| 関東 | 22 | 18 (81.8) | 195.0 | 18.2 |
| 北陸 | 10 | 9 (90.0) | 398.8 | 10.0 |
| 東海 | 9 | 7 (77.8) | 1957.6 | 22.2 |
| 近畿 | 2 | 1 (50.0) | - | 50.0 |
| 中国・四国 | 2 | 2 (100.0) | 40.0 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 9 | 8 (88.9) | 436.7 | 11.1 |

(経営体数 (%)) (t) (%)

[表36] 飼料用米における玄米利用状況：地域別 (N=70)

| | N= | 利用者 | 非利用者 | 非利用者の給与形態 | | | |
|--------|----|-----------|-----------|-----------|-----|-------|-------|
| | | | | N= | もみ | 白米 | その他 |
| 全国 | 70 | 56 (80.0) | 14 (20.0) | 6 | 0.0 | 50.0 | 50.0 |
| 北海道・東北 | 20 | 17 (85.0) | 3 (15.0) | 2 | 0.0 | 50.0 | 50.0 |
| 関東 | 19 | 14 (73.7) | 5 (26.3) | 2 | 0.0 | 50.0 | 50.0 |
| 北陸 | 9 | 8 (88.9) | 1 (11.1) | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 東海 | 10 | 7 (70.0) | 3 (30.0) | 1 | 0.0 | 100.0 | 0.0 |
| 近畿 | 2 | 2 (100.0) | 0 (0.0) | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 2 | 2 (100.0) | 0 (0.0) | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 8 | 6 (75.0) | 2 (25.0) | 1 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |

(経営体数 (%)) (%)

- ⑤ 飼料用米の平均買取価格は23.9円/kg。
- ⑥ 飼料用米を「自社加工している」のは37.8%、「自社加工していない」のは62.2%。「関東」「東海」「中国・四国(注:回答の農場数が少ない)」では「自社加工していない」が70%を超えており高い傾向にある。

[表37] 飼料用米の平均買取価格：地域別 (N=390)

| | N= | 飼料用米の平均買取価格 |
|--------|-----|-------------|
| 全国 | 390 | 23.9 |
| 北海道・東北 | 114 | 23.7 |
| 関東 | 97 | 25.0 |
| 北陸 | 20 | 21.4 |
| 東海 | 36 | 27.3 |
| 近畿 | 8 | 25.0 |
| 中国・四国 | 32 | - |
| 九州・沖縄 | 83 | 23.5 |

(経営体数)

(円/kg)

[表38] 飼料用米の加工について：地域別 (N=82)

| | N= | 自社加工している | 自社加工していない |
|--------|----|----------|-----------|
| 全国 | 82 | 37.8 | 62.2 |
| 北海道・東北 | 24 | 41.7 | 58.3 |
| 関東 | 20 | 25.0 | 75.0 |
| 北陸 | 12 | 50.0 | 50.0 |
| 東海 | 11 | 27.3 | 72.7 |
| 近畿 | 1 | 100.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 4 | 0.0 | 100.0 |
| 九州・沖縄 | 10 | 60.0 | 40.0 |

(経営体数)

(%)

- ⑦ 飼料用米を加工委託した場合の加工費は「買取価格に含む」74.1%、「買取価格に含まない」25.9%。
- ⑧ 飼料用米を加工委託した場合の平均加工費は「買取価格に含む」場合が10.8円/kg、「買取価格に含まない」場合が4.3%。
- ⑨ 飼料用米の輸送費負担は「輸送費を負担」が27.9%、「輸送費を負担していない」72.1%。「輸送費を負担」している場合の平均輸送費が7.1円/kgとなっている。

[表39] 飼料用米を加工委託した場合の加工費について：全国 (N=27)

| | N= | 買取価格に含む | 買取価格に含まない |
|----|----|---------|-----------|
| 全国 | 27 | 74.1 | 25.9 |

(経営体数) (%)

[表40] 飼料用米を加工委託した場合の平均加工費：全国 (N=27)

| | N= | 買取価格に含む | 買取価格に含まない |
|----|----|---------|-----------|
| 全国 | 27 | 10.8 | 4.3 |

(経営体数) (円/kg)

[表41] 飼料用米の輸送費負担の有無：全国 (N=61)

| | N= | 輸送費を負担 | 輸送費を負担していない |
|----|----|--------|-------------|
| 全国 | 61 | 27.9 | 72.1 |

(%)

[表42] 飼料用米の平均輸送費：全国 (N=8)

| | N= | 輸送費を負担 |
|----|----|--------|
| 全国 | 8 | 7.1 |

(円/kg)

□エコフィード

- ① エコフィードを利用している経営体は全体の29.9%と約3割が活用している。「利用の予定はない」は、「北海道・東北」が84.1%と目立って高い。
- ② エコフィードの利用形態としては、「エコフィードを含む配合飼料として給与」10.9%、「加熱し、ドライにして給与」7.3%の順。地域別では「エコフィードを含む配合飼料として給与」は「近畿(注:回答の農場数が少ない)」で30.3%、「中国・四国」で19.2%、「東海」で18.2%と高い。「リキッド」は「近畿」で40.0%、「ドライ」も「近畿」で40.0%と高い傾向がみられる。
- ③ エコフィードの入手先は「自家配合」が54.9%、「エコフィード製造事業者等から購入」が45.1%。
※令和3年度からの飼養衛生管理基準の施行を踏まえたうえで回答を得た。

[表43] エコフィードの利用状況：地域別 (N=368)

| | N= | 加熱し、リキッドにして給与 | 加熱し、ドライにして給与 | 加熱の必要のないエコフィードを集め、リキッドにして給与 | エコフィードを含む配合飼料として給与 | 厨芥残さを加熱し給与 | 厨芥残さをそのまま給与 | 利用していないが、利用を検討中・利用してみたい | エコフィードを利用しているが、今後利用しないことを検討している | 利用の予定はない |
|--------|-----|---------------|--------------|-----------------------------|--------------------|------------|-------------|-------------------------|---------------------------------|----------|
| 全国 | 368 | 5.7 | 7.3 | 6.3 | 10.9 | 1.1 | 0.8 | 3.3 | 1.4 | 70.1 |
| 北海道・東北 | 88 | 1.1 | 3.4 | 3.4 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 2.3 | 2.3 | 84.1 |
| 関東 | 107 | 8.4 | 9.3 | 9.3 | 2.8 | 0.0 | 0.9 | 5.6 | 1.9 | 67.3 |
| 北陸 | 18 | 5.6 | 11.1 | 5.6 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 66.7 |
| 東海 | 44 | 2.3 | 2.3 | 9.1 | 18.2 | 4.5 | 2.3 | 4.5 | 2.3 | 65.9 |
| 近畿 | 10 | 40.0 | 40.0 | 10.0 | 30.0 | 10.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 |
| 中国・四国 | 26 | 3.8 | 7.7 | 0.0 | 19.2 | 3.8 | 0.0 | 7.7 | 0.0 | 61.5 |
| 九州・沖縄 | 75 | 5.3 | 6.7 | 5.3 | 13.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 70.7 |

(経営体数) (%)

[表44] エコフィードの入手先：全国 (N=71)

| | N= | 自家配合 (原料を購入・回収し、自ら加工処理を行う) | エコフィード製造事業者等から購入 |
|----|----|----------------------------|------------------|
| 全国 | 71 | 54.9 | 45.1 |

(%)

[表45] エコフィードの平均製造コスト：全国 (N=21)

| | N= | リキッド | N= | 乾燥 |
|----|----|------|----|------|
| 全国 | 21 | 3.4 | 29 | 80.6 |

(経営体数) (経営体数) (円/kg)

[表46] エコフィードの平均購入コスト：全国 (N=12)

| | N= | リキッド | N= | 乾燥 |
|----|----|------|----|------|
| 全国 | 12 | 3.5 | 23 | 34.3 |

(経営体数) (経営体数) (円/kg)

- ④ エコフィードを利用するに当たっての課題は「エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい」「製造施設や機器の導入に課題がある」が共に75.0%でトップ、次いで「エコフィードの原料の排出事業者が近隣にない」50.0%、「エコフィードの飼料設計等調整技術に課題がある」41.7%という結果。

[表47] エコフィードを利用するに当たっての課題：子取り用雌豚飼養規模別 (N=12)

| | N= | エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい | エコフィードの原料の排出事業者が近隣にない | エコフィードの飼料設計等調整技術に課題がある | 製造施設や機器の導入に課題がある | その他 | 特に問題はない |
|----------|----|---------------------------|-----------------------|------------------------|------------------|-----|---------|
| 全体 | 12 | 75.0 | 50.0 | 41.7 | 75.0 | 0.0 | 0.0 |
| 1～19頭 | 2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 20～49頭 | 6 | 66.7 | 16.7 | 16.7 | 66.7 | 0.0 | 0.0 |
| 50～99頭 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 100～199頭 | 2 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 |
| 200～499頭 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 500～999頭 | 2 | 50.0 | 100.0 | 50.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 1,000頭～ | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

(経営体数)

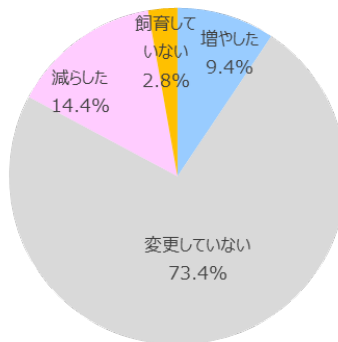
(%)

■ 11.経営の推移と今後の動向

□ 繁殖豚飼養頭数

- ① 繁殖豚飼養頭数は、前年と比較して「増やした」が9.4%で、前年度の12.3%より2.9ポイント減少している。「減らした」は14.4%と、前年度の13.7%より0.7ポイント増加、「変更していない」は73.4%となっている。
- ② 頭数では、「増やした」が8,703頭、「減らした」が6,363頭で、全体で2,340頭増加している。
- ③ 地域別では「増やした」では「近畿(注:回答の農場数が少ない)」で25.0%と高い。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「500頭～999頭」で「増やした」が20.3%と高い。

【図18】 飼養頭数動向【母豚（子取り用雌豚）】：全国（N=710）



【表48】 飼養頭数（子取り用雌豚）の推移：地域別（N=710）

| | N= | 増やした（頭数） | 変わらない（頭数） | 減らした（頭数） | 飼育していない（頭数） |
|--------|--------|--------------|-----------|--------------|-------------|
| 全国 | 710 | 9.4 (8,703) | 73.4 | 14.4 (6,363) | 2.8 |
| 北海道・東北 | 170 | 11.2 (4,485) | 72.4 | 13.5 (2,136) | 2.9 |
| 関東 | 210 | 7.6 (2,007) | 79.5 | 11.4 (2,015) | 1.4 |
| 北陸 | 35 | 8.6 (100) | 74.3 | 14.3 (671) | 2.9 |
| 東海 | 73 | 6.8 (770) | 68.5 | 17.8 (850) | 6.8 |
| 近畿 | 8 | 25.0 (20) | 50.0 | 25.0 (1) | 0.0 |
| 中国・四国 | 42 | 9.5 (32) | 59.5 | 28.6 (232) | 2.4 |
| 九州・沖縄 | 172 | 10.5 (1,289) | 73.3 | 13.4 (458) | 2.9 |
| | (経営体数) | (% (頭数)) | (%) | (% (頭数)) | (%) |

【表49】 飼養頭数の推移：子取り用雌豚飼養規模別（N=636）

| | N= | 増やした（頭数） | 変わらない（頭数） | 減らした（頭数） | 飼育していない（頭数） |
|----------|--------|--------------|-----------|--------------|-------------|
| 全体 | 636 | 9.7 (8,423) | 75.6 | 14.6 (3,571) | 0.0 |
| 1～19頭 | 44 | 9.1 (9) | 65.9 | 25.0 (32) | 0.0 |
| 20～49頭 | 61 | 3.3 (35) | 85.2 | 11.5 (62) | 0.0 |
| 50～99頭 | 108 | 8.3 (69) | 71.3 | 20.4 (185) | 0.0 |
| 100～199頭 | 127 | 8.7 (330) | 81.1 | 10.2 (655) | 0.0 |
| 200～499頭 | 159 | 6.9 (2,580) | 78.6 | 14.5 (1,534) | 0.0 |
| 500～999頭 | 69 | 20.3 (2,580) | 69.6 | 10.1 (380) | 0.0 |
| 1,000頭～ | 68 | 16.2 (2,820) | 69.1 | 14.7 (723) | 0.0 |
| | (経営体数) | (% (頭数)) | (%) | (% (頭数)) | (%) |

□ 繁殖豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由で最も高いのは、「収益をアップするため」が55.4%。次いで「出荷元から増頭の要請があったため」「事情があって減頭していたのを戻した」が20.0%となっている。
- ② 減頭の理由は、「母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した」が43.6%が最も高く、次いで「高齢化で労働が厳しい」が22.8%、「実病対策などで一時的に減頭している」が15.8%の順。
- ③ 増頭の理由「その他」では「震災により豚舎が全壊となり新たに建て直した」「豚熱発生農場で互助金のマックス頭数導入したため」、減頭の理由「その他」では「豚熱(CSF)のため」「災害」という意見があった。

[表50] 増頭の理由：複数回答可・地域別 (N=65)

| | N= | 収益をアップ するため | 出荷先から増 頭の依頼が あったため | 事情があって 減頭していた のを戻した | 繁殖成績が 低下し、出荷 頭数を維持す るため | 後継者が経 営に参加した ため | 養豚農家減 少を見越した 投資 | 近隣に土地を 購入できたた め | その他 |
|--------|----|----------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------|
| 全国 | 65 | 55.4 | 20.0 | 20.0 | 15.4 | 10.8 | 7.7 | 4.6 | 15.4 |
| 北海道・東北 | 19 | 42.1 | 26.3 | 15.8 | 15.8 | 5.3 | 0.0 | 0.0 | 26.3 |
| 関東 | 16 | 56.3 | 12.5 | 25.0 | 25.0 | 18.8 | 12.5 | 12.5 | 6.3 |
| 北陸 | 2 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 |
| 東海 | 5 | 60.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 |
| 近畿 | 2 | 0.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 4 | 50.0 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 25.0 |
| 九州・沖縄 | 17 | 76.5 | 23.5 | 11.8 | 17.6 | 11.8 | 17.6 | 5.9 | 5.9 |

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

[表51] 減頭の理由：複数回答可・地域別 (N=101)

| | N= | 母豚1頭当 たりの繁殖 成績が向上 した | 高齢化で労 働が厳しい | 疾病対策な どで一時的 に減頭して いる | 従業員等労 働力が確保 できない | 環境対策の ため | 廃業予定 | (飼料など) コスト高騰で 規模を縮小 した | 委託・預託 農場になる ため | その他 |
|--------|-----|-------------------------------|----------------|-------------------------------|------------------------|-------------|------|---------------------------------|----------------------|------|
| 全国 | 101 | 43.6 | 22.8 | 15.8 | 12.9 | 12.9 | 6.9 | 5.0 | 0.0 | 15.8 |
| 北海道・東北 | 23 | 39.1 | 21.7 | 8.7 | 13.0 | 8.7 | 0.0 | 13.0 | 0.0 | 17.4 |
| 関東 | 24 | 33.3 | 25.0 | 12.5 | 12.5 | 4.2 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 29.2 |
| 北陸 | 5 | 40.0 | 0.0 | 20.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| 東海 | 13 | 38.5 | 30.8 | 23.1 | 15.4 | 38.5 | 15.4 | 0.0 | 0.0 | 30.8 |
| 近畿 | 2 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 12 | 50.0 | 25.0 | 16.7 | 8.3 | 16.7 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 8.3 |
| 九州・沖縄 | 22 | 59.1 | 18.2 | 22.7 | 13.6 | 9.1 | 4.5 | 4.5 | 0.0 | 0.0 |

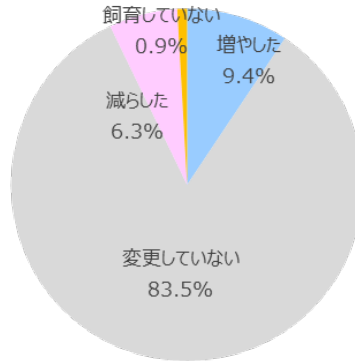
(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

□肥育豚飼養頭数

- ① 肥育豚飼養頭数は、「増やした」が9.4%、「変わらない」が83.5%、「減らした」が6.3%である。
- ② 頭数で見ると、「増やした」が50,860頭、「減らした」が30,204頭で20,656頭増加している。増頭数では前年度の61,346頭を下回っている。
- ③ 地域別では、「増やした」が「中国・四国」で19.6%と目立って高く、「北陸」では「増やした」が6.1%と低い。「減らした」では「東海」の15.9%、「近畿」の15.4%が高く、「近畿」では増減が目立つ。

【図19】 飼養頭数動向【肥育経営（肥育豚）】：全国（N=704）



【表52】 肥育豚飼養頭数の推移：地域別（N=704）

| | N= | 増やした（頭数） | 変わらない（頭数） | 減らした（頭数） | 飼育していない（頭数） |
|--------|--------|---------------|-----------|--------------|-------------|
| 全国 | 704 | 9.4 (50,860) | 83.5 | 6.3 (30,204) | 0.9 |
| 北海道・東北 | 168 | 8.9 (17,720) | 86.3 | 4.8 (18,019) | 0.0 |
| 関東 | 201 | 5.5 (3,170) | 88.1 | 5.5 (1,794) | 1.0 |
| 北陸 | 33 | 6.1 (200) | 90.9 | 3.0 (5,000) | 0.0 |
| 東海 | 69 | 13.0 (5,310) | 68.1 | 15.9 (4,330) | 2.9 |
| 近畿 | 13 | 15.4 (210) | 69.2 | 15.4 (300) | 0.0 |
| 中国・四国 | 46 | 19.6 (4,550) | 71.7 | 8.7 (560) | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 174 | 10.3 (19,700) | 84.5 | 4.0 (201) | 1.1 |
| | (経営体数) | (% (頭数)) | (%) | (% (頭数)) | (%) |

【表53】 肥育豚飼養頭数の推移：子取り用雌豚飼養規模別（N=579）

| | N= | 増やした（頭数） | 変わらない（頭数） | 減らした（頭数） | 飼育していない（頭数） |
|----------|--------|---------------|-----------|--------------|-------------|
| 全体 | 579 | 9.3 (47,560) | 84.8 | 5.0 (11,879) | 0.9 |
| 1～19頭 | 40 | 10.0 (70) | 77.5 | 12.5 (278) | 0.0 |
| 20～49頭 | 51 | 5.9 (560) | 90.2 | 3.9 (0) | 0.0 |
| 50～99頭 | 96 | 7.3 (600) | 80.2 | 10.4 (1,440) | 2.1 |
| 100～199頭 | 116 | 6.9 (1,170) | 92.2 | 0.9 (160) | 0.0 |
| 200～499頭 | 146 | 9.6 (9,225) | 83.6 | 4.8 (6,001) | 2.1 |
| 500～999頭 | 62 | 12.9 (19,250) | 85.5 | 1.6 (200) | 0.0 |
| 1,000頭～ | 68 | 14.7 (16,685) | 80.9 | 4.4 (3,800) | 0.0 |
| | (経営体数) | (% (頭数)) | (%) | (% (頭数)) | (% (頭数)) |

□肥育豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由で最も高いのは、「収益をアップするため」が54.7%、次いで「事情があって減頭していたのを戻した」が12.5%である。
- ② 増頭理由の「その他」では、「つぶれた農場を買った」「新規農場稼働の為」などの意見が聞かれた。
- ③ 減頭の理由で最も高いのは、「高齢化で労働が厳しい」31.0%、次いで「疾病対策などで一時的に減頭している」26.2%となっている。
- ④ 減頭理由の「その他」では、繁殖豚同様に「豚熱(CSF)のため」「災害」などの意見が聞かれた。

【表54】 増頭の理由：複数回答可・地域別 (N=64)

| | N= | 収益をアップ するため | 事情があって 減頭していた のを戻した | 後継者が経営 に参加した ため | 出荷先から増 頭の依頼が あったため | 増体がよく、 出荷が早くな ったため | 養豚農家減 少を見越した 投資 | 近隣に土地を 購入できたた め | その他 |
|--------|----|----------------|---------------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|-----------------------|------|
| 全国 | 64 | 54.7 | 12.5 | 10.9 | 10.9 | 6.3 | 6.3 | 1.6 | 25.0 |
| 北海道・東北 | 15 | 53.3 | 6.7 | 6.7 | 13.3 | 0.0 | 6.7 | 0.0 | 40.0 |
| 関東 | 11 | 72.7 | 9.1 | 18.2 | 9.1 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 9.1 |
| 北陸 | 2 | 50.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 東海 | 9 | 44.4 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.2 |
| 近畿 | 2 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 |
| 中国・四国 | 8 | 37.5 | 25.0 | 0.0 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 0.0 | 25.0 |
| 九州・沖縄 | 17 | 64.7 | 0.0 | 11.8 | 17.6 | 17.6 | 5.9 | 5.9 | 23.5 |

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

【表55】 減頭の理由：複数回答可・地域別 (N=42)

| | N= | 高齢化で労働 が厳しい | 疾病対策な どで一時的 に減頭して いる | 環境対策の ため | 母豚1頭当 たりの繁殖 成績が向上 した | 従業員等労働 力が確保 できない | 廃業予定 | (飼料など) コスト高騰 で規模を縮 小した | 委託・預託 農場になる ため | その他 |
|--------|----|----------------|-------------------------------|-------------|-------------------------------|------------------------|------|---------------------------------|----------------------|------|
| 全国 | 42 | 31.0 | 26.2 | 21.4 | 11.9 | 9.5 | 7.1 | 0.0 | 0.0 | 31.0 |
| 北海道・東北 | 8 | 25.0 | 12.5 | 25.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 |
| 関東 | 11 | 36.4 | 9.1 | 9.1 | 9.1 | 9.1 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 36.4 |
| 北陸 | 1 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 東海 | 11 | 36.4 | 36.4 | 36.4 | 9.1 | 9.1 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 36.4 |
| 近畿 | 2 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 |
| 中国・四国 | 4 | 50.0 | 25.0 | 25.0 | 25.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 5 | 0.0 | 60.0 | 20.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

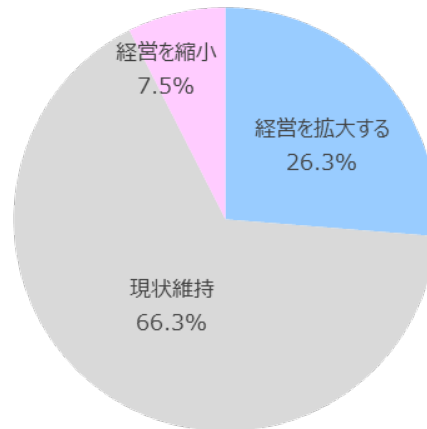
(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

□ 今後の養豚経営の意向

- ① 今後の養豚経営の意向は「経営を拡大する」が26.3%と前年度より6.2ポイント減少している。「現状維持」66.3%、「経営を縮小」が7.5%と、「現状維持」の割合が8.6ポイント増加し、「縮小」は2.3ポイント減少している。
- ② 経営者の年代別では、「拡大する」では、「20・30才代」で53.6%、「40才代」が32.1%と若年層が目立って高い。「縮小・廃業する」は、「70代～」で14.4%と目立って高い。
- ③ 後継者の有無別については、「拡大する」では「経営者が若い」が37.8%、「後継者あり」が36.8%と高い。「縮小・廃業する」では、「後継者なし」が20.9%と目立つ。
- ④ 地域別では、「拡大する」が「中国・四国」で31.8%と目立って高く、「縮小する」では「東海」で15.1%と目立つ。

[図20] 今後の養豚経営の意向：全国（N=750）



[表56] 今後の養豚経営の意向：年代別（N=680）

| | N= | 規模拡大予定 | 増減なく、現状を維持していく | 規模縮小予定 |
|--------|-----|------------|----------------|-----------|
| 全年代 | 680 | 25.9 (176) | 66.3 (451) | 7.8 (53) |
| 20・30代 | 56 | 53.6 (30) | 44.6 (25) | 1.8 (1) |
| 40代 | 134 | 32.1 (43) | 64.9 (87) | 3.0 (4) |
| 50代 | 144 | 22.9 (33) | 71.5 (103) | 5.6 (8) |
| 60代 | 221 | 22.2 (49) | 67.9 (150) | 10.0 (22) |
| 70代～ | 125 | 16.8 (21) | 68.8 (86) | 14.4 (18) |

(経営体数) (% (経営体数))

[表57] 今後の養豚経営の意向：後継者有無別（N=735）

| | N= | 規模拡大予定 | 増減なく、現状を維持していく | 規模縮小予定 |
|---------|-----|------------|----------------|-----------|
| 全体 | 735 | 26.3 (193) | 66.3 (487) | 7.5 (55) |
| 後継者あり | 204 | 36.8 (75) | 57.8 (118) | 5.4 (11) |
| 候補あり未定 | 124 | 30.6 (38) | 64.5 (80) | 4.8 (6) |
| 経営者が若い | 119 | 37.8 (45) | 60.5 (72) | 1.7 (2) |
| 後継者なし | 158 | 4.4 (7) | 74.7 (118) | 20.9 (33) |
| 経営体が異なる | 130 | 21.5 (28) | 76.2 (99) | 2.3 (3) |

(経営体数) (% (経営体数))

【表58】 今後の養豚経営の意向：地域別（N=750）

| | N= | 規模拡大予定 | 増減なく、現状を維持していく | 規模縮小予定 |
|--------|-----|------------|----------------|-----------|
| 全国 | 750 | 26.3 (197) | 66.3 (497) | 7.5 (56) |
| 北海道・東北 | 176 | 24.4 (43) | 68.2 (120) | 7.4 (13) |
| 関東 | 213 | 26.3 (56) | 66.7 (142) | 7.0 (15) |
| 北陸 | 34 | 26.5 (9) | 70.6 (24) | 2.9 (1) |
| 東海 | 73 | 26.0 (19) | 58.9 (43) | 15.1 (11) |
| 近畿 | 14 | 14.3 (2) | 78.6 (11) | 7.1 (1) |
| 中国・四国 | 44 | 31.8 (14) | 63.6 (28) | 4.5 (2) |
| 九州・沖縄 | 196 | 27.6 (54) | 65.8 (129) | 6.6 (13) |

(経営体数)

(% (経営体数))

⑤ 「経営を拡大する」の内訳は、「今年中に規模拡大を計画している」9.8%、「4年以内に規模拡大を計画している」49.7%、「具体的な計画はないが規模拡大を検討したい」40.4%となっている。

⑥ 地域別では、「東海」「中国・四国」で「今年中に規模拡大を計画している」がやや高くなっている。

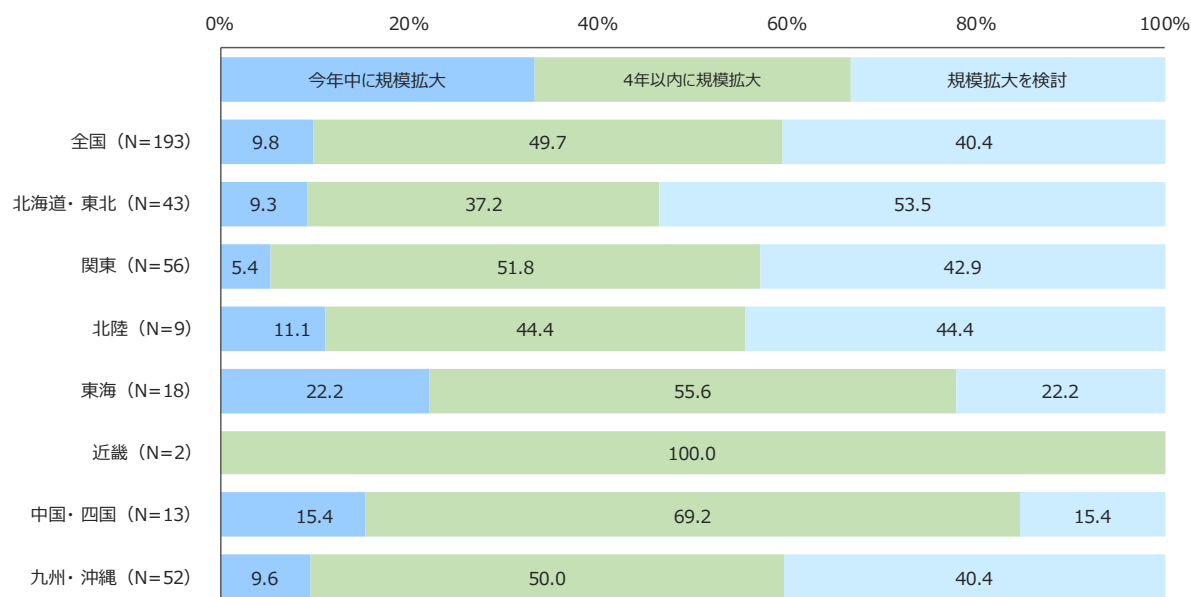
【表59】 経営を拡大する の内訳：地域別（N=193）

| | N= | 経営を拡大する | | |
|--------|-----|-----------------|------------------|-----------------------|
| | | 今年中に規模拡大を計画している | 4年以内に規模拡大を計画している | 具体的な計画はないが、規模拡大を検討したい |
| 全国 | 193 | 9.8 (19) | 49.7 (96) | 40.4 (78) |
| 北海道・東北 | 43 | 9.3 (4) | 37.2 (16) | 53.5 (23) |
| 関東 | 56 | 5.4 (3) | 51.8 (29) | 42.9 (24) |
| 北陸 | 9 | 11.1 (1) | 44.4 (4) | 44.4 (4) |
| 東海 | 18 | 22.2 (4) | 55.6 (10) | 22.2 (4) |
| 近畿 | 2 | 0.0 (0) | 100.0 (2) | 0.0 (0) |
| 中国・四国 | 13 | 15.4 (2) | 69.2 (9) | 15.4 (2) |
| 九州・沖縄 | 52 | 9.6 (5) | 50.0 (26) | 40.4 (21) |

(経営体数)

(% (経営体数))

【図 21】 経営を拡大する の内訳：地域別（N=193）



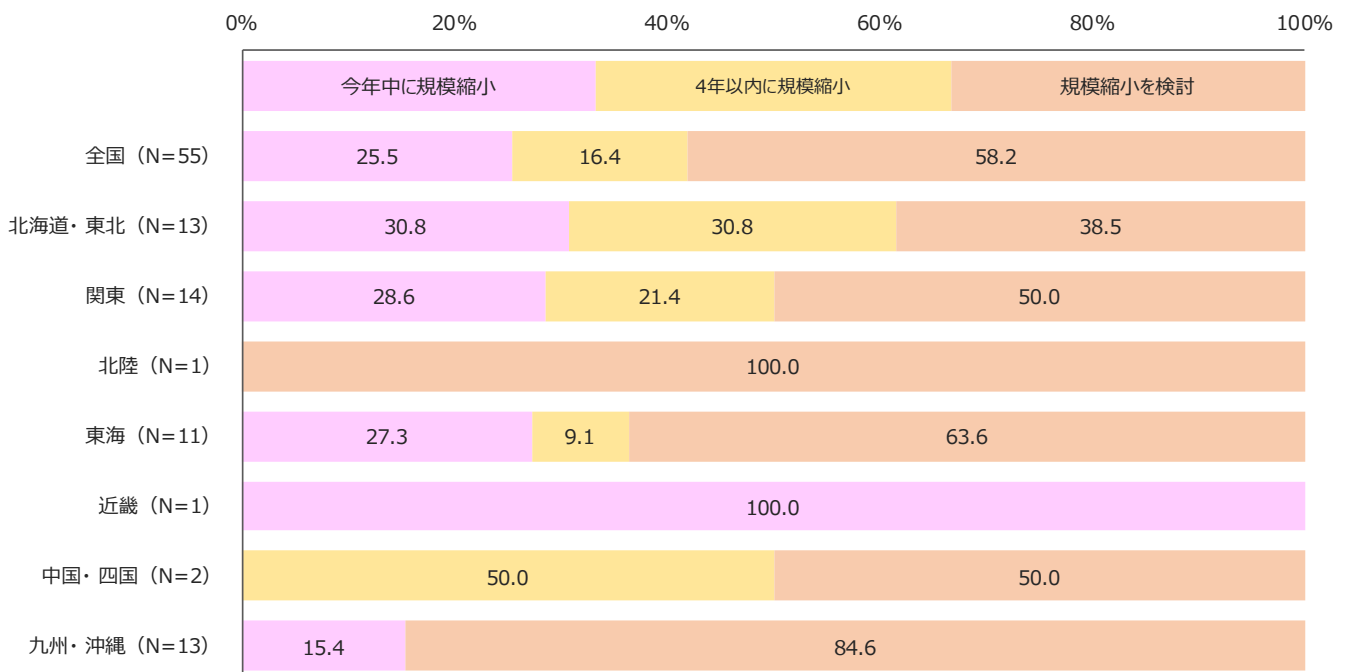
- ⑦ 「経営を縮小する」の内訳では「具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい」が58.2%で最も高く、「今年中に規模縮小を計画している」が25.5%、「4年以内に規模縮小を計画している」が16.4%。
- ⑧ 地域別では、特に「北海道・東北」で「今年中に規模縮小を計画している」が30.8%と高い。
- ⑨ 子取り用雌豚飼養規模別をみると、「経営を拡大する」のは1,000頭以上の規模で高く、逆に経営を「縮小・廃業する」では99頭以下の規模で高い傾向。大規模経営で拡大意向、小規模経営での縮小傾向が顕著にみられる。

【表60】 経営を縮小する の内訳 : 地域別 (N=55)

| | N= | 経営を縮小する | | |
|--------|----|-----------------|------------------|-----------------------|
| | | 今年中に規模縮小を計画している | 4年以内に規模縮小を計画している | 具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい |
| 全国 | 55 | 25.5 (14) | 16.4 (9) | 58.2 (32) |
| 北海道・東北 | 13 | 30.8 (4) | 30.8 (4) | 38.5 (5) |
| 関東 | 14 | 28.6 (4) | 21.4 (3) | 50.0 (7) |
| 北陸 | 1 | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 100.0 (1) |
| 東海 | 11 | 27.3 (3) | 9.1 (1) | 63.6 (7) |
| 近畿 | 1 | 100.0 (1) | 0.0 (0) | 0.0 (0) |
| 中国・四国 | 2 | 0.0 (0) | 50.0 (1) | 50.0 (1) |
| 九州・沖縄 | 13 | 15.4 (2) | 0.0 (0) | 84.6 (11) |

(経営体数) (% (経営体数))

【図22】 経営を縮小する の内訳 : 地域別 (N=55)



【表61】 今後の養豚経営の意向：子取り用雌豚飼養規模別 (N=621)

| | N= | 規模拡大予定 | 増減なく、現状を維持していく | 規模縮小予定 |
|----------|-----|------------|----------------|-----------|
| 全体 | 621 | 26.6 (165) | 65.9 (409) | 7.6 (47) |
| 1～19頭 | 43 | 4.7 (2) | 72.1 (31) | 23.3 (10) |
| 20～49頭 | 57 | 12.3 (7) | 75.4 (43) | 12.3 (7) |
| 50～99頭 | 106 | 17.9 (19) | 69.8 (74) | 12.3 (13) |
| 100～199頭 | 126 | 27.0 (34) | 67.5 (85) | 5.6 (7) |
| 200～499頭 | 153 | 26.8 (41) | 67.3 (103) | 5.9 (9) |
| 500～999頭 | 69 | 43.5 (30) | 55.1 (38) | 1.4 (1) |
| 1,000頭～ | 67 | 47.8 (32) | 52.2 (35) | 0.0 (0) |

(経営体数) (% (経営体数))

【表62】 経営を拡大する の内訳：子取り用雌豚飼養規模別 (N=163)

| | N= | 経営を拡大する | | |
|----------|-----|----------|-----------|-----------|
| | | 今年中に規模拡大 | 4年以内に規模拡大 | 規模拡大を検討意向 |
| 全体 | 163 | 9.2 (15) | 51.5 (84) | 39.3 (64) |
| 1～19頭 | 2 | 0.0 (0) | 100.0 (2) | 0.0 (0) |
| 20～49頭 | 7 | 0.0 (0) | 57.1 (4) | 42.9 (3) |
| 50～99頭 | 19 | 5.3 (1) | 57.9 (11) | 36.8 (7) |
| 100～199頭 | 34 | 5.9 (2) | 41.2 (14) | 52.9 (18) |
| 200～499頭 | 41 | 7.3 (3) | 63.4 (26) | 29.3 (12) |
| 500～999頭 | 29 | 10.3 (3) | 41.4 (12) | 48.3 (14) |
| 1,000頭～ | 31 | 19.4 (6) | 48.4 (15) | 32.3 (10) |

(経営体数) (% (経営体数))

【表63】 経営を縮小する の内訳：子取り用雌豚飼養規模別 (N=46)

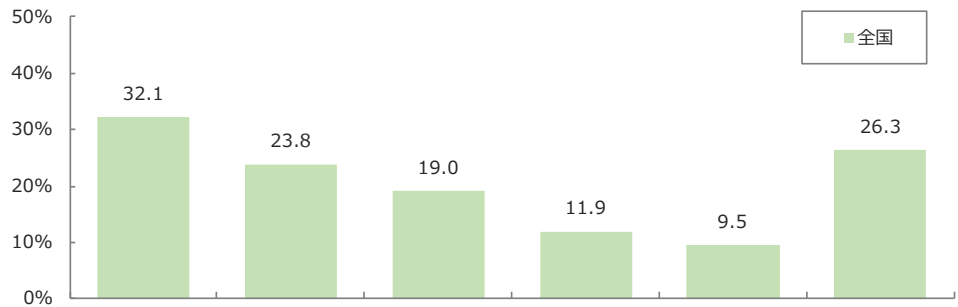
| | N= | 経営を縮小する | | |
|----------|----|-----------------|------------------|-----------------------|
| | | 今年中に規模縮小を計画している | 4年以内に規模縮小を計画している | 具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい |
| 全体 | 46 | 26.1 (12) | 17.4 (8) | 56.5 (26) |
| 1～19頭 | 10 | 40.0 (4) | 20.0 (2) | 40.0 (4) |
| 20～49頭 | 7 | 28.6 (2) | 14.3 (1) | 57.1 (4) |
| 50～99頭 | 12 | 16.7 (2) | 25.0 (3) | 58.3 (7) |
| 100～199頭 | 7 | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 100.0 (7) |
| 200～499頭 | 9 | 33.3 (3) | 22.2 (2) | 44.4 (4) |
| 500～999頭 | 1 | 100.0 (1) | 0.0 (0) | 0.0 (0) |
| 1,000頭～ | 0 | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) |

(経営体数) (% (経営体数))

□ 廃業・廃業予定

- ① 「廃業」または「廃業予定」の理由を回答した84経営体で見ると、「高齢化」が32.1%で最も高く、次いで「後継者がいない」23.8%、「健康上の理由」19.0%となっている。
- ② 「その他」では「借地契約終了」「豚コレラ発生農場再建計画が立たないため」「改正衛生管理基準に適合しないため」「放牧だから」「豚熱の為に子豚の導入が困難の為」などの意見があった。

[図23] 廃業理由：地域別 (N=84)



| | N= | 高齢化 | 後継者がいない | 健康上の理由 | 施設の老朽化 | 豚コレラ (豚熱) | その他 |
|--------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 全国 | 84 | 32.1 (27) | 23.8 (20) | 19.0 (16) | 11.9 (10) | 9.5 (8) | 26.3 (22) |
| 北海道・東北 | 13 | 30.8 (4) | 30.8 (4) | 7.7 (1) | 23.1 (3) | 0.0 (0) | 30.8 (4) |
| 関東 | 27 | 29.6 (8) | 37.0 (10) | 18.5 (5) | 11.1 (3) | 7.4 (2) | 29.6 (8) |
| 北陸 | 0 | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) |
| 東海 | 12 | 25.0 (3) | 16.7 (2) | 16.7 (2) | 8.3 (1) | 41.7 (5) | 0.0 (0) |
| 近畿 | 2 | 50.0 (1) | 50.0 (1) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 0.0 (0) |
| 中国・四国 | 4 | 50.0 (2) | 0.0 (0) | 25.0 (1) | 0.0 (0) | 0.0 (0) | 25.0 (1) |
| 九州・沖縄 | 26 | 34.6 (9) | 11.5 (3) | 26.9 (7) | 11.5 (3) | 3.8 (1) | 34.6 (9) |

(経営体数)

(% (経営体数))

■ 12.衛生管理について

□ 飼養衛生管理基準の改正の認知

- ① 飼養衛生管理基準の改正については93.0%が認知。
- ② 改正内容の理解については「なんとなく分かる」が52.3%、「十分に理解している」が40.5%。地域別では「近畿」で「十分に理解している」が78.6%と高い。
- ③ 改正内容の対応については「改正内容を元に対応中・対応予定」が73.0%。ただし「近畿」で「改正内容には対応できない」が14.3%と目立って高い結果となっている。

【表64】 飼養衛生管理基準の改正の認知：地域別（N=758）

| | N= | 改正されたことを知っている | 改正されたことを知らない |
|--------|-----|---------------|--------------|
| 全国 | 758 | 93.0 | 7.0 |
| 北海道・東北 | 177 | 93.8 | 6.2 |
| 関東 | 216 | 91.7 | 8.3 |
| 北陸 | 33 | 97.0 | 3.0 |
| 東海 | 76 | 93.4 | 6.6 |
| 近畿 | 14 | 100.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 49 | 95.9 | 4.1 |
| 九州・沖縄 | 193 | 91.7 | 8.3 |

(経営体数) (%)

【表65】 飼養衛生管理基準の改正内容の理解：地域別（N=746）

| | N= | 十分に理解している | なんとなく分かる | 分からない |
|--------|-----|-----------|----------|-------|
| 全国 | 746 | 40.5 | 52.3 | 7.2 |
| 北海道・東北 | 174 | 47.1 | 44.3 | 8.6 |
| 関東 | 214 | 32.2 | 59.8 | 7.9 |
| 北陸 | 33 | 48.5 | 48.5 | 3.0 |
| 東海 | 74 | 39.2 | 55.4 | 5.4 |
| 近畿 | 14 | 78.6 | 14.3 | 7.1 |
| 中国・四国 | 48 | 43.8 | 54.2 | 2.1 |
| 九州・沖縄 | 189 | 39.2 | 52.9 | 7.9 |

(経営体数) (%)

【表66】 飼養衛生管理基準の改正内容の対応：地域別（N=715）

| | N= | 改正内容は自農場で対応できる・対応が完了した | 改正内容を元に対応中・対応予定である | 改正内容には対応できない |
|--------|-----|------------------------|--------------------|--------------|
| 全国 | 715 | 21.4 | 73.0 | 5.6 |
| 北海道・東北 | 166 | 22.3 | 70.5 | 7.2 |
| 関東 | 207 | 17.9 | 75.4 | 6.8 |
| 北陸 | 32 | 37.5 | 59.4 | 3.1 |
| 東海 | 68 | 22.1 | 75.0 | 2.9 |
| 近畿 | 14 | 21.4 | 64.3 | 14.3 |
| 中国・四国 | 48 | 27.1 | 72.9 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 180 | 20.0 | 75.0 | 5.0 |

(経営体数) (%)

□実施している衛生管理方法

- ① 実施している衛生管理方法の上位は「豚舎出入口に踏み込み消毒槽を設置」が88.5%、次いで「入退場車両の消毒を行っている」86.5%、「長靴の靴底の洗浄・消毒を行っている」86.3%で行われている。
- ② オールイン・オールアウトは、全部実施17.5%、一部実施35.5%と合計で53.0%が実施している。
- ③ 規模別にみると農場の規模が大きくなるほど実施している衛生管理も多い。

〔表67〕実施している衛生管理方法：地域別（N=747）

| | N= | 入退場車両の消毒を行っている | 訪問者の白帳を作成している | 農場周囲を柵等で囲っている | 畜舎、堆肥舎等に防鳥ネットを設置している | 害虫・害獣対策を行っている | 衛生管理区域を設けゾーニングをしている | 畜舎周辺、農場外縁部に石灰を散布している | 豚舎間で人や資材が交差しないようにしている |
|--------|-----|----------------|---------------|---------------|----------------------|---------------|---------------------|----------------------|-----------------------|
| 全国 | 747 | 86.5 | 72.4 | 78.3 | 57.7 | 69.5 | 55.6 | 68.0 | 33.3 |
| 北海道・東北 | 175 | 79.4 | 71.4 | 61.7 | 54.9 | 66.3 | 64.6 | 72.0 | 41.1 |
| 関東 | 209 | 83.3 | 60.8 | 81.8 | 51.7 | 67.5 | 51.7 | 70.8 | 28.7 |
| 北陸 | 33 | 90.9 | 90.9 | 90.9 | 84.8 | 78.8 | 63.6 | 66.7 | 30.3 |
| 東海 | 74 | 97.3 | 87.8 | 79.7 | 74.3 | 73.0 | 66.2 | 74.3 | 40.5 |
| 近畿 | 13 | 76.9 | 61.5 | 61.5 | 61.5 | 76.9 | 30.8 | 61.5 | 46.2 |
| 中国・四国 | 47 | 87.2 | 80.9 | 85.1 | 59.6 | 72.3 | 48.9 | 70.2 | 31.9 |
| 九州・沖縄 | 196 | 91.8 | 75.5 | 86.2 | 55.1 | 70.4 | 49.5 | 59.2 | 28.6 |

(経営体数) (%)

| | N= | 従業員の担当部署を決め、ほかの豚舎には立ち入らない | 衛生管理責任者を置いている | かかりつけ獣医師、管理獣医師を決めている | ダウンタイムを設けている | シャワーイン・シャワーアウトを行っている | 農場に入る際は、専用の作業着に着替える | 豚舎ごとに長靴と衣服を変えている | 長靴の靴底の洗浄・消毒を行っている |
|--------|-----|---------------------------|---------------|----------------------|--------------|----------------------|---------------------|------------------|-------------------|
| 全国 | 747 | 28.8 | 57.4 | 79.0 | 31.1 | 32.7 | 76.7 | 39.6 | 86.3 |
| 北海道・東北 | 175 | 34.9 | 60.6 | 84.0 | 44.6 | 50.9 | 80.6 | 47.4 | 84.6 |
| 関東 | 209 | 22.0 | 56.5 | 73.7 | 19.6 | 20.6 | 78.5 | 32.1 | 84.7 |
| 北陸 | 33 | 18.2 | 81.8 | 90.9 | 27.3 | 21.2 | 84.8 | 48.5 | 93.9 |
| 東海 | 74 | 36.5 | 60.8 | 87.8 | 33.8 | 36.5 | 75.7 | 50.0 | 86.5 |
| 近畿 | 13 | 15.4 | 46.2 | 38.5 | 23.1 | 0.0 | 76.9 | 38.5 | 84.6 |
| 中国・四国 | 47 | 42.6 | 55.3 | 63.8 | 25.5 | 31.9 | 66.0 | 40.4 | 95.7 |
| 九州・沖縄 | 196 | 27.0 | 51.5 | 81.1 | 32.7 | 32.1 | 73.0 | 35.2 | 86.2 |

(経営体数) (%)

| | N= | 豚舎出入口に踏み込み消毒槽を設置している | 手指の洗浄・消毒をしている | 飲用水等を消毒している | 分娩→離乳→肥育のように、衛生レベルの順に管理している | 豚を豚舎間で移動する際はケージリフトを用いている | 死亡豚はレンジ処理をしている | オールイン・オールアウトを実施している（全部） | オールイン・オールアウトを実施している（一部） |
|--------|-----|----------------------|---------------|-------------|-----------------------------|--------------------------|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 全国 | 747 | 88.5 | 64.8 | 30.0 | 50.2 | 40.2 | 44.7 | 17.5 | 35.5 |
| 北海道・東北 | 175 | 92.6 | 67.4 | 33.7 | 56.6 | 33.1 | 46.3 | 26.3 | 37.1 |
| 関東 | 209 | 86.1 | 63.2 | 21.1 | 50.2 | 38.8 | 42.6 | 12.4 | 36.8 |
| 北陸 | 33 | 97.0 | 57.6 | 21.2 | 60.6 | 48.5 | 39.4 | 12.1 | 30.3 |
| 東海 | 74 | 78.4 | 74.3 | 37.8 | 47.3 | 48.6 | 40.5 | 13.5 | 36.5 |
| 近畿 | 13 | 69.2 | 76.9 | 30.8 | 23.1 | 53.8 | 38.5 | 7.7 | 23.1 |
| 中国・四国 | 47 | 95.7 | 76.6 | 51.1 | 48.9 | 25.5 | 40.4 | 4.3 | 38.3 |
| 九州・沖縄 | 196 | 89.3 | 58.2 | 29.6 | 45.9 | 45.9 | 49.5 | 21.4 | 33.2 |

(経営体数) (%)

[表68] 実施している衛生管理方法：子取り用雌豚頭数別（N=618）

| | N= | 入退場車両の消毒を行っている | 訪問者の台帳を作成している | 農場周囲を柵等で囲っている | 畜舎、堆肥舎等に防鳥ネットを設置している | 害虫・害獣対策を行っている | 衛生管理区域を設けゾーニングをしている | 畜舎周辺、農場外縁部に石灰を散布している | 豚舎間で人や資材が交差しないようにしている |
|----------|-----|----------------|---------------|---------------|----------------------|---------------|---------------------|----------------------|-----------------------|
| 全体 | 618 | 86.7 | 73.6 | 79.4 | 57.4 | 70.1 | 58.7 | 69.1 | 31.9 |
| 1～19頭 | 42 | 66.7 | 61.9 | 64.3 | 42.9 | 54.8 | 38.1 | 69.0 | 26.2 |
| 20～49頭 | 59 | 76.3 | 69.5 | 62.7 | 44.1 | 61.0 | 45.8 | 71.2 | 22.0 |
| 50～99頭 | 103 | 85.4 | 69.9 | 73.8 | 47.6 | 61.2 | 38.8 | 65.0 | 21.4 |
| 100～199頭 | 120 | 84.2 | 62.5 | 79.2 | 55.0 | 66.7 | 43.3 | 68.3 | 19.2 |
| 200～499頭 | 156 | 91.0 | 74.4 | 85.3 | 62.8 | 73.1 | 69.9 | 67.9 | 36.5 |
| 500～999頭 | 69 | 95.7 | 84.1 | 87.0 | 68.1 | 82.6 | 84.1 | 72.5 | 49.3 |
| 1000頭～ | 69 | 95.7 | 97.1 | 91.3 | 73.9 | 87.0 | 88.4 | 73.9 | 53.6 |

(経営体数)

(%)

| | N= | 従業員の担当部署を決め、ほかの豚舎には立ち入らない | 衛生管理責任者を置いている | かかりつけ獣医師、管理獣医師を決めている | ダウンタイムを設けている | シャワーイン・シャワーアウトを行っている | 農場に入る際は、専用の作業着に着替える | 豚舎ごとに長靴と衣服を変えている | 長靴の靴底の洗浄・消毒を行っている |
|----------|-----|---------------------------|---------------|----------------------|--------------|----------------------|---------------------|------------------|-------------------|
| 全体 | 618 | 29.0 | 57.8 | 80.4 | 33.2 | 32.8 | 78.2 | 39.5 | 87.4 |
| 1～19頭 | 42 | 19.0 | 42.9 | 57.1 | 19.0 | 2.4 | 50.0 | 26.2 | 83.3 |
| 20～49頭 | 59 | 10.2 | 44.1 | 67.8 | 18.6 | 15.3 | 61.0 | 18.6 | 88.1 |
| 50～99頭 | 103 | 11.7 | 49.5 | 71.8 | 13.6 | 6.8 | 62.1 | 25.2 | 77.7 |
| 100～199頭 | 120 | 14.2 | 50.8 | 75.0 | 14.2 | 14.2 | 72.5 | 30.0 | 85.0 |
| 200～499頭 | 156 | 37.8 | 62.8 | 86.5 | 37.2 | 41.7 | 89.1 | 50.0 | 89.1 |
| 500～999頭 | 69 | 56.5 | 69.6 | 94.2 | 63.8 | 69.6 | 98.6 | 59.4 | 91.3 |
| 1000頭～ | 69 | 55.1 | 79.7 | 100.0 | 76.8 | 81.2 | 98.6 | 59.4 | 100.0 |

(経営体数)

(%)

| | N= | 豚舎出入りに踏み込み消毒槽を設置している | 手指の洗浄・消毒をしている | 飲用水等を消毒している | 分娩→離乳→肥育のように、衛生レベルの順に管理している | 豚を豚舎間で移動する際はケージやリフトを用いている | 死亡豚はレンジング処理をしている | オールイン・オールアウトを実施している（全部） | オールイン・オールアウトを実施している（一部） |
|----------|-----|----------------------|---------------|-------------|-----------------------------|---------------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全体 | 618 | 89.2 | 65.2 | 30.3 | 54.9 | 41.7 | 44.7 | 16.3 | 36.9 |
| 1～19頭 | 42 | 83.3 | 66.7 | 16.7 | 31.0 | 19.0 | 16.7 | 9.5 | 9.5 |
| 20～49頭 | 59 | 79.7 | 61.0 | 20.3 | 42.4 | 28.8 | 28.8 | 1.7 | 16.9 |
| 50～99頭 | 103 | 83.5 | 52.4 | 17.5 | 35.0 | 34.0 | 30.1 | 1.9 | 19.4 |
| 100～199頭 | 120 | 86.7 | 55.8 | 14.2 | 49.2 | 37.5 | 41.7 | 4.2 | 38.3 |
| 200～499頭 | 156 | 92.3 | 65.4 | 30.8 | 64.7 | 51.3 | 49.4 | 21.8 | 52.6 |
| 500～999頭 | 69 | 98.6 | 78.3 | 56.5 | 73.9 | 56.5 | 69.6 | 42.0 | 40.6 |
| 1000頭～ | 69 | 97.1 | 89.9 | 66.7 | 78.3 | 49.3 | 66.7 | 37.7 | 55.1 |

(経営体数)

(%)

□ ダウンタイムの実施率

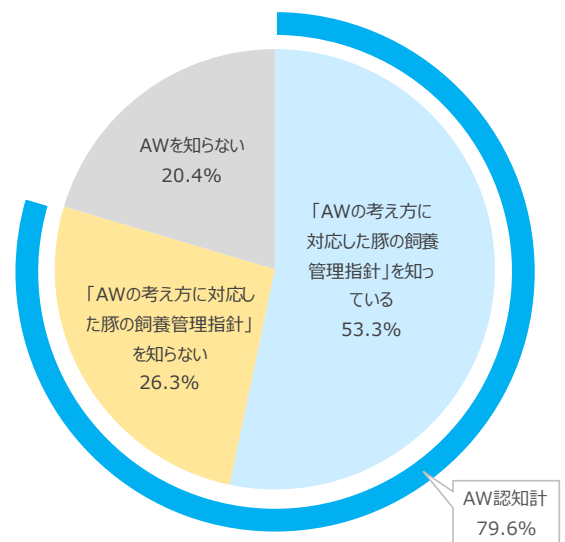
- ① ダウンタイムの実施は全国で31.1%が実施、地域別では「北海道・東北」で44.6%と目立って高い。子取り用雌豚飼養規模別では「500～999頭」で63.8%、「1,000頭～」76.8%と規模が大きい経営体での実施率が高い傾向。
- ② ダウンタイムの実施時間は最大で96時間、最少で10時間、平均では41.8時間となっている。
※ダウンタイムとは畜産関係者と会合の会合後や他農場へ立ち入った後などに、自農場に入るまでに設ける待機時間のことを指す。

■ 13.アニマルウェルフェアについて

□ アニマルウェルフェアの認知度

- ① アニマルウェルフェアの取り組みの状況については、アニマルウェルフェアを「認知している」が79.6%、「知らない」が20.4%。
- ② 認知者の内容は「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針を知っている」が53.3%、「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針を知らない」26.3%となっている。
- ③ 地域別では「北陸」で「指針を知っている」が73.3%と目立って高く、「東海」では「AWを知らない」が26.9%と高い。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では、「200頭以上」の規模で「指針を知っている」が高く、「99頭以下」の規模で「AWを知らない」が高い傾向にある。

【図24】 アニマルウェルフェアと管理指針の認知：全国 (N=666)



【表69】 アニマルウェルフェアと管理指針の認知：地域別 (N=666)

| | | 「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針」を知っている | 「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針」を知らない | AWを知らない |
|--------|-----|-----------------------------|----------------------------|---------|
| 全国 | 666 | 53.3 | 26.3 | 20.4 |
| 北海道・東北 | 164 | 59.8 | 24.4 | 15.9 |
| 関東 | 186 | 47.8 | 32.3 | 19.9 |
| 北陸 | 30 | 73.3 | 16.7 | 10.0 |
| 東海 | 67 | 49.3 | 23.9 | 26.9 |
| 近畿 | 10 | 40.0 | 50.0 | 10.0 |
| 中国・四国 | 43 | 58.1 | 20.9 | 20.9 |
| 九州・沖縄 | 166 | 50.6 | 24.1 | 25.3 |

(経営体数) (%)

【表70】 アニマルウェルフェアと管理指針の認知：子取り用雌豚頭数別 (N=559)

| | | 「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針」を知っている | 「AWの考え方に対応した豚の飼養管理指針」を知らない | AWを知らない |
|----------|-----|-----------------------------|----------------------------|---------|
| 全体 | 559 | 53.8 | 27.2 | 19.0 |
| 1~19頭 | 40 | 47.5 | 17.5 | 35.0 |
| 20~49頭 | 46 | 47.8 | 30.4 | 21.7 |
| 50~99頭 | 87 | 25.3 | 37.9 | 36.8 |
| 100~199頭 | 111 | 45.0 | 34.2 | 20.7 |
| 200~499頭 | 141 | 59.6 | 27.0 | 13.5 |
| 500~999頭 | 66 | 72.7 | 16.7 | 10.6 |
| 1000頭~ | 68 | 82.4 | 16.2 | 1.5 |

(経営体数) (%)

□AWの現状と今後の意向【AW認知者】

- ① 認知者のアニマルウェルフェアの現状と今後の意向については、「指針に従ってAWの考え方を取り入れている」が27.7%、「指針に従って、AWの考え方を取り入れる予定」が34.5%、「指針を知っているが、AWの考え方を取り入れる予定はない」が37.8%。
- ② 地域別では「指針に従ってAWの考え方を取り入れている」は「中国・四国」の39.1%、「北海道・東北」の34.1%が高い。
- ③ 子取り用雌豚頭数別では「指針に従ってAWの考え方を取り入れている」は「1～19頭」で52.6%と高く、「指針を知っているが、AWの考え方を取り入れる予定はない」は「100～199頭」で47.9%となっている。

【表71】 【認知者】アニマルウェルフェアの現状と今後の意向：地域別 (N=336)

| | N= | 指針に従って、 AWの考え方を取り入れている | 指針に従って、 AWの考え方を取り入れる予定 | 指針を知っているが、 AWの考え方を取り入れる 予定はない |
|--------|-----|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------|
| 全国 | 336 | 27.7 | 34.5 | 37.8 |
| 北海道・東北 | 91 | 34.1 | 31.9 | 34.1 |
| 関東 | 87 | 26.4 | 35.6 | 37.9 |
| 北陸 | 20 | 15.0 | 35.0 | 50.0 |
| 東海 | 33 | 21.2 | 36.4 | 42.4 |
| 近畿 | 4 | 25.0 | 25.0 | 50.0 |
| 中国・四国 | 23 | 39.1 | 34.8 | 26.1 |
| 九州・沖縄 | 78 | 24.4 | 35.9 | 39.7 |

(経営体数) (%)

【表72】 【認知者】アニマルウェルフェアと管理指針の認知：子取り用雌豚頭数別 (N=289)

| | N= | 指針に従って、 AWの考え方を取り入れている | 指針に従って、 AWの考え方を取り入れる予定 | 指針を知っているが、 AWの考え方を取り入れる 予定はない |
|----------|-----|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------|
| 全体 | 289 | 27.7 | 33.6 | 38.8 |
| 1～19頭 | 19 | 52.6 | 21.1 | 26.3 |
| 20～49頭 | 21 | 28.6 | 28.6 | 42.9 |
| 50～99頭 | 22 | 36.4 | 31.8 | 31.8 |
| 100～199頭 | 48 | 14.6 | 37.5 | 47.9 |
| 200～499頭 | 81 | 23.5 | 39.5 | 37.0 |
| 500～999頭 | 44 | 31.8 | 36.4 | 31.8 |
| 1000頭～ | 54 | 29.6 | 25.9 | 44.4 |

(経営体数) (%)

□AWの現状と今後の意向【AW非認知者】

- ① 非認知者のアニマルウェルフェアの現状と今後の意向については、「指針は知らないが、AWの考え方を取り入れている」が5.5%、「指針は知らないが、AWの考え方を取り入れる予定」が42.7%、「指針を知らず、AWの考え方を取り入れる予定もない」が51.8%。
- ② 地域別では「指針は知らないが、AWの考え方を取り入れている」は「北海道・東北」の10.5%が高く、「指針を知らず、AWの考え方を取り入れる予定もない」はいずれも回答農場数が少ないが「近畿」が100.0%、「中国・四国」が66.7%となっている。
- ③ 子取り用雌豚頭数別では「指針は知らないが、AWの考え方を取り入れている」は「1,000頭以上」で18.2%と高く、「指針を知らず、AWの考え方を取り入れる予定もない」は「500～999頭」で72.7%と目立って高くなっている。

【表73】 【非認知者】アニマルウェルフェアの現状と今後の意向：地域別 (N=164)

| | N= | 指針は知らないが、 AWの考え方を取り入れている | 指針は知らないが、 AWの考え方を取り入れる予定 | 指針を知らず、AWの考え方を 取り入れる予定もない |
|--------|-----|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 全国 | 164 | 5.5 | 42.7 | 51.8 |
| 北海道・東北 | 38 | 10.5 | 36.8 | 52.6 |
| 関東 | 57 | 7.0 | 49.1 | 43.9 |
| 北陸 | 4 | 0.0 | 50.0 | 50.0 |
| 東海 | 15 | 6.7 | 33.3 | 60.0 |
| 近畿 | 5 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| 中国・四国 | 9 | 0.0 | 33.3 | 66.7 |
| 九州・沖縄 | 36 | 0.0 | 50.0 | 50.0 |

(経営体数) (%)

【表74】 【非認知者】アニマルウェルフェアの現状と今後の意向：子取り用雌豚頭数別 (N=142)

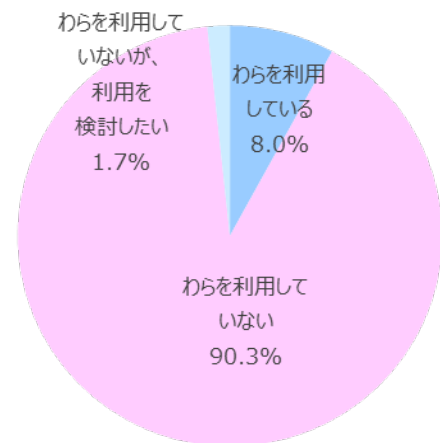
| | N= | 指針は知らないが、 AWの考え方を取り入れている | 指針は知らないが、 AWの考え方を取り入れる予定 | 指針を知らず、AWの考え方を 取り入れる予定もない |
|----------|-----|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 全体 | 142 | 3.5 | 45.1 | 51.4 |
| 1～19頭 | 6 | 0.0 | 33.3 | 66.7 |
| 20～49頭 | 11 | 0.0 | 54.5 | 45.5 |
| 50～99頭 | 32 | 6.3 | 53.1 | 40.6 |
| 100～199頭 | 36 | 2.8 | 44.4 | 52.8 |
| 200～499頭 | 35 | 0.0 | 51.4 | 48.6 |
| 500～999頭 | 11 | 0.0 | 27.3 | 72.7 |
| 1000頭～ | 11 | 18.2 | 18.2 | 63.6 |

(経営体数) (%)

□母豚へのわらの利用

- ① 母豚へのわらの利用は90.3%が「利用していない」と回答。「利用している」は8.0%に留まる。
- ② 地域別では、最もわらを「利用している」のは「北海道・東北」で16.8%となっている。

【図25】 母豚へのわらの利用率：全国（N=641）



【表75】 母豚へのわらの利用率：地域別（N=641）

| | N= | わらを利用している | わらを利用していない | わらを利用していないが、 利用を検討したい |
|--------|-----|-----------|------------|--------------------------|
| 全国 | 641 | 8.0 | 90.3 | 1.7 |
| 北海道・東北 | 155 | 16.8 | 83.2 | 0.0 |
| 関東 | 183 | 5.5 | 92.3 | 2.2 |
| 北陸 | 31 | 0.0 | 96.8 | 3.2 |
| 東海 | 69 | 4.3 | 92.8 | 2.9 |
| 近畿 | 7 | 0.0 | 100.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 39 | 10.3 | 89.7 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 157 | 5.1 | 92.4 | 2.5 |

(経営体数) (%)

□飼料中の食物繊維・粗たんぱく質について

- ① 胃潰瘍を最小限とするために飼料中の食物繊維を増量・粗たんぱく質を低減した飼料給与をしているかを尋ねたところ、「気を付けている」との回答が43.0%、「気を付けていない」24.7%、「わからない」32.3%となっている。
- ② 地域別では、「北海道・東北」で「気を付けている」が51.2%と目立って高い。

【表76】 胃潰瘍に配慮した飼料給与の実施率：地域別（N=677）

| | N= | 気を付けている | 気を付けていない | わからない |
|--------|-----|---------|----------|-------|
| 全国 | 677 | 43.0 | 24.7 | 32.3 |
| 北海道・東北 | 162 | 51.2 | 25.3 | 23.5 |
| 関東 | 192 | 43.8 | 25.0 | 31.3 |
| 北陸 | 31 | 38.7 | 9.7 | 51.6 |
| 東海 | 70 | 37.1 | 30.0 | 32.9 |
| 近畿 | 11 | 45.5 | 45.5 | 9.1 |
| 中国・四国 | 41 | 36.6 | 31.7 | 31.7 |
| 九州・沖縄 | 170 | 38.8 | 21.2 | 40.0 |

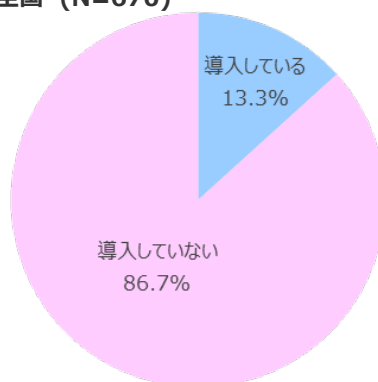
(経営体数) (%)

■ 14.農場HACCP等について

□農場HACCP等導入状況

- ① 農場HACCP等認証の導入有無では、「導入している」が13.3%と、前年度の16.3%より3.0ポイント減少している。
- ② 地域別では、「関東」が18.0%と高く、「中国・四国（注：回答の農場数が少ない）」が5.1%と低くなっている。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「導入している」が「1,000頭～」で33.3%、「500～999頭」で31.8%。200頭未満では「導入していない」が9割以上となっている。

【図26】農場HACCP等の導入率：全国（N=670）



【表77】農場HACCP等の導入・取得率：地域別（N=670）

| | N= | 導入・取得済み | 導入・取得していない |
|--------|-----|---------|------------|
| 全体 | 670 | 13.3 | 86.7 |
| 北海道・東北 | 168 | 14.9 | 85.1 |
| 関東 | 189 | 18.0 | 82.0 |
| 北陸 | 30 | 10.0 | 90.0 |
| 東海 | 70 | 7.1 | 92.9 |
| 近畿 | 11 | 9.1 | 90.9 |
| 中国・四国 | 39 | 5.1 | 94.9 |
| 九州・沖縄 | 163 | 11.7 | 88.3 |

(経営体数) (%)

【表78】農場HACCP等の導入・取得率：子取り用雌豚頭数別（N=573）

| | N= | 導入・取得済み | 導入・取得していない |
|----------|-----|---------|------------|
| 全体 | 573 | 14.3 | 85.7 |
| 1～19頭 | 38 | 2.6 | 97.4 |
| 20～49頭 | 48 | 2.1 | 97.9 |
| 50～99頭 | 91 | 4.4 | 95.6 |
| 100～199頭 | 113 | 6.2 | 93.8 |
| 200～499頭 | 148 | 16.9 | 83.1 |
| 500～999頭 | 66 | 31.8 | 68.2 |
| 1000頭～ | 69 | 33.3 | 66.7 |

(経営体数) (%)

- ④ 導入・取得済みの認証では「農場HACCP」88.9%、「JGAP家畜・畜産物」26.5%、「SQF等、その他の認証」8.9%となっている。
- ⑤ 地域別では回答農場体数が少ないものの、「農場HACCP」が「東海」「近畿」「中国・四国」で100.0%。「JGAP家畜・畜産物」は「北海道・東北」で52.0%。
- ⑥ 子取り用雌豚頭数別では頭数が少ないものの「20～99頭」で「農所HACCP」の割合が高い。「JGAP家畜・畜産物」は「1000頭～」が34.8%と高い。

【表79】 導入・取得済みの認証：地域別 (N=90)

| | N= | 農場HACCP | JGAP家畜・畜産物 | SQF等、その他の認証 |
|--------|----|---------|------------|-------------|
| 全国 | 90 | 88.9 | 26.7 | 8.9 |
| 北海道・東北 | 25 | 88.0 | 52.0 | 8.0 |
| 関東 | 34 | 94.1 | 20.6 | 2.9 |
| 北陸 | 3 | 66.7 | 0.0 | 33.3 |
| 東海 | 6 | 100.0 | 16.7 | 0.0 |
| 近畿 | 1 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中国・四国 | 2 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 九州・沖縄 | 19 | 78.9 | 15.8 | 21.1 |

(経営体数) (%)

【表80】 導入・取得済みの認証：子取り用雌豚頭数別 (N=83)

| | N= | 農場HACCP | JGAP家畜・畜産物 | SQF等、その他の認証 |
|----------|----|---------|------------|-------------|
| 全体 | 83 | 88.0 | 26.5 | 9.6 |
| 1～19頭 | 1 | 0.0 | 100.0 | 0.0 |
| 20～49頭 | 1 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 50～99頭 | 4 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| 100～199頭 | 7 | 71.4 | 28.6 | 14.3 |
| 200～499頭 | 26 | 88.5 | 19.2 | 11.5 |
| 500～999頭 | 21 | 90.5 | 28.6 | 9.5 |
| 1000頭～ | 23 | 91.3 | 34.8 | 8.7 |

(経営体数) (%)

- ⑦ 認証未導入・未取得の場合の今後の意向では、「導入・取得の予定はない」が61.6%。「現在申請中」は2.7%。
- ⑧ 地域別では、「現在申請中」は「北陸」8.0%が最も高い。「導入・取得の予定はない」は「近畿」80.0%が最も高く、次いで「東海」67.2%となっている。
- ⑨ 子取り用雌豚飼養規模別では、「現在申請中」は「1000頭～」16.3%が最も高い。「導入・取得を検討」は「1000頭～」20.9%、「500～999頭」20.0%。「現時点で予定はないが、今後検討したい」は200頭以上で高く、「導入・取得の予定はない」は200頭未満で高くなっている。

【表81】 認証未導入・未取得の場合の今後の意向：地域別（N=560）

| | N= | 現在申請中 | 導入・取得を検討 | 現時点で予定はないが、 今後検討したい | 導入・取得の予定はない |
|--------|-----|-------|----------|------------------------|-------------|
| 全国 | 560 | 2.7 | 10.2 | 25.5 | 61.6 |
| 北海道・東北 | 139 | 3.6 | 12.9 | 26.6 | 56.8 |
| 関東 | 150 | 0.7 | 11.3 | 24.7 | 63.3 |
| 北陸 | 25 | 8.0 | 12.0 | 16.0 | 64.0 |
| 東海 | 64 | 3.1 | 6.3 | 23.4 | 67.2 |
| 近畿 | 10 | 0.0 | 10.0 | 10.0 | 80.0 |
| 中国・四国 | 35 | 2.9 | 8.6 | 34.3 | 54.3 |
| 九州・沖縄 | 137 | 2.9 | 8.0 | 27.0 | 62.0 |

(経営体数) (％)

【表82】 認証未導入・未取得の場合の今後の意向：子取り用雌豚頭数別（N=474）

| | N= | 現在申請中 | 導入・取得を検討 | 現時点で予定はないが、 今後検討したい | 導入・取得の予定はない |
|----------|-----|-------|----------|------------------------|-------------|
| 全体 | 474 | 3.2 | 9.7 | 26.6 | 60.5 |
| 1～19頭 | 35 | 0.0 | 2.9 | 17.1 | 80.0 |
| 20～49頭 | 45 | 2.2 | 2.2 | 13.3 | 82.2 |
| 50～99頭 | 83 | 0.0 | 6.0 | 24.1 | 69.9 |
| 100～199頭 | 102 | 0.0 | 4.9 | 23.5 | 71.6 |
| 200～499頭 | 121 | 5.0 | 13.2 | 33.1 | 48.8 |
| 500～999頭 | 45 | 2.2 | 20.0 | 33.3 | 44.4 |
| 1000頭～ | 43 | 16.3 | 20.9 | 34.9 | 27.9 |

(経営体数) (％)

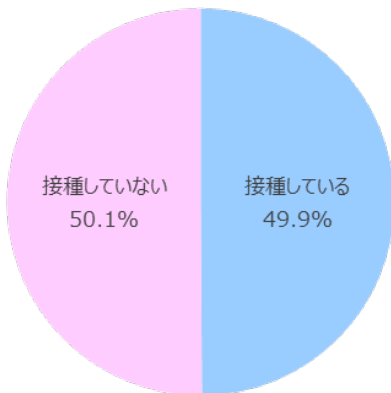
■ 15.豚熱ワクチンについて

□豚熱ワクチンの接種状況

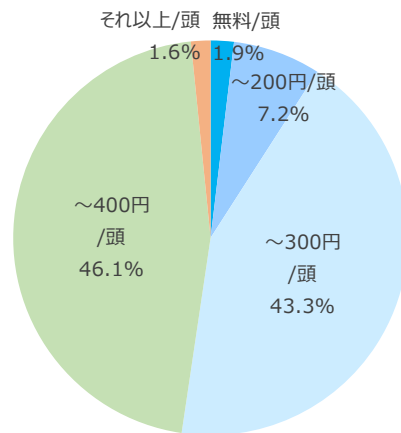
- ① 接種率は、「接種している」49.9%、「接種していない」50.1%とほぼ半々。
- ② 接種価格は、「～400円」46.1%、「～300円」43.3%、「～200円」7.2%。
- ③ 接種価格「その他」では「無料が望ましい」「自分で接種できればコスト低減できる」「高いうえ、県ごとに単価が違うのが納得できない」といった意見がきかれた。
- ④ 接種意向は、「全国」で「接種範囲に指定されればしたい」63.7%、「接種範囲に指定されなくてもほしい」8.9%、「接種したくない」27.4%。

※調査集計時期：2020年9月～10月末

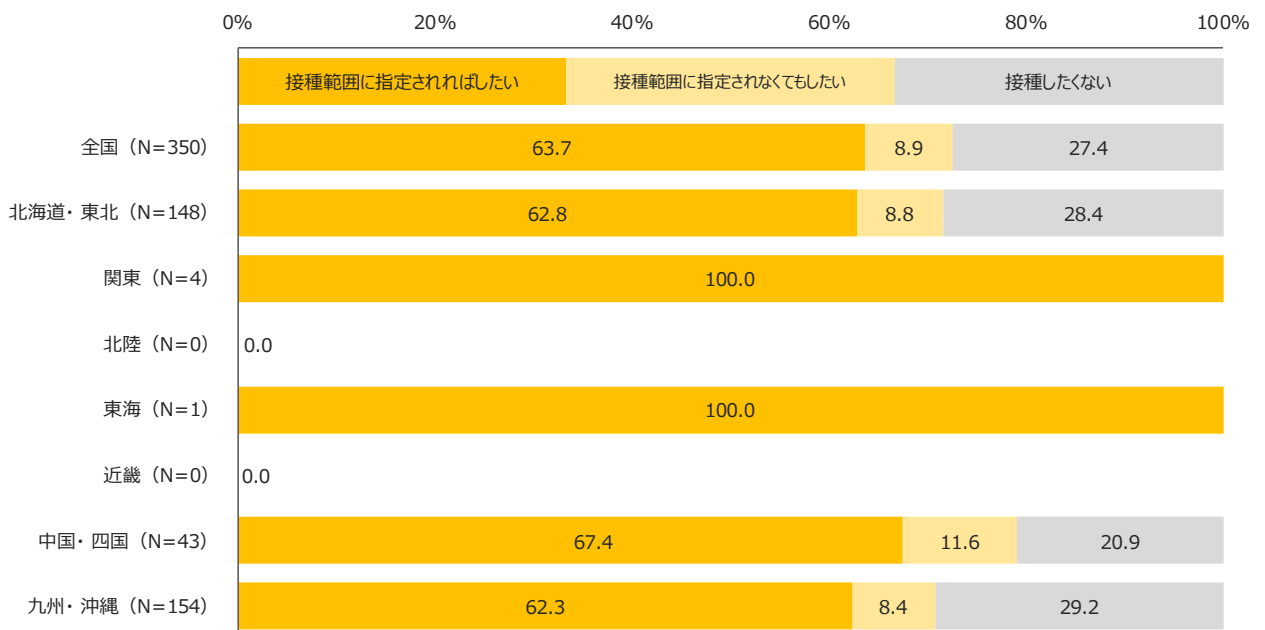
【図27】 豚熱ワクチンの接種率：全国（N=745）



【図28】 豚熱ワクチンの現在の接種価格：全国（N=319）

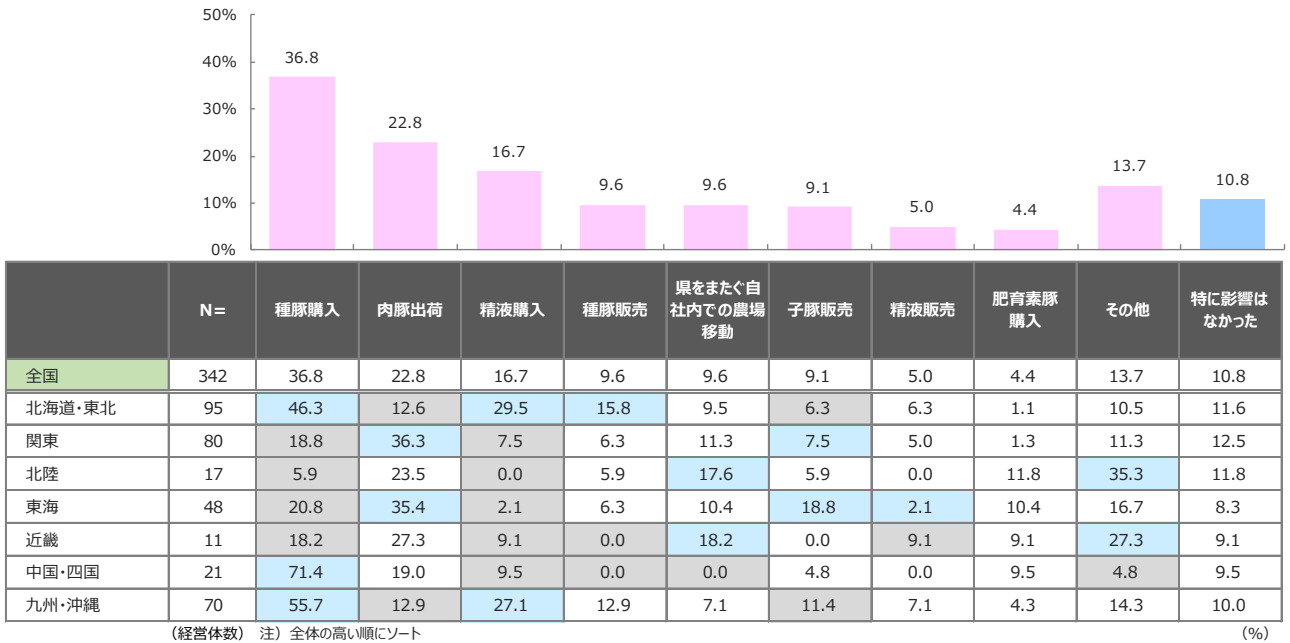


【図29】 豚熱ワクチンの接種意向：地域別（N=350）

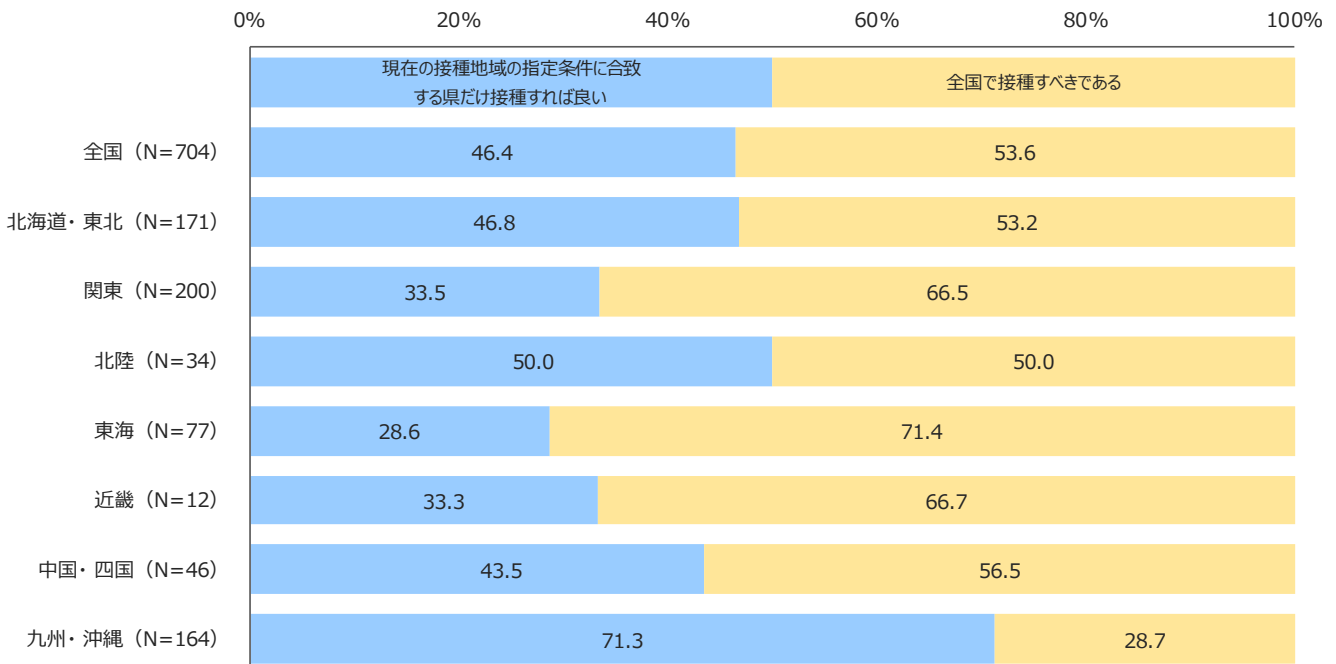


- ⑤ 地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響は、「種豚購入」36.8%、「肉豚出荷」22.8%、「精液購入」16.7%の順に高い。
- ⑥ 地域別では、「北海道・東北」「九州・沖縄」で「種豚購入」「精液購入」が高く、「関東」「東海」で「肉豚出荷」「子豚販売」が高い。「北陸」「近畿」は「県をまたぐ自社内での農場移動」が高い。「中国・四国」では「種豚購入」が71.4%と他の地域より最も高い。
- ⑦ 豚熱ワクチンの接種に対する考え方は、「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」46.4%、「全国で接種すべきである」53.6%。「九州・沖縄」で「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」が71.3%と高い。

【図30】 地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響：地域別 (N=342)



【図31】 豚熱ワクチンの接種に対する考え方：地域別(N=704)



令和2年度

養豚農業実態調査調査票

(事務局記入欄)

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

2020年度 養豚農業実態調査

基本情報

| | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|--------|----|-----------------------------------|
| フリガナ | | フリガナ | | 性別 | 男・女 |
| 法人名等 | | 経営者名 | | 生年 | 大正・昭和・平成・西暦 年 |
| 農場所在地 | 〒 - 都 道 市 区 府 県 郡 町 村 | | | | |
| 連絡先住所 (事務所・自宅等、 上記と別にあれば 記載) | 〒 - 都 道 市 区 府 県 郡 町 村 | | | | |
| 電話番号 | | | 携帯電話番号 | | |
| メールアドレス | | | FAX番号 | | |
| 記入者名 (経営者と 異なる場合 のみ記載) | 記入者と 経営者との 関係 | 1. 本人 2. 家族：父・母・子・配偶者・その他（ ） 3. 従業員：役職（ ） 4. 関連団体（ ） | | | 記入者 連絡先 (メールアドレス・ 携帯電話等) |
| 廃業 (廃業の方のみ記 入) | 1. 廃業する予定はない → Q1へ 2. すでに廃業している } 廃業・予定年月日 西暦 年 月 3. 廃業予定 } 廃業理由： | | | | |

アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

現業の経営状況についてお伺いします

Q1. 現在の経営形態をお知らせください。(○はひとつ)

1. 個人経営 (家族労働主体)
2. 法人経営 (農事組合法人・有限会社・株式会社)
3. 上記以外の法人経営 (具体的に：)
4. 農業協同組合法人 (農協等) の直営養豚場
5. その他 (都道府県、公益法人、学校法人等上記1から4以外)

Q2. 現在、契約・預託農場ですか？ (○はひとつ)

1. 契約・預託農場ではない
2. 契約・預託農場である (会社、農協、民間養豚場等)

Q3. 現在の養豚に従事している方をお知らせください。(〇はいくつでも) またその人数をお知らせください。

- | | | | |
|---------------------------------------|---|----------------------|---|
| 1. 家族労働 (経営主本人、配偶者、子、孫、きょうだい、父母、祖父母等) | → | <input type="text"/> | 人 |
| 2. 常勤雇員 (社員、契約社員、パート、アルバイト) | → | <input type="text"/> | 人 |
| 3. 非常勤雇員 (必要な日、必要な時間で雇用) | → | <input type="text"/> | 人 |
| 4. その他 (豚肉加工・販売など担当) | → | <input type="text"/> | 人 |

該当する人数を記入

Q4. 現在、農場の人員は足りていますか？ (〇はひとつ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 人員は足りている | 2. 人員は足りていない |
|-------------|--------------|

Q5. 後継者についてお知らせください。(〇はひとつ) また後継者や対象者のいる方は年齢をご記入ください。

- | | | | | |
|--------------------------|---|--------|----------------------|---|
| 1. 後継者は決まっている | → | 後継者の年齢 | <input type="text"/> | 歳 |
| 2. 対象者はいるが、現在は決まっていない | → | 対象者の年齢 | <input type="text"/> | 歳 |
| 3. 自分の年齢が若いので考えていない | | | | |
| 4. 後継者はいない・後継者は考えていない | | | | |
| 5. 経営形態が後継者と関係ない (株式会社等) | | | | |

Q6. 経営タイプについてお知らせください。(〇はひとつ)

- | | | |
|-----------------|---|-------------------------------------|
| 1. 肉豚生産 | → | <input type="text" value="Q7^"/> |
| 2. 繁殖経営 | → | <input type="text" value="Q8^"/> |
| 3. 肉豚生産・繁殖経営の両方 | → | <input type="text" value="Q7・Q8^"/> |

Q7. 肉豚生産について該当する箇所に農場数をご記入ください。

| 経営タイプ | 農場形態 | 飼養形態 | 飼養豚 | 所有農場数 | 他都道府県にある農場数 | |
|-------|-----------|-------------|-------|--------------------|-------------|----|
| 肉豚生産 | 1. 一般生産農場 | | | ヶ所 | ヶ所 | |
| | 一貫経営 | 2. マルチサイト経営 | 1. 繁殖 | 純粋種豚 ① | ヶ所 | ヶ所 |
| | | | | 純粋種豚+子取り用雌豚 (PS) ② | ヶ所 | ヶ所 |
| | | | | 子取り用雌豚 (PS) ③ | ヶ所 | ヶ所 |
| | | 2. 肥育 | 子豚 ① | ヶ所 | ヶ所 | |
| | | | 肥育豚 ② | ヶ所 | ヶ所 | |
| | 3. 肥育 | | ヶ所 | ヶ所 | | |

Q8. 繁殖経営について該当する箇所に農場数をご記入ください。

| 経営タイプ | 農場形態 | 飼養形態 | 飼養豚 | 所有農場数 | 他都道府県にある農場数 |
|-------|------|------|--------------------|-------|-------------|
| 繁殖経営 | 繁殖 | | 純粋種豚 ① | ヶ所 | ヶ所 |
| | | | 純粋種豚+子取り用雌豚 (PS) ② | ヶ所 | ヶ所 |
| | | | 子取り用雌豚 (PS) ③ | ヶ所 | ヶ所 |

Q9. 飼養している品種・頭数についてお知らせください。(該当する箇所に頭数等記入)

2020年8月1日現在の頭数を記入

| | 品種 | ランドレース (L) | 大ヨークシャー (W) | 中ヨークシャー (Y) | パークシャー (B) | デュロック (D) | 多産系 (TOPIGS/ダンブレッド等) | その他 | 計 |
|------------------------------|--------------|------------|-------------|-------------|------------|-----------|----------------------|-----------------------|-----|
| | | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 品種: 頭数: | 品種: 頭数: | |
| 純粋種 | ♀頭数 (子取り用雌豚) | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 品種: 頭数: | 品種: 頭数: | ① 頭 |
| | ♂頭数 (種雄豚) | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 品種: 頭数: | 品種: 頭数: | ② 頭 |
| | 品種 | LW | WL | LW.WL 何れか | DB | BD | その他の組み合わせ | 海外ハイブリッド (ハイボ-ケンボロ-等) | 計 |
| 交雑種 | ♀頭数 (子取り用雌豚) | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 組み合わせ: 頭数: | 品種: 頭数: | ③ 頭 |
| | ♂頭数 (種雄豚) | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 組み合わせ: 頭数: | 品種: 頭数: | ④ 頭 |
| 育成豚(繁殖利用予定で未交配(雌、雄)のもの) | | | | | | | | | ⑤ 頭 |
| 子豚(子豚舎、子豚豚房で飼養しているもの+哺乳中のもの) | | | | | | | | | ⑥ 頭 |
| 肥育豚(肥育舎、肥育豚房で飼養しているもの) | | | | | | | | | ⑦ 頭 |
| 飼養頭数合計(①~⑦の合計) | | | | | | | | | 頭 |

飼養頭数・出荷頭数等についてお伺いします

Q10. 導入・出荷頭数についてお知らせください。(該当する箇所に頭数を記入)

令和元年度の決算期間の総計を記入

| | | | | | |
|----------------|---|---|---------------------|---|---|
| 純粋種豚導入頭数 | → | 頭 | 種豚候補豚(純粋種・F1等)の販売頭数 | → | 頭 |
| 子取り用雌豚(PS)導入頭数 | → | 頭 | 年間肉用子豚出荷頭数(販売) | → | 頭 |
| 肥育豚導入頭数 | → | 頭 | 繁殖豚(雄、雌)年間廃用頭数 | → | 頭 |
| 年間肉豚出荷頭数 | → | 頭 | | | |

Q11. 繁殖成績についてお知らせください。

令和元年度の決算期間の総計を記入

| | | |
|--------------------------|---|---|
| 年間種付け頭数(1年間に種付けした母豚の全頭数) | → | 頭 |
| 年間総分娩頭数(1年間に分娩した母豚の全頭数) | → | 頭 |
| 母豚回転数(1母豚あたりの年間平均分娩回数) | → | 頭 |
| 1腹当たり平均産子数(分娩頭数) | → | 頭 |
| 1腹当たり平均哺乳開始頭数 | → | 頭 |
| 1腹当たり平均離乳頭数 | → | 頭 |
| 年間離乳後事故率(事故頭数÷離乳頭数×100) | → | % |

Q12. 肉豚出荷日数、出荷体重、枝肉重量についてお知らせください。

令和元年度の決算期間の総計を記入

| | | | |
|----------------------------|---|----------------------|----|
| 肉豚出荷日齢平均（生後日齢） | → | <input type="text"/> | 日齢 |
| 年間肉豚総出荷生体重（1年間に出荷した肉豚の総体重） | → | <input type="text"/> | kg |
| 年間総枝肉重量（1年間に出荷した枝肉の総重量） | → | <input type="text"/> | kg |

Q13. 肉豚の格付け方法についてお知らせください。（○はいくつでも）

| | | | |
|--|---|----------------------|---|
| 1. 日格協の格付 | → | <input type="text"/> | 頭 |
| 2. 日格協の格付以外（パッカー・ブランド化・協議会などの自主的な格付） | → | <input type="text"/> | 頭 |
| 3. 格付していない（生体販売など） 【格付していない理由下記に】 | | | |
| 4. 格付け方法を把握していない | | | |

Q14. 格付していない理由をお知らせください。

具体的な理由：

Q15. 年間上物率、年間枝肉歩留まり率について教えてください。

年間上物率（格付している豚） % 枝肉歩留まり率 %

Q16. 相対取引の実施状況についてお知らせください。（○はひとつ）

| | | |
|-----------------|---|---|
| 1. 相対取引を実施している | → | 契約枝肉重量： 最低重量 <input type="text"/> kg ~ 最高重量 <input type="text"/> kg |
| 2. 相対取引を実施していない | | |

家畜共済の加入状況と希望する家畜共済についてお伺いします

Q17. 共済加入の有無をお知らせください。（○はひとつ）また、加入されていない方には理由と望ましい共済をお知らせください。

| | | |
|-----------------|---|-----------------------------------|
| 1. 農業共済に加入している | → | Q19. どのような共済が望ましいですか？（○はいくつでも） |
| 2. 農業共済に加入していない | → | Q18. 加入していない理由をお知らせください。（○はいくつでも） |

| | | |
|-------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1. 共済掛金が高い | → | 1. 加入方法、支払額のわかりやすさ |
| 2. 加入方法がわかりにくい | | 2. 共済掛金を低くする |
| 3. 掛金に対して支払額が見合わない | | 3. 哺乳子豚を共済対象に含める |
| 4. その他（具体的に： <input type="text"/> ） | | 4. 補償期間の延長 |
| | | 5. その他（具体的に： <input type="text"/> ） |

交配方法とAIについてお伺いします

Q20. 交配の方法についてお知らせください。(○はひとつ)

| | | | | |
|---|---|--|---|------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 自然交配のみ2. 人工授精のみ3. 自然交配+人工授精の併用 | → | <ol style="list-style-type: none">1. 自然交配 1 回のみ2. 自然交配 2 回3. 自然交配 3 回 | → | Q23へ |
| | → | <ol style="list-style-type: none">1. 人工授精 1 回のみ2. 人工授精 2 回3. 人工授精 3 回 | | |
| | → | <ol style="list-style-type: none">1. 自然交配 1 回+人工授精 1 回2. 自然交配 1 回+人工授精 2 回3. 自然交配 2 回+人工授精 1 回 | | |

右記の回数に当てはまらない場合はご記入ください。

具体的に：

Q21. 【Q20で人工授精をしている方へ】人工授精における深部注入の実施についてお知らせください。(○はひとつ)

| |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 全て深部注入で行っている2. 深部注入と普通の人工授精を併用している3. 深部注入は行っていない4. 深部注入は行っていないが、今後検討したい |
|---|

Q22. 【Q20で人工授精をしている方へ】人工授精における精液の入手方法についてお知らせください。(○はひとつ)

| |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. すべて自家採精2. すべて外部（公的試験場・AIセンター）導入3. 自家採精と外部導入を併用 |
|---|

飼料についてお伺いします

Q23. 飼料の給与形態についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 市販配合飼料のみ (配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む)
2. 市販配合飼料 + 自家配合飼料
3. 自家配合飼料のみ (丸粒トウモロコシ単味飼料やエコフィード等の飼料原料を調達して自ら配合・調整したもの)

Q24. 現在使用している飼料をお知らせください。(○はいくつでも) また、使用飼料の年間使用量をご記入ください。

令和元年度の決算期間の総計を記入

| | | | | | |
|------|-----------------|---|---|---|---|
| 配合飼料 | 1. 配合飼料 | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | |
| | 2. エコフィード利用配合飼料 | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | → うちエコフィードの配合割合 <input style="width: 50px;" type="text"/> % |
| | 3. 飼料用米利用配合飼料 | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | → うち飼料用米の配合割合 <input style="width: 50px;" type="text"/> % |
| 単味飼料 | 4. 飼料用米 | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | 飼料内容を記入 飼料名: <input style="width: 100px;" type="text"/> t 飼料名: <input style="width: 100px;" type="text"/> t 飼料名: <input style="width: 100px;" type="text"/> t 飼料名: <input style="width: 100px;" type="text"/> t |
| | 5. 国産子実用トウモロコシ | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | |
| | 6. エコフィード* | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | |
| | 7. 食品残さ** | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | |
| | 8. その他の単味飼料 | → | <input style="width: 50px;" type="text"/> | t | |

【記入上の注意】

- * エコフィードは、食品工場から排出される食品製造副産物 (パン屑、とうふ粕等)、スーパーやコンビニ等から排出される余剰食品 (賞味期限切れ弁当等)、飲食店等から排出される調理残さ (カット野菜屑等)、農場残さ (規格外野菜等) を原料として、加熱乾燥、発酵、液状化 (リキッド) 等の加工処理により飼料化したものです。
- ** 食品残さ (厨芥残さ) は、家庭や食堂等から出た食べ残し等を回収し、飼料として活用しているものを指しています。
- ※米ぬか、ふすま、油かす、ビートパルプを使用している場合には「その他」に記入願います。
- ※M A米を使用している場合には、「その他」に記入願います。

3と4の方はQ25へ
それ以外の方はQ32へ

Q25. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の今後の利用意向についてお知らせください。(○はひとつ)

| | | |
|---|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 飼料用米の利用を継続・拡大したい (新規利用希望含む) 2. 飼料用米の利用を減らすか中止したい (利用予定がない場合を含む) | → | 希望数量 <input style="width: 80px;" type="text"/> t/年 |
|---|---|--|

Q26. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の利用についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 飼料用米を玄米で使用している
2. 飼料用米を玄米で使用していない (給与形態: もみ・白米・その他 ())

Q27. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の買取価格についてお知らせください。

飼料用米の買取価格 西暦 年 月 時点 円/kg

Q28. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の加工についてお知らせください。(○はひとつ)

| | | |
|--------------------|---|------|
| 1. 飼料用米は自社で加工している | → | Q30へ |
| 2. 飼料用米は自社で加工していない | | |

Q29. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の加工委託・価格についてお知らせください。(○はひとつ)

| | | | | |
|--------------------|---|------|----------------------|------|
| 1. 加工費を買い取り価格に含む | → | 加工費： | <input type="text"/> | 円/kg |
| 2. 加工費を買い取り価格に含まない | → | 加工費： | <input type="text"/> | 円/kg |

Q30. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の仕入れ先をお知らせください。

飼料用米の仕入れ先 都道府県名 ()

Q31. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の輸送について、買取価格に含むか？輸送費の負担についてお伺いします。(各○はひとつ)

| | | | | |
|----------------------|---|------|----------------------|------|
| 1. 輸送費を負担している | → | 輸送費： | <input type="text"/> | 円/kg |
| 2. 飼料用米の輸送費を、負担していない | | | | |

Q32. エコフィードについてお知らせください。(○はいくつでも)

※2021年からの飼養衛生管理基準の施行を見据えた回答をお願いします。

| | | | |
|---|---|---|------|
| 1. エコフィードを加熱し、リキッド（液状）にして給与している | } | → | Q33へ |
| 2. エコフィードを加熱し、ドライ（乾燥状態）にして給与している | | | |
| 3. 加熱の必要のないエコフィードを集め、リキッド（液状）にして給与している。 | | | |
| 4. エコフィードを含む配合飼料として給与している | | | |
| 5. 厨芥残さ(家庭や食堂等から出た食べ残し)等を加熱し給与している | | | |
| 6. 厨芥残さ(家庭や食堂等から出た食べ残し)等をそのまま給与している | | | |
| 7. エコフィードを利用していないが、利用を検討中・利用してみたい | } | → | Q34へ |
| 8. エコフィードを利用しているが、今後利用しないことを検討している | | | |
| 9. エコフィード利用の予定はない | } | → | Q35へ |

Q33. 【Q32で1～6と回答した方へ】エコフィードの入手先についてお知らせください。(○はひとつ)

| | | | | | | |
|------------------------------|---------------------|-------|------------------|----------------------|----------------------|------|
| 1. 自家配合（原料を購入・回収し、自ら加工処理を行う） | → | 製造コスト | リキッド | <input type="text"/> | 円/kg | |
| | | | 乾燥 | <input type="text"/> | 円/kg | |
| | 2. エコフィード製造事業者等から購入 | → | 購入価格 (輸送費を含む) | リキッド | <input type="text"/> | 円/kg |
| | | | | 乾燥 | <input type="text"/> | 円/kg |

Q34. 【Q32で7と回答した方へ】エコフィードを利用するに当たり、課題となっていることをお知らせください。(○はいくつでも)

| | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい | 4. 製造施設や機器の導入に課題がある |
| 2. エコフィードの原料の排出事業者が近隣にない | 5. その他 () |
| 3. エコフィードの飼料設計等調整技術に課題がある | |

経営動向についてお伺いします

Q35. 飼養頭数動向についてお伺いします。

①母豚（子取り用雌豚）の増減について

母豚の増減をお知らせください。（○はひとつ、また増減の頭数をご記入ください。）

| | | |
|---------------|---------|----|
| 1. 母豚を増やした | (増やした頭数 | 頭) |
| 2. 変わらない | | |
| 3. 母豚を減らした | (減らした頭数 | 頭) |
| 4. 母豚を飼育していない | (該当しない) | |

Q36. 母豚増頭の理由について。（○はいくつでも）

| |
|-------------------------|
| 1. 後継者が経営に参加したため |
| 2. 繁殖成績が低下し、出荷頭数を維持するため |
| 3. 収益をアップするため |
| 4. 近隣に土地を購入できたため |
| 5. 出荷先から増頭の依頼があったため |
| 6. 養豚農家減少を見越した投資 |
| 7. 事情があって減頭していたのを戻した |
| 8. その他（具体的に： _____) |

Q37. 母豚減頭の理由について。（○はいくつでも）

| |
|-------------------------|
| 1. 疾病対策などで一時的に減頭している |
| 2. 母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した |
| 3. (飼料など) コスト高騰で規模を縮小した |
| 4. 老齢化で労働が厳しい |
| 5. 従業員等労働力が確保できない |
| 6. 廃業予定 |
| 7. 委託・預託農場になるため |
| 8. 環境対策のため |
| 9. その他（具体的に： _____) |

②肥育豚の増減について

Q38. 肥育豚の増減をお知らせください。（○はひとつ、また増減の頭数をご記入ください。）

| | | |
|----------------|---------|----|
| 1. 肥育豚を増やした | (増やした頭数 | 頭) |
| 2. 変わらない | | |
| 3. 肥育豚を減らした | (減らした頭数 | 頭) |
| 4. 肥育豚を飼育していない | (該当しない) | |

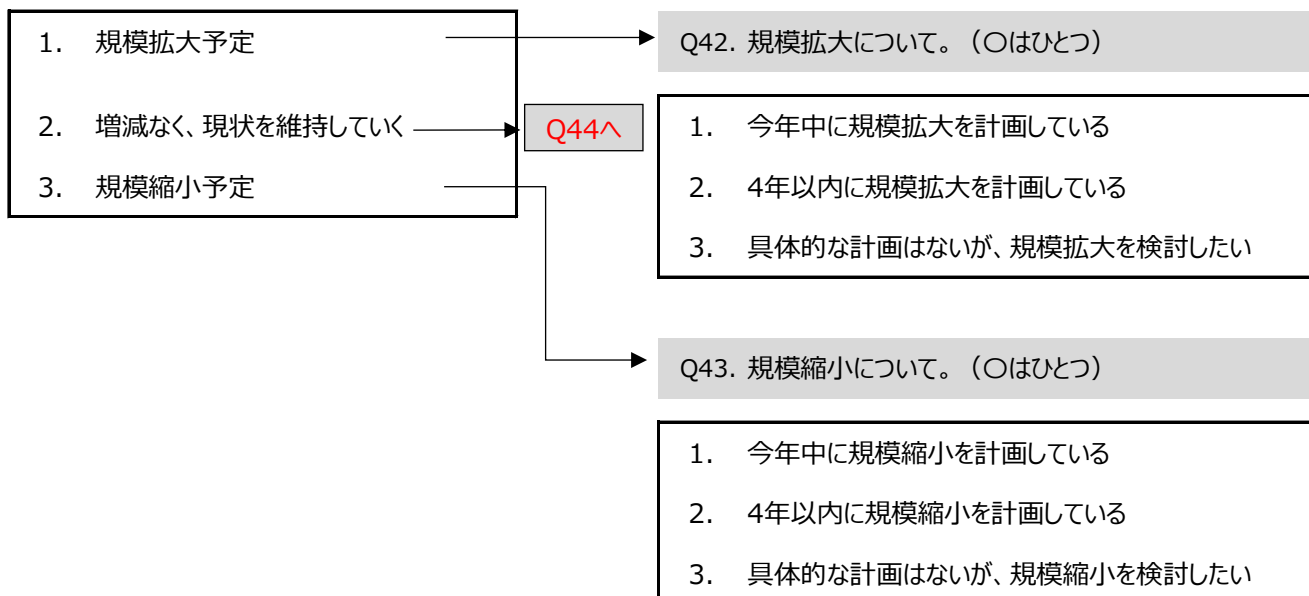
Q39. 肥育豚増頭の理由について。（○はいくつでも）

| |
|-------------------------|
| 1. 後継者が経営に参加したため |
| 2. 繁殖成績が低下し、出荷頭数を維持するため |
| 3. 収益をアップするため |
| 4. 近隣に土地を購入できたため |
| 5. 出荷先から増頭の依頼があったため |
| 6. 養豚農家減少を見越した投資 |
| 7. 事情があって減頭していたのを戻した |
| 8. その他（具体的に： _____) |

Q40. 肥育豚減頭の理由について。（○はいくつでも）

| |
|-------------------------|
| 1. 疾病対策などで一時的に減頭している |
| 2. 母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した |
| 3. (飼料など) コスト高騰で規模を縮小した |
| 4. 老齢化で労働が厳しい |
| 5. 従業員等労働力が確保できない |
| 6. 廃業予定 |
| 7. 委託・預託農場になるため |
| 8. 環境対策のため |
| 9. その他（具体的に： _____) |

Q41. 今後の経営動向についてお知らせください。(〇はひとつ)



衛生管理についてお伺いします

Q44. 飼養衛生管理基準の改正についてお知らせください。(〇はひとつ)

1. 飼養衛生管理基準が改正されたことを知っている
2. 飼養衛生管理基準が改正されたことを知らない

Q45. 飼養衛生管理基準の改正内容の認知についてお知らせください。(〇はひとつ)

1. 改正内容を十分に理解している
2. 改正内容はなんとなく分かる
3. 改正内容が分からない

Q46. 飼養衛生管理基準の改正内容の対応についてお知らせください。(〇はひとつ)

1. 改正内容は自農場で対応できる・対応が完了した
2. 改正内容を元に対応中・対応予定である
3. 改正内容は対応できない

Q47. 実施している衛生管理方法についてお知らせください。（〇はいくつでも）

| | |
|--|---------------------------------|
| 1. 入退場車両の消毒を行っている | 13. シャワーイン・シャワーアウトを行っている |
| 2. 訪問者の台帳を作成している | 14. 農場に入る際は、専用の作業着に着替える |
| 3. 農場周囲を柵等で囲っている | 15. 豚舎ごとに長靴と衣服を変えている |
| 4. 畜舎、堆肥者等に防鳥ネットを設置している | 16. 長靴の靴底の洗浄・消毒を行っている |
| 5. 害虫・害獣対策を行っている | 17. 豚舎出入りに踏み込み消毒槽を設置している |
| 6. 衛生管理区域を設けゾーニングをしている | 18. 手指の洗浄・消毒をしている |
| 7. 畜舎周辺、農場外縁部に石灰を散布している | 19. 飲用水等を消毒している |
| 8. 豚舎間で人や資材が交差しないようにしている | 20. 分娩→離乳→肥育のように、衛生レベルの順に管理している |
| 9. 従業員の担当部署を決め、ほかの豚舎には立ち入らない | 21. 豚を豚舎間で移動する際はケージやリフトを用いている |
| 10. 衛生管理責任者を置いている | 22. 死亡豚はレンダリング処理をしている |
| 11. かかりつけ獣医師、管理獣医師を決めている | 23. オールイン・オールアウトを実施している（全部） |
| 12. ダウンタイム [※] を設けている（具体的に： 時間） | 24. オールイン・オールアウトを実施している（一部） |

※ダウンタイムとは、畜産関係者と会合があった後・他農場へ立ち上がった後などに、自農場に入るまでに設ける待機時間を指します。

環境対策についてお伺いします

Q48. 水質汚濁防止法の特定施設の届け出をしていますか？（〇はひとつ）

| |
|---------------------|
| 1. 届け出をしている |
| 2. 届け出をしていない（不要である） |

Q49. 年1回以上、水質検査をしていますか？（〇はひとつ）

| |
|---------------------|
| 1. 年1回以上、水質検査をしている |
| 2. 年1回以上、水質検査をしていない |

Q50. 水質検査値（1年間に複数回測定している場合は、そのうちの最大値及びその測定月を記入）をお知らせください。

| | | | | | |
|---|----|---|---|----|------|
| 硝酸性窒素等 ^{※1} （暫定排水基準500mg/L、適用期限：2022年6月） | 西暦 | 年 | 月 | 実施 | mg/L |
| 全窒素 ^{※2} （暫定排水基準：130mg/L、適用期限：2023年9月） | 西暦 | 年 | 月 | 実施 | mg/L |
| 全リン ^{※2} （暫定排水基準：22mg/L、適用期限：2023年9月） | 西暦 | 年 | 月 | 実施 | mg/L |

※1 アンモニア、アンモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物（アンモニア性窒素×0.4、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素の合計量）

※2 全窒素及び全リンについては、規制対象地域外の場合は、記入不要です。

※3 暫定排水基準は、段階的に引き下げられています。将来的には一般排水基準となる可能性があります。その可能性を念頭においた施設の整備・管理が必要です。

※4 一般排水基準（硝酸性窒素等：100mg/L、全窒素：120mg/L、全リン：16mg/L）

豚熱ワクチンについてお伺いします

Q59. 豚熱ワクチンの接種状況についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 接種している → 現在の接種価格 円/頭

2. 接種していない

Q60. 豚熱ワクチンの接種価格について (○はひとつ)

1. 妥当
2. 高い
3. 安い
4. その他 ()

Q61. 豚熱ワクチンの接種について (○はひとつ)

1. 接種範囲に指定されればしたい
2. 接種範囲に指定されなくてもしたい
3. 接種したくない

Q62. 地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響をお知らせください。(○はいくつでも)

1. 肉豚出荷に影響があった
2. 子豚販売に影響があった
3. 種豚販売に影響があった
4. 精液販売に影響があった
5. 種豚購入に影響があった
6. 精液購入に影響があった
7. 肥育素豚購入に影響があった
8. 県をまたぐ自社内での農場移動(繁殖農場→肥育農場等)に影響があった
9. その他 ()

Q63. 豚熱ワクチンの接種に対する考え方をお知らせください。(○はひとつ)

1. 現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い
2. 全国で接種すべきである

最後に、ご意見・ご要望などおきかせください

Q64. ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。

養豚農業実態調査報告書
令和2年度

令和3年3月31日 発行

発行所 一般社団法人 日本養豚協会(JPPA)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2階

電話 03-3370-5473 FAX 03-3370-7937

印刷所 株式会社アイキ

禁無断転載